

324
N684m
法令



民法

附錄
法

例

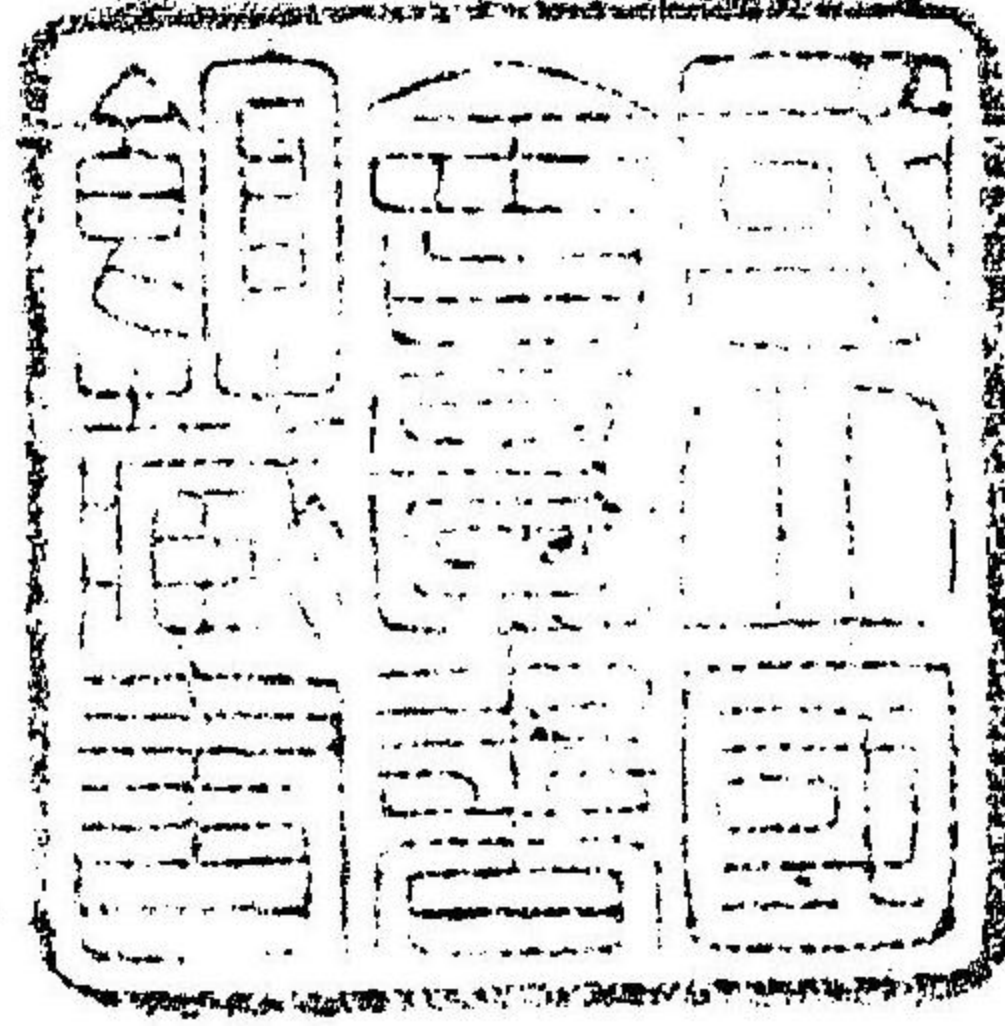
人 事 編
財 產 編
財 產 取 得 編
債 權 擔 保 編
證 據 編

324.N689m

民法人事編目錄

- 第一章 私權ノ享有及ヒ行使
- 第二章 國民分限
 - 第一節 國民分限ノ取得
 - 第二節 國民分限ノ喪失及ヒ回復
 - 第三節 國民分限變更ノ方式及ヒ效力
- 第三章 親屬及ヒ姻屬
- 第四章 婚姻
 - 第一節 婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件
 - 第二節 婚姻ノ儀式
 - 第三節 日本人外國ニ於テ爲シ及ヒ外國人日本ニ於テ爲ス婚姻
 - 第四節 婚姻成立ノ證據
 - 第五節 婚姻ノ不成立及ヒ無効
 - 第六節 婚姻ノ效力
 - 第七節 罰則
- 第五章 離婚
 - 第一節 協議ノ離婚

- 第二節 特定原因ノ離婚
 - 第一款 離婚及ヒ不受理ノ原因
 - 第二款 假處分
 - 第三款 離婚ノ訴
- 第六章 親子
 - 第一節 親子ノ分限ノ證據
 - 第二節 否認訴權
 - 第三節 庶子及ヒ私生子ノ適出子ト爲ル權
- 第七章 養子縁組
 - 第一節 養子縁組ニ必要ナル條件
 - 第二節 養子縁組ノ儀式
 - 第三節 養子縁組ノ證據
 - 第四節 養子縁組ノ不成立及ヒ無効
 - 第五節 養子縁組ノ效力
 - 第六節 罰則
- 第八章 養子ノ離縁
 - 第一節 協議ノ離縁



336995

- 第一節 協議ノ離縁
- 第二節 特定原因ノ離縁
- 第三節 離縁ノ效力
- 第九章 親權
- 第一節 子ノ身上ニ對スル權
- 第二節 子ノ財産ノ管理
- 第三節 嫡母、繼父及ヒ繼母ニ特別ナル規則
- 第十章 後見
- 總則
- 第一節 後見人
- 第二節 後見監督人
- 第三節 親族會
- 第四節 後見ノ免除
- 第五節 後見人及ヒ親族會員ノ缺格、除斥及ヒ罷黜
- 第六節 後見人ノ管理
- 第七節 後見監督人ノ任務

- 第八節 後見ノ終了
- 第九節 後見ノ計算
- 第十一章 自治産
- 第十二章 禁治産
- 第一節 民事上禁治産
- 第二節 准禁治産
- 第三節 刑事上禁治産
- 第四節 癡癲者ノ財産ノ假管理
- 第十三章 戸主及ヒ家族
- 第十四章 住所
- 第十五章 失踪
- 第一節 失踪ノ推定
- 第二節 失踪ノ宣言
- 第三節 失踪宣言ノ效力
- 第四節 失踪ノ推定及宣言ニ關スル通則
- 第五節 不在者ニ關スル規則
- 第十六章 身分ニ關スル證書

民法人事編

第一章 私權ノ享有及行使

- 第一條 凡ソ人ハ私權ヲ享有シ法律ニ定メタル無能力者ニ非サル限りハ自ラ其私權ヲ行使スルコトヲ得
- 第二條 胎内ノ子ト雖モ其利益ヲ保護スルニ付テハ既ニ生レタル者ト看做ス
- 第三條 私權ノ行使ニ關スル成年ハ滿二十年トス但法律ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラズ
- 第四條 外國人ハ法律又ハ條約ニ禁止アルモノヲ除ク外私權ヲ享有ス
- 第五條 法人ハ公私ヲ問ハス法律ノ認許スルニ非サレハ成立スルコトヲ得ス又法律ノ規定ニ從フニ非サレハ私權ヲ享有スルコトヲ得ス
- 第六條 法律ハ外國法人ノ成立ヲ認許セス但條約又ハ特許アルトキハ此限ニ在ラズ
- 成立ノ認許ヲ得タル外國法人ハ日本ニ成立ス

ル同種ノ者ト同一ノ私權ヲ享有ス但條約中又ハ特許中ニ其權利ヲ制限シタルトキハ此限ニ在ラズ

第二章 國民分限

第一節 國民分限ノ取得

- 第七條 日本人ノ子ハ外國ニ於テ生マレタルトキト雖モ日本人トス
- 父母分限ヲ異ニスルトキハ父ノ分限ヲ以テ子ノ分限ヲ定ム
- 父ノ知レサルトキハ子ハ母ノ分限ニ從フ
- 父母共ニ知レサルトキハ日本ニ於テ生マレタル子ハ日本人トス若シ其出生地ノ知レサルトキハ現ニ日本國內ニ在ル者ハ日本人トス
- 第八條 左ノ場合中ノ一ニ在ル子ハ日本人ノ分限ヲ選擇スルコトヲ得
- 第一 父カ外國人タルモ母ノ日本人タルトキ
- 第二 外國人ノ子タルモ日本ニ生マレタル

キ

第三 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ子ニシテ其分限喪失ノ後ニ生マレタル者ナルト

第四 歸化人ノ子ニシテ成年者ナルトキ

第九條 日本人ノ分限ヲ選擇セント欲スル子ハ本國法律ニ從ヒテ成年ニ至リシ時ヨリ一个年内ニ其意思ヲ申述シ且其申述ヨリ一个年内ニ住所ヲ日本ニ定ム可シ

第十條 日本人ト婚姻スル外國ノ女ハ日本人ノ分限ヲ取得シ婚姻解消ノ後ト雖モ其分限ヲ保有ス

第十一條 外國人ハ歸化ニ因リテ日本人ノ分限ヲ取得スルコトヲ得其條件及ヒ方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第十二條 日本人ハ左ノ場合ニ於テ其分限ヲ失フ

第十三條 前條ノ場合ニ於テ日本人ノ分限ヲ失ヒタル者其分限ヲ回復セント欲スルトキハ日本政府ノ允許ヲ得タル上歸國シテ其意思ヲ申述シ且一个年内ニ住所ヲ日本ニ定ムルキハ其分限ヲ回復ス

第十四條 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ引續キ日本ニ住居スルニ非サレハ日本人ノ分限ヲ失フ但婦ハ第十五條第二項ノ規定ニ從ヒ及未成年ノ子ハ第九條第一項ノ規定ニ從ヒ其分限ヲ回復スルコトヲ得

第十五條 外國人ト婚姻スル日本ノ女ハ日本人ノ分限ヲ失フ

第十六條 國民分限ノ變更ニ關スル申述ハ日本ニ在リテハ住居地ノ身分取扱吏ニ外國ニ在リテハ日本公使館又ハ日本領事館ニ之ヲ爲ス可シ

第十七條 國民分限ノ變更ハ將來ニ非サレハ其效力ヲ生セス

第十八條 國民分限ハ出生ノ時ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ懷胎ヨリ出生マテノ間父及ハ母ノ分限ニ變更アリタルトキハ子ハ日本ニ住居スル

四

歸化人ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ日本ニ住居ヲ定メタルトキハ日本人ノ分限ヲ取得ス

第二節 國民分限ノ喪失及ヒ回復

第十二條 日本人ハ左ノ場合ニ於テ其分限ヲ失フ

第一 任意ニ外國人ノ分限ヲ取得シタルトキ

第二 日本政府ノ允許ヲクシテ外國政府ノ官職ヲ受ケ又ハ外國ノ軍隊ニ入りタルトキ

第十三條 前條ノ場合ニ於テ日本人ノ分限ヲ失ヒタル者其分限ヲ回復セント欲スルトキハ日本政府ノ允許ヲ得タル上歸國シテ其意思ヲ申述シ且一个年内ニ住所ヲ日本ニ定ムルキハ其分限ヲ回復ス

第十四條 日本人ノ分限ヲ失ヒタル者ノ婦及ヒ未成年ノ子ハ引續キ日本ニ住居スルニ非サレハ日本人ノ分限ヲ失フ但婦ハ第十五條第二項ノ規定ニ從ヒ及未成年ノ子ハ第九條第一項ノ規定ニ從ヒ其分限ヲ回復スルコトヲ得

第十五條 外國人ト婚姻スル日本ノ女ハ日本人ノ分限ヲ失フ

第十六條 國民分限ノ變更ニ關スル申述ハ日本ニ在リテハ住居地ノ身分取扱吏ニ外國ニ在リテハ日本公使館又ハ日本領事館ニ之ヲ爲ス可シ

第十七條 國民分限ノ變更ハ將來ニ非サレハ其效力ヲ生セス

第十八條 國民分限ハ出生ノ時ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ懷胎ヨリ出生マテノ間父及ハ母ノ分限ニ變更アリタルトキハ子ハ日本ニ住居スル

第十九條 親屬トハ血統ノ相聯結スル者ノ關係ヲ謂フ

第二十條 親屬ノ遠近ハ世數ヲ以テ之ヲ定メ一世ヲ以テ一親等トス

第二十一條 直系ニ於テハ親族ノ世數ヲ算シテ親等ヲ定ム

五

傍系ニ於テハ親族ノ一人ヨリ同始祖ニ遡リ又其始祖ヨリ他ノ一人ニ下タル其間ノ世數ヲ算シテ親等ヲ定ム

第二十二條 養子縁組ハ養子ト養父母及ヒ其親族トノ間ニ親屬ニ同シキ關係ヲ生ス但養子トハ男女ヲ總稱ス

第二十三條 嫡母、繼父又ハ繼母ト其配偶者ノ子トノ關係ハ親子ニ準ス

第二十四條 姻屬トハ婚姻ニ因リテ夫婦ノ一方ト其配偶者ノ親族トノ間ニ生スル關係ヲ謂フ然レトモ婦ノ夫家ニ於ケル又入夫ノ婦家ニ於ケル尊屬親トノ關係ハ親屬ニ準ス

第二十五條 夫婦ノ一方ノ親族ハ其親系及ヒ親等ニ於テ配偶者ノ姻族トス

第二十六條 直系ノ親族ハ相互ニ養料ヲ給スル義務ヲ負擔ス

嫡母、繼父又ハ繼母ト其配偶者ノ子トノ間及ヒ婦又ハ入夫ト夫家又ハ婦家ノ尊屬親トノ間モ亦同シ

第二十七條 兄弟姉妹ノ間ニハ疾病其他本人ノ責ニ歸セサル事故ニ因リテ自ラ生活スル能ハサル場合ニ限り相互ニ養料ヲ給スル義務アリ

第二十八條 養料ノ義務ヲ負擔ス可キ者ノ順位ハ左ノ如シ

第一 第二十六條ニ掲ケタル者

第二 兄弟姉妹

直系ノ親族ノ間ハ其親等ノ最モ近キ者養料ノ義務ヲ負擔ス

第二十九條 養料ハ之ヲ受ク可キ者ノ必需ト之ヲ給ス可キ者ノ資産トニ應シテ其額ヲ定ム

第四章 婚姻

第一節 婚姻ヲ爲スニ必要ナル條件

第三十條 男ハ滿十七年女ハ滿十五年ニ至ラザレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 配偶者アル者ハ重テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 夫ノ失踪ニ原因スル離婚ノ場合ヲ

除ク外女ハ前婚解消ノ後六个月内ニ再婚ヲ爲スコトヲ得ス

此制禁ハ其分娩シタル日ヨリ止ム

第三十三條 姦通ノ原因ニ由リテ離婚ノ裁判ヲ言渡サレタル曲者ハ相姦者ト婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 直系ニ於テハ尊屬親ト卑屬親トノ間婚姻ヲ禁ス

第三十五條 傍系ニ於テハ兄弟姉妹及ヒ伯叔父姑甥姪ノ間婚姻ヲ禁ス

第三十六條 直系ノ姻族ノ間ハ其關係ノ止ミタル後ト雖モ婚姻ヲ禁ス

第三十七條 養子ト養父母又ハ其尊屬親トノ間及ヒ養父母又ハ其尊屬親ト養子ノ配偶者又ハ其卑屬親トノ間ハ離縁ノ後ト雖モ婚姻ヲ禁ス

第三十八條 子ハ父母ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ス

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハ

サルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

繼父又ハ繼母アル場合ニ於テ其配偶者タル母又ハ父ノ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサル

トキハ繼父又ハ繼母ノ許諾ヲ受ク可シ其許諾ニ付テハ第九章第三節ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ク可シ

祖父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

第四十條 父母、祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ滿二十年ニ至ラサル者ニ限り後見人ノ許諾ヲ受ク可シ

第四十一條 父母ノ知レサル子ハ二十年未滿ニ限り後見人ノ許諾ヲ受ク可シ

第四十二條 育児院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ婚姻ハ二十年未滿ニ限り院長ノ許諾ヲ受ク可シ

七

第二節 婚姻ノ儀式

第四十三條 婚姻ノ儀式ハ當事者ノ一方ノ住所又ハ居所ノ地ニ於テ之ヲ行フ可シ

雙方ハ婚姻ノ儀式ヲ行フ前ニ其地ノ身分取扱吏ニ婚姻ヲ爲サントスル申出ヲ爲スコトヲ要ス但此申出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 雙方ハ前條ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ左ノ書類ヲ差出タス可シ

- 第一 出生證書
- 第二 前婚ノ解消ヲ證スル證書
- 第三 婚姻ニ必要ナル許諾書又ハ其許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第四十五條 雙方又ハ一方カ出生證書ヲ呈示スル能ハサルトキハ出生地、住所又ハ居所ノ區裁判所ノ授付シタル保證書ヲ以テ出生證書ニ代用スルコトヲ得

申述ヲ記載ス

第一 本人ノ氏名、職業、住所及ヒ居所并ニ其父母分明ナルトキハ其氏名、職業、住所及ヒ居所

第二 本人ノ出生ノ地及ヒ年月日

第三 本人ノ出生證書ヲ呈示スル能ハサル原因及ヒ證人ノ其實事ヲ聞知シタル緣由

第四十六條 身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式ヲ行フ障礙ト爲ル可キ法律上ノ原因アルコトヲ知リタルトキハ其儀式ヲ行フコトヲ差止ム可シ

此場合ニ於テハ身分取扱吏ハ理由ヲ記シタル差止書ヲ授付ス可シ

當事者此差止ヲ不當ナリト思料スルトキハ區裁判所ニ抗告シテ其取消ヲ求ムルコトヲ得

裁判所ハ休暇事件ト同シク之ヲ取扱フ可シ

第四十八條 婚姻ノ儀式ハ其申出ノ日ヨリ三日後三十日內ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第四十九條 婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルトキハ雙方ヨリ十日內ニ身分取扱吏ニ其届出ヲ爲ス可シ但此届出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三節 日本人外國ニ於テ爲シ及ヒ外國人日本ニ於テ爲ス婚姻

第五十條 外國ニ於テ日本人ノ間又ハ日本人ト外國人トノ間ニ婚姻ヲ爲ストキハ其國ノ規則ニ從ヒテ儀式ヲ行フコトヲ得但本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス

第五十一條 外國ニ於テ日本人ノ間ニ日本ノ規則ニ從ヒテ婚姻ヲ爲ストキハ其國ニ在ル日本公使館又ハ日本領事館ニ婚姻ノ申出ヲ爲スコトヲ要ス

婚姻ノ儀式ヲ行ヒタルトキハ第四十九條ノ規定ニ從ヒテ其届出ヲ爲ス可シ

第五十二條 日本ニ於テ外國人カ婚姻ヲ爲サン

トスルトキハ其能力ハ本國ノ法律ニ從フ但第三十一條乃至第三十七條ノ條件ニ違背セサルコトヲ要ス

外國人ハ婚姻ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ婚姻ヲ爲スニ障礙ナキコトヲ證スル本國相當官署ノ認定書ヲ差出タス可シ

第四節 婚姻成立ノ證據

第五十三條 婚姻成立ノ證據ハ婚姻證書ヲ以テ之ヲ舉ク可シ但第二百九十一條ニ規定スルモノハ此限ニ在ラス

第五十四條 婚姻證書ヲ増減シ毀棄シ隱匿シ又ハ片紙ニ記載シタル場合ニ於テ刑事又ハ民事ノ訴訟ニ因リテ婚姻ノ成立ヲ認メタル判決ハ之ヲ婚姻證書ニ代用スルコトヲ得

第五節 婚姻ノ不成立及ヒ無効

第五十五條 人違、喪心又ハ強暴ニ因リテ雙方又ハ一方ノ承諾ヲ全ク欠缺シタル婚姻ハ不成立トス

第三十四條乃至第三十七條ノ規定ニ違ヒテ爲シタル婚姻モ亦不成立トス

婚姻ノ不成立ハ何人ニ限ラス何時ニテモ之ヲ申立ツルコトヲ得

第五十六條 第三十條、第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ニ違ヒテ婚姻ヲ爲シタルトキハ雙方、尊屬親又ハ現實ノ利益ヲ有スル者ヨリ何時ニテモ其無効ヲ請求スルコトヲ得

右同一ノ場合ニ於テ檢事ハ夫婦ノ生存中ニ限リ職權ヲ以テ婚姻ノ無効ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 不適當ニ付キ無効ヲ請求スル權利ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 第一 適當ナラザリシ者カ適當ニ至レル後明示ニテ婚姻ヲ認諾シ又ハ三個月ヲ過キタルトキ
- 第二 無効ノ請求後ト雖モ婦カ適當ナラスシテ婦ノ懐胎シタルトキ
- 第三 夫カ適當ナラスシテ婦ノ懐胎シタル

トキ但婦ノ姦通ヲ證スルトキハ格別ナリトス

第五十八條 重婚ニ原因スル婚姻無効ノ請求アリタル場合ニ於テ後婚ノ變方カ前婚ノ不成立、無効又ハ離婚ヲ主張スルトキハ先ツ其裁判ヲ爲ス可シ

前婚ノ配偶者カ失踪シタルトキハ其失踪中ハ重婚ノ無効訴權ヲ行フコトヲ得ス

第五十九條 左ノ場合ニ於テハ婚姻ハ無効トス

- 第一 身分取扱吏ニ婚姻ノ申出ヲ爲サス又ハ其差止ヲ受ケタルニ拘ハラズ儀式ヲ行ヒタルトキ
- 第二 身分取扱吏ノ管轄違ヒナルトキ
- 第三 第四十八條ノ規定ニ違ヒテ儀式ヲ行ヒタルトキ
- 第四 證人二人ノ立會ナクシテ儀式ヲ行ヒタルトキ

此無効ハ第五十六條ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

求スルコトヲ得但婚姻儀式後一ヶ月ヲ過キタルトキハ無効訴權ヲ行フコトヲ得ス

第六十條 第三十八條乃至第四十二條ニ定メタル許諾ナクシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ其許諾ヲ與フヘキ者又ハ之ヲ受ク可キ者ヨリ其無効ヲ請求スルコトヲ得

許諾アリタル場合ト雖モ其許諾カ強暴ニ原因シタルトキモ亦同シ

第六十一條 前條ノ場合ニ於テ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ者カ婚姻ヲ認諾セスシテ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ法律ニ定メタル順位ニ從ヒテ其許諾ヲ與フ可キ者ハ無効訴權ヲ行フコトヲ得

第六十二條 第六十條ニ掲ケタル無効訴權ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 第一 婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ者カ認諾ヲ爲シ又ハ婚姻アリタルコトヲ知リシ後三ヶ月ヲ過キタルトキ

第二 三個月内ト雖モ許諾ヲ受ク可キ者カ婚姻上ノ成年ニ至リ又ハ死亡シタルトキ

第六十三條 強暴ニ因リテ承諾ニ瑕疵アル婚姻ノ無効ハ強暴ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得

第六十四條 前條ノ場合ニ於テ配偶者強暴ヲ免カレタル後明示ニテ認諾シ又ハ三個月間引續キ同居シタルトキハ婚姻ノ無効ヲ請求スルコトヲ得ス其同居セサル場合ニ於テモ無効訴權ハ一ヶ月ヲ以テ消滅ス

第六十五條 裁判所ハ婚姻ノ不成立又ハ無効ノ訴訟中夫婦ノ一方ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ婦又ハ夫ニ住家ヲ去ル可キヲ命スルコトヲ得

第六十六條 無効ノ言渡アリタル婚姻ハ子ニ付テハ其出生ノ婚姻前後ナルヲ問ハズ法律上ノ效力ヲ生ス

第六十七條 婚姻ハ其儀式ヲ行ヒタル日ヨリ効力ヲ生ス但夫婦財産契約ニ付テハ婚姻ノ届出後ニ非サレハ第三者ニ對シテ婚姻ノ效力ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十八條 婦ハ夫ノ許可ヲ得ルニ非サレハ贈與ヲ爲シ之ヲ受諾シ不動産ヲ讓渡シ之ヲ擔保ニ供シ借財ヲ爲シ債權ヲ讓渡シ之ヲ質入シ元本ヲ領收シ保證ヲ約シ及ヒ身體ニ羈絆ヲ受クル約束ヲ爲スコトヲ得ス又和解ヲ爲シ仲裁ヲ受ケ及ヒ訴訟ヲ起スコトヲ得ス

第六十九條 夫ノ許可ハ特定又ハ總括ナルコトヲ得但總括ノ許可ハ證書ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ要ス

夫ハ夫婦財産契約ニ依リテ與ヘタル總括ノ許可ト雖モ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第七十條 左ノ場合ニ於テハ婦ハ夫ノ許可ヲ得ルコトヲ要セス

第一 夫カ失踪ノ推定ヲ受ケタルトキ

第七十四條 婚姻申出ノ時ニ必要ノ書類ヲ差出タサシメサル身分取扱吏ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ過料ニ處ス

第七十五條 婚姻ノ不成立又ハ無効タル可キ法律上ノ原因アルヲ知リテ其儀式ヲ行フコトヲ差止メサル身分取扱吏ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十六條 第三十二條ノ制禁ニ違背シテ再婚ヲ爲シタル婦ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其情ヲ知リテ婚姻ヲ爲シタル夫及ヒ婚姻ノ儀式ヲ行フコトヲ差止メサル身分取扱吏モ亦同シ

第七十七條 夫婦ノ一方ニシテ婚姻ノ無効ヲ致シタル原因ヲ知リ之ヲ他ノ一方ニ隱秘シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 離婚

第一節 協議ノ離婚

第七十八條 夫婦ハ下ニ定メタル條件及ヒ方式

第二 夫カ禁治産又ハ准禁治産ヲ受ケタルトキ

第三 夫カ瘋癲ノ爲メ病院又ハ監置ニ在ルトキ

第七十一條 夫ハ婦ニ與ヘタル許可ニ因リテ義務ヲ負擔セス

第七十二條 夫ノ許可ヲ得スシテ婦ノ爲シタル行爲ハ之ヲ銷除スルコトヲ得 此銷除ハ夫婦ノ各自及ヒ婦ノ承繼人ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第七十三條 夫ニ屬スル銷除訴權ハ其銷除シ得ヘキ行爲ヲ知リタル日ヨリ五個年ノ時効ニ因リ又ハ婚姻ノ解消ニ因リテ消滅ス

婦及ヒ其承繼ニ屬スル銷除訴權ハ婚姻解消ノ日ヨリ五個年ノ時効ニ因リテ消滅ス 財産編第五百四十四條以下ノ規定ハ本條ノ銷除訴權ニ之ヲ適用ス

第七節 罰則

ニ從ヒ協議ヲ以テ離婚ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 離婚セントスル夫婦ハ婚姻許諾ノ爲メ第四章第一節ニ定メタル規則ニ從ヒ各其父母、祖父母又ハ後見人ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス

第八十條 夫婦ハ離婚協議書ニ左ノ書類ヲ添ヘテ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第一 婚姻證書

第二 離婚ノ許諾ヲ與フ可キ者ノ許諾書若シ其者死亡シ又ハ意思ヲ表スル能ハサルトキハ死亡證書又ハ其事由ヲ證スル書類

第二節 特定原因ノ離婚

第八十一條 離婚ハ左ノ原因アルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一 姦通但夫ノ姦通ハ刑ニ處セラレタル場合ニ限ル

第二 同居ニ堪ヘサル暴虐、脅迫及ヒ重大

ノ侮辱

第三 重罪ニ因レル處刑

第四 竊盜、詐欺取財又ハ猥褻ノ罪ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑

第五 惡意ノ遺棄

第六 失踪ノ宣言

第七 婦又ハ入夫ヨリ其家ノ尊屬親ニ對シ又ハ尊屬親ヨリ婦又ハ入夫ニ對スル暴虐、脅迫及ヒ重大ノ侮辱

第八十二條 離婚ノ請求ヲ爲ス一方ニ對シテ離婚ノ原因存スルトキハ他ノ一方モ反訴ヲ以テ離婚ヲ請求スルコトヲ得

然レトモ前條第三號及ヒ第四號ニ記載スル重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル一方ハ他ノ一方ノ處刑ヲ原因トシテ離婚ヲ請求スルコトヲ得ス

第二款 假處分

第八十三條 離婚ノ訴訟中子ノ監護ハ原告又ハ

第八十六條 裁判所ハ住家ヲ去ル婦又ハ夫ノ請求ニ因リ其財産ヲ保存スル爲メニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第三款 離婚ノ訴

第八十七條 離婚ヲ請求スル訴權ハ夫婦ノミニ屬ス

第八十八條 離婚ノ原因ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證ス可シ但シ自白ノミヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得ス又卑屬親ヲ除ク外親族、姻族又ハ雇人ニ關スル忌避ノ規定ヲ通用セス

第三節 離婚ノ效力

第八十九條 離婚ハ其届出又ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第九十條 離婚ノ後子ノ監護ハ夫ニ屬ス但シ入夫及ヒ婿養子ニ付テハ婦ニ屬ス

然レハ裁判所ハ夫、婦、親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ子ノ利益ヲ慮リテ之ヲ他ノ一方又ハ第三者ノ監護ニ付スルコトヲ得

十四

被告タルヲ問ハス夫ニ屬ス但入夫及ヒ婿養子ニ付テハ婦ニ屬ス

然レトモ裁判所ハ夫、婦、親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ子ノ利益ヲ慮リテ其監護ヲ他ノ一方又ハ第三者ニ命スルコトヲ得

第八十四條 離婚ノ訴訟中婦ハ原告又ハ被告タルヲ問ハス裁判所ノ許可ヲ得テ住家ヲ去ルコトヲ得此場合ニ於テハ自己ノ衣服其他ノ日用品ヲ持去リ且必要アルトキハ養料ヲ請求スルコトヲ得

裁判所ハ夫ノ意見ヲ聽キテ婦ノ移居ス可キ家居ヲ指示スルコトヲ要ス若シ婦カ正當ノ理由ナクシテ其家居ヲ去ルトキハ夫ハ養料ヲ拒ムコトヲ得

第八十五條 入夫及ヒ婿養子ニ付テハ裁判所ハ離婚ノ訴訟中夫ヲシテ住家ヲ去ラシムルコトヲ得此場合ニ於テハ前條第一項ノ規定ヲ適用ス

第六章 親子

第一節 親子ノ分限ノ證據

第九十一條 婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子トス

婚姻ノ儀式ヨリ百八十日後又ハ夫ノ死亡若クハ離婚ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス

第九十二條 嫡出子ハ出生證書ヲ以テ之ヲ證ス
第九十三條 出生證書ヲ呈示スル能ハサルトキハ親子ノ分限ハ嫡出子タル身分ノ占有ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得但第二百九十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十四條 身分ノ占有トハ夫婦ト其婚姻ニ因リテ生マレタリト主張スル者トノ間其者ノ出生ノ時ヨリ親子ノ分限ヲ證スルニ足ル可キ事實ノ湊合スルヲ謂フ其事實ノ著明ナルモノ左ノ如シ

第一 子ナリト主張スル者カ常ニ其父ナリ

トスル者ノ氏ヲ稱シタルコト

第二 子ナリト主張スル者カ常ニ其父母ナ

リトスル者ヨリ嫡出子ノ如ク取扱ハレ
其養育、教育ヲ受ケタルコト

第三 子ナリト主張スル者カ常ニ親族及ヒ
世上ニ於テ嫡出子ト認メラレタルコト

第九十五條 庶子ハ父ノ届出ニ基ク出生證書ヲ
以テ之ヲ證ス但身分ノ占有ニ關スル規定ヲ適
用ス

第九十六條 父ノ知レサル子ハ私生子トス

第九十七條 私生子ハ出生證書ヲ以テ之ヲ證ス
但身分ノ占有ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十八條 私生子ハ父之ヲ認知スルニ因リテ
庶子ト爲ル

第九十九條 庶子ノ出生届及ヒ認知ハ父自ラ身
分取扱吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス未成年者ト雖
モ自ラ之ヲ爲スコトヲ得

第二節 否認訴權

第一百條 否認訴權ハ夫ノミニ屬ス但子ノ出生後

ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第一百一條 夫カ民事上ノ禁治産ヲ受ケタルトキ
ハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得
テ否認訴權ヲ行フコトヲ得

第一百二條 夫カ子ノ出生ノ場所ニ在ルトキハ出
生ヨリ三ヶ月ノ期間内ニ限リ否認訴權ヲ行フ
コトヲ得但夫カ婦ト住家ヲ異ニシ又ハ婦カ子
ノ出生ヲ夫ニ隱秘シタルトキハ此期間ハ子ノ
出生ヲ知リタル日ヨリ起算ス

若シ夫カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ訴權ノ期間ヲ
四ヶ月トシ子ノ出生ヲ知リタル日ヨリ起算ス

第三節 庶子及ヒ私生子ノ嫡出子ト爲ル
權

第一百三條 庶子ハ父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子ト
爲ル

私生子ハ父母ノ婚姻ノ後父ノ認知シタルニ因
リテ嫡出子ト爲ル

第一百四條 死亡シタル子ト雖モ前條ノ規定ニ依

リ嫡出子ト爲ル此場合ニ於テハ其效力ハ子ノ
生ミタル子ヲ利ス

第一百五條 父母ノ婚姻ノ時マテニ父子ノ分限確
定シタル者ハ婚姻ノ日ヨリ又婚姻ノ後ニ確定
シタル者ハ確定ノ日ヨリ嫡出子ノ權利ヲ有ス

第七章 養子縁組

第一節 養子縁組ニ必要ナル條件

第一百六條 何人ト雖モ養子ト爲ル可キ者ヨリ年
長ニシテ成年ナルニ非サレハ養子ヲ爲スコト
ヲ得ス

遺言ヲ爲ス能力アル者ハ遺言養子ヲ爲スコト
ヲ得

第一百七條 家督相續ヲ爲スコキ男子アル者ハ養
子ヲ爲スコトヲ得ス

第一百八條 行後見人ハ管理ノ計算ヲ爲ササル前
ニ被後見人ヲ養子ト爲スコトヲ得ス但遺言養
子ト爲スハ此限ニ在ラス

第一百九條 戸主ニ非サル者ハ養子ヲ爲スコトヲ

得ス但推定家督相續人ニシテ戸主ノ許諾ヲ得
タル者ハ此限ニ在ラス

第一百十條 配偶者アル者ハ其配偶者ノ承諾ヲ得
ルニ非サレハ養子ヲ爲スコトヲ得ス但配偶者カ
其意思ヲ表スル能ハサルハ此限ニ在ラス
配偶者アル者ハ其配偶者ト一致スルニ非サレ
ハ養子ト爲ルコトヲ得ス

第一百十一條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル
者ハ他人ノ養子ト爲ルコトヲ得ス

又推定家督相續人ハ他人ノ養子ト爲ルコトヲ
得ス

然レトモ分家ヨリ本家ヲ承繼スル必要アルト
キハ本條ノ規定ヲ適用セス

第一百十二條 外國人ハ日本ノ養子ト爲ルコトヲ
得ス

第二節 養子縁組ノ儀式

第一百十三條 養子縁組ハ當事者ノ承諾ニ因リテ

成ル

此承諾ハ證人二人ノ立會ヲ得テ慣習ニ從ヒ縁組ノ儀式ヲ行フニ因リテ成立ス

縁組ノ儀式ヲ行フニ付テハ第四十三條、第四十六條及ヒ第四十八條ノ規定ヲ適用ス

第百十四條 當事者ハ身分取扱吏ニ縁組ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ左ノ書類ヲ差出ス可シ

第一 養子ヲナス者及ヒ養子ト爲ル者ノ出生證書又ハ之ニ代用スル保證書

第二 家督相續ヲ爲ス可キ男子ナキコトヲ證スル身分取扱吏ノ認定書又ハ推定家督相續人廢除ノ證書

第三 配偶者ノ承諾書又ハ承諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第四 後見管理ノ計算ヲ爲シタル證明書

第五 縁組ニ必要ナル許諾書又ハ許諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル證書

第百十五條 滿十五年ニ至ラサル子ノ縁組ハ父

限リ前二條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒ後見人之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フ

第百十八條 私生子ノ養子縁組ニ付テハ母之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フ

父母ノ知レサル子ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用ス

第百十九條 前數條ノ場合ニ於テ繼父又ハ繼母アルトキハ第三十八條第三項ノ規定ヲ適用ス

第百二十條 育兒院ニ在リテ父母ノ知レサル子ノ縁組ハ二十年未滿ニ限リ第百十五條及ヒ第百十六條ニ定メタル年齢ノ區別ニ從ヒテ院長之ヲ承諾シ又ハ其許諾ヲ與フルコトヲ得

第百二十一條 婚養子縁組ニ付テハ婚姻ノ申出ヲ爲ス時ニ於テ當事者ハ婚養子縁組ヲ爲スノ意思ヲ身分取扱吏ニ申出ツ可シ

此縁組ニ必要ナル條件ノ欠缺スルトキハ身分取扱吏ハ婚姻ノ儀式ヲ差止ムルコトヲ得

此縁組ハ婚姻ノ儀式ヲ行フニ因リテ成ル

第百二十二條 遺言養子縁組ハ遺言書ヲ以テ之

母之ヲ承諾スルコトヲ得

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母若シ其一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ニ於テ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

第百十六條 滿十五年ニ至リタル者ハ父母ノ許諾ヲ受ケテ縁組ヲ承諾スルコトヲ得

父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

父母共ニ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ其家ノ祖父母ノ許諾ヲ受ク可シ若シ祖父母ノ一方カ死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ他ノ一方ノ許諾ヲ以テ足ル

第百十七條 父母、祖父母悉ク死亡シ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ二十年未滿ノ者ニ

此遺言ハ養子ヲ爲ス者ノ死亡ノ日ニ家督相續ヲ爲ス可キ卑屬親アルトキハ其效ヲ失フ

第百二十三條 遺言養子ヲ爲ス者ノ死亡シタルトキハ第百十五條以下ノ規定ニ從ヒテ縁組ノ受諾ヲ爲ス可シ

第百二十四條 縁組ノ儀式ヲ行ヒ又ハ縁組ノ受諾ヲ爲シタルトキハ當事者ヨリ十日内ニ身分取扱吏ニ届出ツ可シ但此届出ハ代理人ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第百二十五條 第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ之ヲ縁組ニ適用ス但本章第一節ニ定メタル條件ニ違背セサルコトヲ要ス

第三節 養子縁組ノ證據

第百二十六條 縁組ハ縁組證書ヲ以テ之ヲ證ス但第百九十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第五十四條ノ規定ハ縁組ニ之ヲ適用ス

第四節 養子縁組ノ不成立及ヒ無効

十九

第二百二十七條 縁組ハ人違、喪心又ハ強暴ニ因
 リテ承諾ノ全ク欠缺シタルトキハ不成立トス
 第二百二十八條 縁組ハ本章第一節ニ定メタル條
 件ノ一ニ違背シタルトキハ無効トス
 此無効ハ第三百三十條ノ場合ヲ除ク外當事者其
 他現實ノ利益ヲ有スル者及ヒ檢事ヨリ何時ニ
 テモ之ヲ請求スルコトヲ得

第二百二十九條 縁組ハ左ノ場合ニ於テ無効トス
 第一 縁組ノ申出ヲ爲サス又ハ身分取扱吏
 ノ差止ヲ受ケタルニ拘ハラズ儀式ヲ行タ
 タルトキ
 第二 證人二人ノ立會ナクシテ儀式ヲ行ヒ
 タルトキ
 第三 第四十八條ノ規定ニ違ヒテ儀式ヲ行
 ヒタルトキ
 第四 縁組ノ申出ヲ受ケタル身分取扱吏ノ
 管轄違ナルトキ
 此無効ハ儀式後一箇年內ニ限リ前條ニ掲ケタ

ル者ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得
 第三百三十條 第八條又ハ第九條但書ノ規定
 ニ違ヒタル縁組ノ無効ハ被後見人又ハ養家ノ
 戸主ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス
 被後見人カ成年ニ至リ又ハ戸主カ縁組ヲ知リ
 タル後縁組ヲ認諾シ又ハ三ヶ月ヲ過キタルト
 キハ其訴權ヲ失フ

第三百三十一條 強暴ノ爲メ承諾ニ瑕疵アル縁組
 ノ無効ハ強暴ヲ受ケタル者ニ限り之ヲ請求ス
 ルコトヲ得但強暴ヲ免カレタル後縁組ヲ認諾
 シ又ハ三ヶ月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ
 第三百三十二條 第十六條乃至第二十條ニ定
 メタル許諾ナクシテ爲シタル縁組ノ無効ハ許
 諾ヲ與フ可キ者又ハ許諾ヲ受ク可キ者ニ非サ
 レハ之ヲ請求スルコトヲ得ス
 第六十條第二項、第六十一條及ヒ第六十二條
 ノ規定ハ此無効訴權ニ之ヲ適用ス
 第三百三十三條 婿養子縁組ニ付テハ當事者ハ縁

組又ハ婚姻ノ無効言渡ヲ原因トシテ婚姻又ハ
 縁組ノ無効ヲ請求スルコトヲ得但無効言渡ノ
 後三ヶ月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第五節 養子縁組ノ效力

第三百三十四條 養子ハ縁組ノ日ヨリ養家ニ於テ
 嫡出子ノ權利及ヒ義務ヲ有ス
 第三百三十五條 養子ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リ
 テ取得シタル利益及ヒ其贖帶シ又ハ相續、贈
 與若シハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有
 權ヲ有ス但未成年中ノ財産管理ハ第九章ノ規
 定ニ從ヒテ養父母ニ屬ス

第六節 罰則

第三百三十六條 縁組申出ノ時ニ必要ノ書類ヲ差
 出タサシメサル身分取扱吏ハ二圓以上二十圓
 以下ノ過料ニ處ス
 縁組ノ不成立又ハ無効タル可キ法律上ノ原因
 アルコトヲ知リテ其儀式ヲ行フヲ差止メサル
 身分取扱吏ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處

ス

第八章 養子ノ離縁

第一節 協議ノ離縁

第三百三十七條 養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲
 リタル者ハ協議ヲ以テ離縁ヲ爲スコトヲ得
 然レトモ十五年未滿ニテ養子ト爲リタル者ノ
 離縁ハ滿十五年ニ至ラサル間ニ限リ養子ヲ爲
 シタル者ト縁組承諾ノ權ヲ有スル者トノ協議
 ヲ以テ之ヲ爲ス

第三百三十八條 離縁ヲ爲サントスル養子ハ縁組
 許諾ノ爲メ定メタル規則ニ從ヒ其父母、祖父
 母又ハ後見人ノ許諾ヲ受クルコトヲ要ス
 第三百三十九條 當事者ハ離縁協議書ニ左ノ書類
 ナ添ヘテ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第一 縁組證書

第二 離縁ノ爲メニ必要ナル許諾書又ハ許

諾ヲ得ル能ハサル事由ヲ證スル書類

第二節 特定原因ノ離縁

第四百十條 離縁ハ左ノ原因アルニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第一 養子ヨリ養家ノ尊屬親ニ對シ又ハ養家ノ尊屬親ヨリ養子ニ對スル暴虐、脅迫、遺棄又ハ重大ノ侮辱

第二 重罪ニ因レル處刑

第三 竊盜又ハ詐欺取財ノ罪ニ因レル重禁錮一年以上ノ處刑

第四 浪費

第八十二條及ヒ第八十八條ノ規定ハ離縁ニ之ヲ適用ス

第四百十一條 離縁ヲ請求スル訴權ハ養子ヲ爲シタル者及ヒ養子ト爲リタル者ノミニ屬ス

養子ヲ爲シタル者又ハ養子ト爲リタル者カ死亡シタルトキハ離縁ノ訴權ハ消滅ス但訴訟中ニ死亡シタル場合ニ於テハ現實ノ利益ヲ有スル者其訴訟ヲ續行スルコトヲ得

第四百十二條 養子ヲ爲シタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第三節 離縁ノ效力

第四百十六條 離縁ハ其届出又ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ效力ヲ生セス

第四百十七條 離縁ト爲リタル養子ハ自己ノ過失ノ有無ニ拘ハラズ其所有財産ニ限り之ヲ請求スルコトヲ得但養家ノ爲メニ消費シタルモノハ此限ニ在ラス

第四百十八條 婿養子縁組ニ付テハ當事者ハ離縁ヲ原因トシテ離婚ヲ請求シ又離婚ヲ原因トシテ離縁ヲ請求スルコトヲ得但離婚ハハ離縁ヨリ三個月ヲ過キタルトキハ其訴權ヲ失フ

第九章 親權

第一節 子ノ身上ニ對スル權

第四百十九條 親權ハ父之ヲ行フ

父死亡シ又ハ親權ヲ行フ能ハサルトキハ母之ヲ行フ

父又ハ母其家ヲ去リタルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ス

在ルトキハ後見人又ハ後見監督人ハ親族會ノ許可ヲ得テ離縁ヲ請求スルコトヲ得

養子ト爲リタル者カ禁治産中ニ在ルトキハ實家ノ父母、祖父母又ハ戸主ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第四百十三條 養子ノ滿十五年ニ至ラサル間ハ縁組承諾ノ權ヲ有スル者ヨリ離縁ヲ請求スルコトヲ得

第四百十四條 養子カ養父母ト同居スルトキハ裁判所ハ離縁訴訟中養子ヲシテ住家ヲ去ラシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ養子ハ衣服其他ノ日用物品ヲ持去リ且必要アルトキハ養料ヲ請求スルコトヲ得

裁判所ハ養子ノ請求ニ因リテ其財産ヲ保存スル爲メニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第四百十五條 離縁ハ養子ノ家督相續後之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十六條 未成年ノ子ハ親權ヲ行フ父又ハ母ノ許可ヲ受クルニ非サレハ父母ノ住家又ハ其指定シタル住家ヲ去ルコトヲ得ス

子カ許可ヲ受ケスシテ其住家ヲ去リタルトキハ父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ歸家セシムルコトヲ得

第四百十七條 父又ハ母ハ子ヲ懲戒スル權ヲ有ス但シ過度ノ懲戒ヲ加フルコトヲ得ス

第四百十八條 子ノ行狀ニ付キ重大ナル不滿意ノ事由アルトキハ父又ハ母ハ區裁判所ニ申請シテ其子ヲ感化場又ハ懲戒場ニ入ルルコトヲ得

入場ノ日數ハ六個月ヲ超過セサル期間内ニ於テ之ヲ定ム可シ但父又ハ母ハ裁判所ニ申請シテ更ニ其數ヲ増減スルコトヲ得

右申請ニ付テハ總テ裁判上ノ書面及ヒ手續ヲ用ユルコトヲ得ス

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キテ決定ヲ爲スコトヲ得

父、母及ヒ子ハ其決定ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第二節 子ノ財産ノ管理

第一百五十三條 父ハ未成年ナル子ノ總テノ行爲ニ付テ之ヲ代表シ自己ノ財産ニ於ケル如ク其財産ヲ管理ス

第一百五十四條 父ノ管理ニ於テハ第九十四條ニ記載シタル行爲ハ尙ホ之ヲ管理行爲ト看做ス

第一百五十五條 子ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス

第一百五十六條 父ハ管理ノ止ミタルトキハ子ニ其財産ヲ引渡ス可シ但收益ハ子ノ養育教育ノ費用及ヒ管理ノ費用ニ供シタルモノト看做ス

第一百五十七條 本節ノ規定ハ母カ子ノ財産ヲ管理スル場合ニ之ヲ適用ス
然レトモ母ハ管理ヲ辭スルコトヲ得

第三節 嫡母、繼父及ヒ繼母ニ特別ナル規則

第一百五十八條 嫡母、繼父又ハ繼母ノ親權ヲ行フ場合ニ於テハ相談人ヲ付スルコトヲ得
此相談人ハ配偶者證書若クハ遺言書ヲ以テ之ヲ定メ又ハ親族會其議決ヲ以テ之ヲ定ム

第一百五十九條 相談人ハ後見監督人ト同一ノ權限及ヒ義務ヲ有ス

第一百六十條 配偶者カ相談人ヲ定メサル場合ニ於テ親族會ヲ招集セサルトキ又ハ配偶者若クハ親族會ノ定メタル相談人ニ相談セサルトキハ區裁判所ハ檢事ノ請求ニ因リ嫡母、繼父又ハ繼母ニ對シテ親權行使ノ禁止ヲ宣告スルコトヲ得

第十章 後見

總則

第一百六十一條 後見ハ未成年者ノ父又ハ母ニシテ生存スル者ノ死亡ニ因リテ開始ス

父母共ニ生存シ又ハ其一方ノ生存スルモ親權ヲ行フ能ハサルトキ又ハ母カ子ノ財産管理ヲ辭スルトキモ亦同シ

第一百六十二條 一家ニ未成年者數人アルモ後見人ハ一人タル可シ

第一百六十三條 後見人ハ親族會ノ免除ヲ得サル限りハ後見ヲ承諾ス可シ若シ後見人之ヲ承諾セス又ハ其任務ヲ怠ルトキハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ區裁判所ハ代務者ヲ命スルコトヲ得

後見人ハ代務者ノ管理ノ費用ヲ負擔シ且其管理ニ付キ責ニ任ス

第一節 後見人

第一百六十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ其生前ニ於テ親族、姻族又ハ他人ノ中ヨリ後見人タル可キ者ヲ指定スル權ヲ有ス

第一百六十五條 後見人ノ指定ハ遺言書若クハ證書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ區裁判所ニ口述シテ之

ヲ爲ス可シ此口述ニ付テハ調書ヲ作ルコトヲ要ス

第一百六十六條 父又ハ母カ後見人ヲ指定セザリシトキハ其家ノ祖父後見人ト爲ル但未成年ノ家族ニ付テハ成年ノ戶主後見人ト爲ル

第一百六十七條 遺言後見人モ祖父若クハ戶主タル後見人モ有ラサルトキ又ハ此等ノ後見人カ免除セラレ除斥セラレ罷黜セラレ若クハ死亡シタルトキハ親族會ニ於テ後見人ヲ選定ス

第一百六十八條 未成年者ヲ有スル人ノ死亡シタルトキ又ハ未成年者ヲ有スル父若クハ母ノ婚姻其他ノ事故ニ因リテ他家ニ入りタルトキハ區裁判所ハ未成年者ノ親族若クハ利害關係人ノ請求ニ因リ後見人ヲ設定スル爲メ親族會ヲ招集ス可シ

第二節 後見監督人

第一百六十九條 後見ニハ一人ノ後見監督人ヲ付スルコトヲ得

後見監督人ハ後見人ヲ定ムルト同一ノ手續ニ從ヒテ之ヲ指定シ又ハ親族會ニ於テ之ヲ選定ス

本章第四節及ヒ第五節ノ規定ハ後見監督人ニ之ヲ適用ス

第七十條 後見監督人ヲ置カサル場合ニ於テ監督ヲ要スルコト有ルトキハ親族會ニ於テ會員一人ヲ選定シ臨時ニ後見監督人ノ任務ヲ行ハシム

第三節 親族會

第七十一條 親族會ハ未成年者ノ最近親族三人以上ヲ以テ之ヲ設ク但親族三人ニ滿タサル時ハ未成年者ニ縁故アル者ヲ以テ之ヲ補足ス本家及ヒ分家ノ戸主ハ親族會ニ列スルコトヲ得

第七十二條 親族會ハ親族、後見人、後見監督人、保佐人又ハ利害關係人ノ求メニ因リテ集會ス

第七十三條 戸主成年ナルトキハ家族ノ爲メ

親族會ヲ設クルコトヲ要セス

第七十四條 養子ノ親族會ニハ實家ノ親族モ

其會員タルコトヲ得

第七十五條 會員ハ自己ノ利害ニ關係アル會議ニ列スルコトヲ得ス

第七十六條 親族會ヲ設クル能ハサルトキハ

第七十七條 未成年者ノ親族會ノ外親族會ヲ組成スル必要アルトキモ亦本節ノ規定ヲ適用ス

第七十八條 左ニ掲クル者ハ當然後見人タルコトヲ免除セラレ

第四節 後見ノ免除

第一 現役ニ服スル軍人、軍屬
第二 被後見人住居ノ市又ハ郡ノ外ニ於テ公務ニ從事スル人

第七十九條 後見免除ノ求メハ親族會之ヲ決

ス後見人解任ヲ求メタルトキモ亦同シ

第五節 後見人及ヒ親族會員ノ缺格、

除斥及ヒ罷黜

第八十條 左ニ掲クル者ハ後見人タルコトヲ得ス又親族會員タルコトヲ得ス

第一 未成年者

第二 民事上禁治産者及ヒ准禁治産者

第三 未成年者ノ身分又ハ財産ニ對シテ訴訟ヲ爲ス人及ヒ其人ノ尊屬親、卑屬親、配偶者

第八十一條 左ニ掲クル者ハ後見及ヒ親族會ヨリ除斥セラレ可シ現ニ任務ニ從事スル者ハ之ヲ罷黜ス

第一 甚シキ不行跡ナル人

第二 後見管理ニ不能又ハ不正實ヲ顯ハセル後見人

第三 任務ヲ免黜セラレタル裁判上ノ保佐人

第四 公權剝奪、公權停止及ヒ刑事上禁治産ヲ受ケタル人

第五 復權ヲ得サル破産者及ヒ家資分散者

第八十二條 後見人及ヒ親族會員ノ除斥又ハ罷黜ハ親族會ニ於テ之ヲ爲ス

第六節 後見人ノ管理

第八十三條 後見人後見ノ開始ヲ知ルトキハ直チニ任務ニ就クコトヲ要ス

親族會ニ於テ後見人ヲ選定シ其後見人在席スル片ハ直チニ任務ニ就キ若シ在席セザルトキハ通知ヲ得タル日ヨリ任務ニ就クコトヲ要ス

第八十四條 後見人ハ未成年者ヲ監護シ其教育ヲ擔任ス

尊屬後見人及ヒ戸主後見人ヲ除ク外後見人若シ未成年者ノ在來ノ住居又ハ教育方法ヲ變置セントスルトキハ親族會ニ協議ス可シ

第八十五條 後見人ハ父母ノ如ク未成年者ヲ憂戒スルコトヲ得

未成年者ノ行狀ニ付キ重大ナル不滿意ノ事由
アルトキハ後見人ハ親族會ノ許可ヲ得タル上
第五百五十二條ノ規定ニ從ヒテ未成年者ニ對ス
ル處分ヲ爲スコトヲ得
後見人カ其權ヲ濫用シ又ハ其義務ヲ怠ルトキ
ハ未成年者及ヒ其親族ハ親族會ニ之ヲ申告ス
ルコトヲ得

第八十六條 後見人ハ未成年者ノ總テノ行爲
ニ付テ之ヲ代表シ善良ナル管理者ノ如ク其財
産ヲ管理シ管理ノ失當又ハ過失ヨリ生スル損
害賠償ノ責ニ任ス

第八十七條 後見人ハ當然其任務ニ就ク可キ
日ヨリ十日内ニ後見監督人ノ立會ヲ得テ未成
年者ノ財産ヲ調査ス可シ
附産目錄ノ調製ハ二个月内ニ之ヲ終了スルコ
トヲ要ス但親族會ハ狀況ニ從ヒテ延期ヲ許ス
コトヲ得

第八十八條 後見人カ未成年者ノ債務者又ハ

益ノ利額ヲ毎次ニ官ノ貯金預所又ハ確實ナル
銀行ニ預ク可シ其預ケサリシ金額ニ付テハ法
律上ノ利息ヲ辨濟ス可シ
後見人カ未成年者ノ財産ノ利用方法ヲ變更セ
ントスルトニハ親族會ノ許可ヲ受クルコトヲ
要ス

第九十二條 尊屬後見人及ヒ戶主後見人ヲ除
ク外後見人ハ一个年内ノ管理ノ狀況ヲ親族會
ニ報告ス可シ

第九十三條 後見人ハ未成年者ノ財産ニ付テ
ハ管理ノ權ヲ有スルニ止マリ此權外ノ行爲ハ
法律ニ定メタル條件ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲
スコトヲ得ス

第九十四條 左ニ掲クル行爲ニ關シテハ後見
人ハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

- 第一 元本ヲ利用シ又ハ借財ヲ爲スコト
- 第二 不動産及ヒ重要ナル動産ヲ讓渡シ之
ニ物權ヲ設定シ又ハ之ヲ取得スルコト

債權者ナルトキハ目錄ノ調製前其旨ヲ公證人
又ハ親族會ニ明言スルコトヲ要ス
後見人カ債權ノ存立ヲ知リテ之ヲ明言セサリ
シトキハ其債權ヲ喪失ス又債務ノ存立ヲ知リ
テ之ヲ明言セサリシトキハ區裁判所ハ其後見
人ヲ罷黜スルコトヲ得但罷黜ノ場合ニ於テハ
三十圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

第八十九條 目錄調製ヲ終了セサル間ハ後見
人ハ要急關ク可カラサル管理行爲ノミヲ爲ス
コトヲ得
第九十條 後見人ハ任務執行ノ初ニ於テ親族
會ニ協議シ未成年者ノ養育ノ需用、教育ノ程
度ト其資産トニ從ヒ毎年費ス可キ金額及ヒ財
産管理ニ係ル費用ヲ定ム
親族會ハ相當ノ給料ヲ與フル一人又ハ數人ノ
管理者ヲ後見人ノ自己ノ責任ヲ以テ使用スル
ヲ許スコトヲ得

第九十一條 後見人ハ未成年者ノ元本及ヒ收

第三 動産、不動産ニ係ル訴訟又ハ和解、仲
裁ニ關スルコト

第四 相續、遺贈若クハ贈與ヲ受諾シ又ハ
拋棄スルコト

第五 新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲ス
コト

第六 財産編第百十九條ニ定メタル期間ヲ
超ニル貸貸ヲ爲スコト

第九十五條 後見人ハ未成年者ノ財産ヲ讓受
クルコトヲ得ス又未成年者ニ對スル權利ヲ讓
受クルコトヲ得ス

第九十六條 後見人ハ親族會ノ許可ヲ得ルニ
非サレハ未成年者ノ不動産ヲ賃借スルコトヲ
得ス

第九十七條 後見人ノ其權内ニ於テ爲シムル
行爲ハ未成年者ヲ羈束ス

第七節 後見監督人ノ任務
第九十八條 後見監督人ハ後見人ノ管理ヲ監

視スルコトニ任ス

後見監督人ハ後見人ヲ缺クトキト雖モ後見ノ任務ヲ行フコトヲ得ス此場合ニ於テハ直チニ後任ノ後見人ヲ定ムル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第九十九條 未成年者ト後見人トノ間ニ利益相反スルトキハ後見監督人ハ未成年者ヲ代表ス

第二百條 必要ナル場合ニ於テハ後見監督人ハ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

第八節 後見ノ終了

第二百二條 後見ノ任務ハ後見人ノ一身ニ止マリ其相續人ニ移轉セス然レトモ相續人カ成年者ナルトキハ後任ノ後見人ノ任務ニ就クマテ管理ヲ繼續ス可シ

第二百三條 未成年者カ成年ニ達シ又ハ自治産

ニ至ルニ因リテ後見ノ止ムトキハ後見人ハ其計算ヲ完了スルマテ管理ヲ繼續ス

第二百四條 假ニ管理ヲ爲ス者ハ必要ナル行爲ノミヲ爲スコトヲ得

第九節 後見ノ計算

第二百五條 後見人ハ管理ノ終了スルトキハ其計算ヲ爲スコトヲ得

第二百六條 後見ノ決算ハ後見監督人ノ立會ニテ未成年者ノ成年ニ達シタル者又ハ其自治産ニ至リタル者ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ後見人ノ身上ニ係リテ終了スルトキハ決算ハ後任ノ後見人ニ對シテ之ヲ爲シ親族會ノ許可ニ付ス但第百八條ノ場合ニ於テハ決算ハ後見監督人ニ對シテ之ヲ爲ス

後見カ未成年者ノ死亡ニ因リテ終了スルトキハ決算ハ其相續人ニ對シテ之ヲ爲ス

後見ノ決算ニ係ル費用ハ未成年者ノ負擔ニ屬ス

第二百七條 後見ノ決算ハ管理終了ノ日ヨリ三

个月内ニ之ヲ爲スコシ但親族會ハ當事者ノ求めニ因リテ延期ヲ許スコトヲ得

第二百八條 後見人ト未成年者ノ成年ニ達シタル者トノ合意ニシテ後見ノ決算前ニ爲シタルモノハ總テ無効トス

第二百九條 後見ノ費用ハ豫算ノ定額ヲ超ユルト雖モ後見人其有益タルコトヲ證スルトキハ未成年者ノ負擔ニ屬ス

第二百十條 後見人ヨリ未成年者ニ返濟ス可キ金額ハ決算完結ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス

未成年者ヨリ後見人ニ返濟ス可キ金額ハ決算完結ノ後後見人ノ催告ニ因リテ利息ヲ生ス

第二百十一條 後見ノ計算ニ係ル未成年者ノ訴權ハ五ヶ年ノ後時効ニ因リテ消滅ス後見人其

他假ニ後見管理ヲ爲シタル人ノ未成年者ニ對スル訴權モ亦同シ

未成年者ト後見監督人又ハ親族會員トノ間ノ

後見ニ係ル訴權ニ付テモ亦前項ノ規定ヲ適用ス

此期間ハ未成年者ノ成年ニ達シ又ハ死亡シタル日ヨリ起算シ第百八條ノ場合ニ於テ後見ノ計算ニ係ル訴權ニ付テハ合意無効ノ裁判言渡ノ日ヨリ起算ス

第二百十二條 後見監督人及ヒ假ニ後見管理ヲ爲シタル人ハ代理契約ノ原則ニ從ヒテ過失ノ責ニ任ス

第十一章 自治産

第二百十三條 未成年者ハ婚姻ヲ爲スニ因リテ當然自治産ノ權ヲ得

第二百十四條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ滿十五年ニ達シタル未成年者ノ子ニ自治産ヲ許スコトヲ得

此自治産ハ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第二百十五條 後見ニ服スル未成年者ノ滿十七年ニ達シタルトキハ親族會ハ其未成年者ニ自

治産ヲ許スコトヲ得

此自治産ハ後見人ヨリ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第二百十六條 自治産ノ未成年者ハ之ヲ保佐ニ付ス

親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ當然保佐人ト爲ル
親權ヲ行フ父又ハ母ハ其生前ニ第六十五條ノ規定ニ從ヒテ保佐人ヲ指定スルコトヲ得若シ之ヲ指定セザリシトキハ其家ノ祖父保佐人ト爲リ家族ニ付テハ成年ノ戸主保佐人ト爲ル夫ハ當然未成年ノ婦ノ保佐人ト爲ル
此他ノ場合ニ於テハ親族會ニ於テ保佐人ヲ選定ス

第二百十七條 後見人ニ關シテ定メタル免除、缺格、除斥及ヒ罷黜ノ規則ハ之ヲ保佐人ニ適用ス

第二百十八條 自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非ザレハ元本ヲ領收スルコトヲ得ス

第二百二十二條 心神喪失ノ常況ニ在ル者ハ時時本心ニ復スルコト有ルモ其治産ヲ禁スルコトヲ得

第二百二十三條 禁治産ハ配偶者、四親等内ノ親族、戸主及ヒ檢事ヨリ之ヲ區裁判所ニ請求スルコトヲ得

禁治産ヲ請求スル權利ヲ有スル一人ノ申立ニ因リテ言渡シタル裁判ハ總テノ人ニ對シテ既判力ヲ有ス

第二百二十四條 禁治産者ハ之ヲ後見ニ付ス
配偶者ハ當然相互ニ後見人ト爲ル若シ配偶者アラサルトキハ其家ノ父後見人ト爲リ父アラサルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ヘキ母後見人ト爲ル

父又ハ母ハ第六十五條ニ定メタル方式ニ從ヒテ後見人ヲ指定スルコトヲ得若シ指定セザリシトキハ第六十六條ノ規定ヲ適用ス
法律上ノ後見人モ遺言後見人モ有ラス又ハ此

第二百十九條 第九十四條ニ掲ケタル行爲ニ付テハ自治産ノ未成年者ハ保佐人ノ立會アルニ非ザレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百二十條 父母ヲ除ク外保佐人ハ後見人ト同シク過失ノ責ニ任ス

第二百二十一條 自治産ヲ許サレタル未成年者カ不行跡又ハ財産管理ノ失當ニ因リテ自治産者タルニ適セザルトキハ親族會ハ其自治産ヲ廢止スルコトヲ得

親權ヲ行ヒタル父又ハ母ハ自治産ヲ廢止スルコトヲ得若シ此等ノ者アラサルトキハ親族會員又ハ保佐人ハ此廢止ヲ親族會ニ求ムルコトヲ得

未成年者ハ自治産廢止ノ日ヨリ親權又ハ後見ニ服シ成年ニ達スルマテ復タ自治産者ト爲ルコトヲ得ス

第十二章 禁治産

第一節 民事上禁治産

等ノ後見人カ免除セラレ除斥セラレ若クハ罷黜セラレタルトキハ第十章ニ定メタル方式ニ從ヒ親族會ニ於テ後見人ヲ選定ス

第二百二十五條 配偶者、尊屬親、卑屬親及ヒ戸主ヲ除ク外何人タリトモ十個年以上禁治産者ノ後見ヲ擔任スルコトヲ要セス

第二百二十六條 未成年者ノ後見ニ係ル規定ハ禁治産者ノ後見ニ之ヲ適用ス

第二百二十七條 疾病ノ性質ト資産ノ狀況トニ從ヒテ禁治産者ヲ自宅ニ療養セシメ又ハ之ヲ病院ニ入ラシムルハ親族會ノ決議ニ依ル但瘋癪病院ニ入ラシメ又ハ自宅ニ監置スル手續ハ特別法ヲ以テ之ヲ定ム

第二百二十八條 法律上ノ後見人ハ第九十二條ニ定メタル管理狀況ノ報告ヲ爲スコトヲ要セス

第二百二十九條 禁治産者ノ財産ヲ以テ其子孫ノ教育、婚姻又ハ營業ノ資ニ供セントスルト

キハ親族會ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百三十條 禁治産者ハ禁治産ノ裁判言渡ノ日ヨリ無能力者トス

裁判言渡後ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ハ之ヲ銷除スルコトヲ得

禁治産ノ裁判言渡前ニ爲シタル禁治産者ノ行爲ニ對シテモ其行爲ノ當時ニ於テ喪心ノ明確ナルトキハ銷除訴權ヲ行フコトヲ得

第二百三十一條 禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配偶者、親族、姻族、戸主、後見人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其禁ヲ解ク可シ

禁治産者ハ解禁ノ裁判言渡後ニ非サレハ其權利ヲ回復スルコトヲ得ス

第二節 准禁治産

第二百三十二條 心神耗弱、癡啞者、盲者及ヒ浪費者ハ准禁治産者ト爲シテ之ヲ保佐ニ付スルコトヲ得

准禁治産ノ言渡ハ配偶者、三親等内ノ親族及

ヒ戸主ノ請求ニ因リ區裁判所之ヲ爲ス

保佐人ニ付テハ第二百二十四條及ヒ第二百二十五條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十三條 第二百十七條乃至第二百二十條ノ規定ハ之ヲ准禁治産ニ適用ス

裁判所ハ狀況ニ從ヒ保佐人ノ立會アルニ非サレハ管理行爲ヲモ爲スコトヲ得タル旨ヲ言渡スコトヲ得

第二百三十四條 准禁治産者カ保佐人ノ立會ナクシテ爲シタル行爲ニ付テハ第二百三十條ノ規定ヲ適用ス

第二百三十五條 准禁治産ノ原因止ミタルトキハ本人、配偶者、親族、姻族、戸主、保佐人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ其禁ヲ解ク可シ

第三節 刑事上禁治産

第二百三十六條 刑事上禁治産ヲ受ケタル者ハ其財産ヲ管理スルコトヲ得ス又遺言ヲ以テスル外ハ其財産ヲ處分スルコトヲ得ス

第二百三十七條 刑事上禁治産者ニハ後見人ヲ付シテ其財産ヲ管理セシム此後見人ノ指定及

ヒ管理ノ方法ニ付テハ民事上禁治産者ノ後見ニ係ル規定ヲ適用ス

第二百二十九條ノ場合ニ於テハ禁治産者ノ同意ヲ得ルヲ以テ足ル

第四節 癡癪者ノ財産ノ假管理

第二百三十八條 禁治産ヲ受ケサル癡癪者アル

トキハ配偶者、親族、戸主及ヒ檢事ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ特別法ニ定ムル手續ニ從ヒ之ヲ癡癪病院ニ入レ又ハ自宅ニ監置スルコトヲ得

此場合ニ於テハ裁判所ハ直チニ假管理人ヲ指定ス

第二百三十九條 癡癪院ニ入り又ハ自宅ニ監置

セラレタル者ハ入院中又ハ監置中其財産ヲ管理シ及ヒ處分スルコトヲ得ス

第二百四十條 假管理人ハ癡癪者ノ總テノ行爲

ニ付テ之ヲ代表シ禁治産者ノ後見人ト同視セラル但必要ナル行爲ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百四十一條 癡癪者ノ入院中又ハ監置中ニ行爲ヲ爲シタル證據アルトキハ其行爲ヲ銷除スルコトヲ得但相手方カ癡癪者ノ本心ニテ行爲ヲ爲シタルコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラズ

第十三章 戸主及ヒ家族

第二百四十二條 癡癪者ノ無能力ハ區裁判所カ假管理ヲ解クニ因リテ止ム

第二百四十三條 戸主トハ一家ノ長ヲ謂ヒ家族トハ戸主ノ配偶者及ヒ其家ニ在ル親族、姻族ヲ謂フ

戸主及ヒ家族ハ其家ノ主ヲ稱ス

第二百四十四條 戸主ハ家族ニ對シテ養育及ヒ普通教育ノ費用ヲ負擔ス但家族カ自ラ其費用ヲ辨スルコトヲ得ルトキ又ハ戸主ノ許諾ヲ受

ケスシテ他所ニ在ルトキハ此限ニ在ラス

第二百四十五條 家族ハ特別ニ職業ヲ營ムニ因リテ取得シタル利益及ヒ其贖帶シ又ハ遺産相続、贈與若クハ遺贈ニ因リテ取得シタル財産ノ所有權ヲ有ス

然レトモ家族カ其家ノ爲メ消費シタル財産ニ付テハ戸主ニ對シテ償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第二百四十六條 家族ハ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲セントスルトキハ年齢ニ拘ハラズ戸主ノ許諾ヲ受ク可シ

第二百四十七條 他家ニ入りテ夫婦又ハ養子ト爲リタル者ハ婚姻ノ無効、養子縁組ノ無効、離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テハ實家ニ復歸ス

然レトモ此者カ婚姻又ハ養子縁組ニ付キ實家戸主ノ許諾ヲ受ケザリシトキハ戸主ハ復歸ノ事由ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ身分取扱吏

ニ申立テ復歸ヲ拒ムコトヲ得

第二百四十八條 他家ニ入りテ夫又ハ婦ト爲リタル者ハ其配偶者ノ死亡シタルトキト雖モ他家ヨリ更ニ他ノ家ニ入ルコトヲ得ス

然レトモ婚家及ヒ實家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ實家ニ復歸スルコトヲ得

第二百四十九條 實家ニ復歸ス可キ者又ハ復歸セントスル者カ復歸スル能ハサルトキハ一家ヲ新立ス

第二百五十條 推定家督相續人ニ非サル家族タル男子カ戸主ノ許諾ヲ受ケスシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ一家ヲ新立ス

第二百五十一條 家督相續ニ因リテ戸主ト爲タル者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得ス但分家ヨリ本家ヲ承繼シ其他正當ノ事由アルトキハ區裁判所ノ許可ヲ得テ廢家スルコトヲ得

第二百五十二條 戸主カ國民分限ヲ喪失シタルトキハ廢家シタル者トシ推定家督相續人ハ一

家ヲ新立シ前戸主ノ家族ハ新戸主ノ家ニ入ル

第二百五十三條 戸主カ婚姻其他ノ原因ニ由リテ適法ニ廢家シ他家ニ入りタルトキハ其家族モ亦從テ其家ニ入ル

第二百五十四條 卑屬親ヲ有スル者カ婚姻若クハ養子縁組ノ無効又ハ離婚若クハ離縁ニ因リテ婚家又ハ縁家ヲ去ルトキハ卑屬親ハ仍ホ其家ニ屬ス

第二百五十五條 父母ノ知レサル子ハ一家ヲ新立ス

第二百五十六條 他家ニ入りテ夫婦又ハ養子ト爲リタル者ハ配偶者又ハ養子ヲ爲シタル者ト協議ノ上兩家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ實家ニ在ル卑屬親ヲ自家ニ引取ルコトヲ得

婚姻若クハ養子縁組ノ無効又ハ離婚若クハ離縁ニ因リテ婚家又ハ縁家ヲ去リタル者ハ配偶者又ハ養子ヲ爲セシ者ト協議ノ上兩家ノ戸主ノ許諾ヲ受ケテ其家ニ在ル卑屬親ヲ自家ニ引

取ルコトヲ得

第二百五十七條 戸主カ家族ニ對シテ婚姻其他ノ事件ニ付キ許諾ヲ與フ可キ場合ニ於テ未成年ナルトキ又ハ其意思ヲ表スル能ハサルトキハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ後見人之ヲ代表ス

第二百五十八條 入夫婚姻ノ場合ニ於テハ婚姻中入夫ハ戸主ヲ代表シテ其權ヲ行フ

第二百五十九條 戸主失踪ノ宣言アリタル後其家督相續ノ占有ヲ得タル者ハ其占有中戸主ノ權ヲ行フ

第二百六十條 單身戸主失踪ノ宣言アリテ其亡失若クハ最後音信ノ日ヨリ三十年ニ至ルモ家督相續ノ占有者ナキトキハ絶家ス

第二百六十一條 戸主死亡シテ家督相續人ナキトキハ絶家シ其家族ハ一家ヲ新立ス

第十四章 住所

第二百六十二條 民法上ノ住所ハ本籍地ニ在ル

モノトス

第二百六十三條 戶主ハ本籍ヲ移ス地ノ身分取

扱吏ニ申述シテ住所ヲ變更スルコト得

未成年者又ハ民事上禁治産者タル戶主ノ住所

ハ親族會ノ許可ヲ得テ後見人之ヲ變更スルコ

トヲ得

第二百六十四條 家族カ獨立シテ一家ヲ成スト

キハ本籍ヲ定ムル地ノ身分取扱吏ニ其意思ヲ

申述シテ住所ヲ設定スルコトヲ得

一家新立ノ未成年者ニ付テハ後見人住所ヲ設

定ス可シ

第二百六十五條 外國人始メテ日本ニ住所ヲ定

ムルトキハ其意思並ニ本國、氏名及ヒ出生年

月日ヲ其地ノ身分取扱吏ニ申述シ家族アルト

キハ其氏名及ヒ出生年月日ヲモ申述ス可シ

第二百六十六條 本籍地カ生計ノ主要タル地ト

異ナルトキハ主要地ヲ以テ住所ト爲ス

第二百六十七條 左ノ場合ニ於テハ居所ヲ以テ

住所ニ代用ス

第一 住所ノ知レサルトキ

第二 日本ニ住所ヲ定メサル外國人ニ關ス

ルトキ

第二百六十八條 何人ト雖モ或ル行爲又ハ事務

ノ爲メニ假住所ヲ選定スルコトヲ得但此選定

ハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス

第十五章 失踪

第一節 失踪ノ推定

第二百六十九條 住所及ヒ居所ヨリ亡失シ又ハ

音信絶エテ生死分明ナラサル人ハ之ヲ失踪者

ト推定ス

此推定ノ裁判ハ本人ノ住所ノ區裁判所之ヲ爲

ス

第二百七十條 失踪ノ推定ヲ受ケタル者カ總理

代理人ヲ定置キタルトキハ其代理人ハ失踪ノ

推定中本人ノ財産ヲ管理ス但必要アルトキハ

裁判所ハ現實ノ利益ヲ有スル關係人、推定相

續人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ代理人ノ解任ヲ

言渡シ又ハ其後任ヲ指定スルコトヲ得

第二百七十一條 失踪ノ推定ヲ受ケタル者カ總

理代理人ヲ定置カサリシキハ裁判所ハ前條ニ

掲ケタル者ノ請求ニ因リテ代理人ヲ指定ス

此代理人ニハ成ル可ク推定相續人ヲ指定スル

コトヲ要ス

第二百七十二條 代理人又ハ管理人ハ管理行爲

ヲ爲ス權限ノミヲ有ス他ノ行爲ニ付テハ必要

ノ場合ニ限り裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコ

トヲ得

代理人又ハ管理人ハ本人ノ利益ニ關係アル目

録調製、計算及ヒ清算ニ付テ本人ヲ代表ス

第二百七十三條 管理人ハ失踪者ノ動産及ヒ證

書ノ目錄ヲ調製ス可シ又不動産ノ形狀ヲ確定

セシムル爲メ鑑定人ノ選定ヲ裁判所ニ請求ス

ルコトヲ得鑑定人ノ報告書ハ裁判所ノ認可ニ

付スルコトヲ要ス此等ノ手續ノ費用ハ本人ノ

財産ヲ以テ之ヲ支辨ス

關係人、推定相續人又ハ檢事ノ請求アルトキ

ハ本條ノ規定ヲ代理人ニ適用スルコトヲ得

第二百七十四條 代理人又ハ管理人ハ推定相續

人ヲ除ク外其請求ニ因リテ裁判所ノ定メタル

給料ヲ受ク裁判所ハ管理及ヒ財産返還ノ擔保

トシテ保證人其他相當ノ擔保ヲ立テシムルコ

トヲ得

第二百七十五條 代理人又ハ管理人ハ失踪者ノ

子孫ノ教育、婚姻又ハ營業ノ爲メ資財ヲ與フ

ルニ付テハ區裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要

ス

第二節 失踪ノ宣言

第二百七十六條 失踪者カ代理人ヲ定置カサリ

シトキハ五個年又代理人ヲ定メ置キタルトキ

ハ任期ノ長短ヲ問ハス七個年ニ至ルモ其生死

ノ音信ヲ得サルニ於テハ失踪者ノ死亡ニ因リ

テ發生スル權利ヲ其財産上ニ有スル者ハ失踪

者ノ住所ノ區裁判所ニ失踪ノ宣言ヲ請求スル
コトヲ得

第二百七十七條 右請求ノ許ス可キモノナルト
キハ裁判所ハ失踪者ノ住所及ヒ其最後ノ居所
ノ地ニ於テ證人訊問ヲ爲ス可キコトヲ命ス可
シ此證人訊問ニ付テハ民事訴訟法ニ定メタル
忌避ノ規則ヲ適用セス

第二百七十八條 證人訊問ヲ命スル決定ハ裁判
所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ
テ之ヲ公示ス可シ

第二百七十九條 失踪宣言ノ裁判ハ證人訊問ヲ
命シタル決定ヨリ一個年ノ後ニ非サレハ之ヲ
宣告スルコトヲ得ス

此裁判ハ前條ノ手續ニ從ヒテ之ヲ公示ス可シ

第三節 失踪宣言ノ效力

第二百八十條 失踪宣言ノ裁判アリタルトキハ
失踪者ノ遺言書ハ關係人、推定相續人又ハ檢
事ノ請求ニ因リテ之ヲ開封ス可シ

失踪者ノ亡失又ハ最後音信ノ日ニ於ケル推定
相續人其他失踪者ノ死亡ニ因リテ發生スル權
利ヲ其財産上ニ有スル者ハ直チニ其財産ヲ占
有スルコトヲ得

第二百八十一條 失踪者ニ屬スル財産ノ占有ニ
付テハ總テ相續ニ關スル規定ヲ適用ス
此占有ヲ得タル者ハ第三者ニ對シテハ財産ノ
所有者トス

然レトモ占有者ハ推定相續人ヲ除ク外財産返
還ノ擔保トシテ裁判所カ相當ト認ムル保證人
其他ノ擔保ヲ立ツ可シ其保證人ノ義務又ハ擔
保ハ十五個年ノ後止ム

第二百八十二條 失踪者ノ現出シ又ハ音信アリ
タルトキハ失踪宣言ノ效力ハ即時ニ止ム

失踪者ハ其財産ヲ現狀ノ儘ニテ取回シ又占有
者ノ處分ニ因リテ不當ニ利得シタルモノヲ取
戻スコトヲ得

第二百八十三條 果實ニ付テハ失踪者カ其亡失

又ハ最後音信ノ日ヨリ十個年內ニ現出スルト
キハ其五分ノ一ヲ取戻スコトヲ得十個年後ハ
其全部ヲ失フ

第二百八十四條 失踪者ノ相續順位ニ在ル者ハ
他ノ者カ財産占有ヲ得タル日ヨリ三十個年間
其財産ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テモ果實ハ前條ノ規定ニ從ヒテ之
ヲ取戻スコトヲ得

第四節 失踪ノ推定及ヒ宣言ニ關スル
通則

第二百八十五條 失踪シテ生存ノ確實ナラサル
人ニ歸ス可キ權利ヲ請求スル者ハ其人カ權利
ノ發生セシ日ニ生存シタルヲ證スルコトヲ要
ス此舉證ヲ爲サ、ル間ハ其請求ヲ受理セス

第二百八十六條 失踪シテ生存ノ確實ナラサル
人ニ歸ス可キ相續ハ次順位ノ者ニ屬ス

失踪者ニ歸ス可キ財産ヲ相續スル者ハ財産目
録ヲ調製ス可シ

第二百八十七條 前二條ノ規定ハ失踪者又ハ其
相續人及ヒ承繼人ニ屬スル相續ノ請求其他ノ
權利ヲ行フヲ妨クルコト無シ此等ノ權利ハ普
通ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第五節 不在者ニ關スル規則

第二百八十八條 生存ノ確實ナル人カ住所若ク
ハ居所ヲ去リテ其財産ヲ管理スル者アラサル
トキ又ハ裁判所カ未タ失踪ヲ推定セサルモ本
人ノ不在ノ爲メ其財産ノ放置セラルルトキ又
ハ失踪ノ推定中若クハ宣言後ニ失踪者ノ生存
ノ確實ト爲リタルトキハ區裁判所ハ利害關係
人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ必要ノ保存處分ヲ
命スルコトヲ得

第十六章 身分ニ關スル證書

第二百八十九條 出生、婚姻、養子縁組、死亡其
他各人ノ身分ニ關スル事件ハ身分取扱吏ノ主
管スル帳簿ニ之ヲ記載ス可シ

第二百九十條 帳簿ニ記載シタル證書ハ公正證

書ノ證據カヲ有ス但違法ノ記載ハ效力ナシ
合式ノ謄本ハ證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百九十一條 帳簿ノ設備ナク若クハ中絶シ
タルトキ又ハ其全部若クハ一分ノ毀損シ亡滅
シタルトキ又ハ其記載上甚シキ違式、錯誤若
クハ脱漏アリテ信用ヲ置ク可カラサルトキ又
ハ身分取扱吏ノ詐欺若ハク過失ニ因リテ證書
ヲ作ラサリシトキハ證人又ハ私ノ書類ヲ以テ
先ツ其事實ヲ證シ且身分上ノ事件ヲ證スルコ
トヲ得

第二百九十二條 證書ノ訂正ハ裁判ヲ以テスル
ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九十三條 帳簿ノ調製、證書ノ記載、届出
ノ手續其他ノ事項ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

民法財産編目錄

總則 財産及ヒ物ノ區別

第一部 物權

第一章 所有權

第二章 用益權、使用權及ヒ住居權

第一節 用益權

第一款 用益權ノ設定

第二款 用益者ノ權利

第三款 用益者ノ義務

第四款 用益權ノ消滅

第二節 使用權及ヒ住居權

第三章 賃借權、永借權及ヒ地上權

第一節 賃借權

第一款 賃借權ノ設定

第二款 賃借人ノ權利

第三款 賃借人ノ義務

第四款 賃借權ノ消滅

第二節 永借權及地上權

第一款 永借權

第二款 地上權

第四章 占有

第一節 占有ノ種類及ヒ占有スルコト ヲ得ヘキ物

第二節 占有ノ取得

第三節 占有ノ効力

第四節 占有ノ喪失

第五章 地役

總則

第一節 法律ヲ以テ設定シタル地役

第一款 隣地ノ立入又ハ通行ノ權利

第二款 水ノ疏通、使用及ヒ引入

第三款 經界

第四款 圍障

第五款 互有

第六款 他人ノ所有地ニ對スル觀望

及ヒ明取窓

第七款 或ル工作物ニ要スル距離前

諸款ニ共通ナル規則

第二節 人爲ヲ以テ設定シタル地役

第一款 地役ノ性質及ヒ種類

第二款 地役ノ設定

第三款 地役ノ効力

第四款 地役ノ消滅

第二部 人權及ヒ義務

總則

第一章 義務ノ原因

總則

第一節 合意

第一款 合意ノ種類

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件

第三款 合意ノ効力

第一則 當事者間及ヒ其承繼人間

ノ合意ノ効力

二

第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力

力

第四款 合意ノ解釋

第二節 不當ノ利得

第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪

罪

第四節 法律ノ規定

第二章 義務ノ効力

總則

第一節 直接履行ノ訴權

第二節 損害賠償ノ訴權

第三節 擔保

第四節 義務ノ諸種ノ體樣

第一款 成立ノ單純、有期又ハ條件

附ナル義務

第二款 目的ノ單一、選擇又ハ任意

ノ義務

第三款 債權者及ヒ債務者ノ單數又

ハ複數ナル義務

第四款 性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務

可分ナル義務

第三章 義務ノ消滅

第一節 辨濟

第一款 單純ノ辨濟

第二款 辨濟ノ充當

第三款 辨濟ノ提供及ヒ供託

第四款 代位ノ辨濟

第二節 更改

第三節 合意上ノ免除

第四節 相殺

第五節 混同

第六節 履行ノ不能

第七節 銷除

第八節 廢罷

第九節 解除

第四章 自然義務

民法

財産編

總則 財産及ヒ物ノ區別

第一條 財産ハ各人又ハ公私ノ法人ノ資産ヲ組成スル權利ナリ

此權利ニ二種アリ物權及ヒ人權是ナリ

第二條 物權ハ直チニ物ノ上ニ行ハレ且總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ヘキモノニシテ主タル有リ從タル有リ

主タル物權ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 完全又ハ虧蝕ノ所有權

第二 用益權、使用權及ヒ住居權

第三 賃借權、永借權及ヒ地上權

第四 占有權

從タル物權ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 地役權

第二 留置權

第三 動産質權

第四 不動産質權

第五 先取特權

第六 抵當權

右地役權ハ所有權ノ從タル物權ニシテ留置權以下ハ人權ノ擔保ヲ爲ス從タル物權ナリ

第三條 人權即チ債權ハ定マリタル人ニ對シ法律ノ認ムル原因ニ由リテ其負擔スル作爲又ハ不作爲ノ義務ヲ盡サシムル爲メ行ハル、モノニシテ亦主タル有リ從タル有リ

從タル人權ハ債權ノ擔保ヲ爲ス保證及ヒ連帶ノ如シ

第四條 著述者ノ著書ノ發行、技術者ノ技術物ノ製出又ハ發明者ノ發明ノ施用ニ付テノ權利ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五條 權利ハ物權ト人權トヲ問ハス目的物ノ種種ノ區別ニ從ヒテ其様ヲ變ス此區別ハ物ノ性質、人ノ意思又ハ法律ノ規定ヨリ生ス即チ下ニ掲クル如シ

第六條 物ニ有體ナル有リ無體ナル有リ

有體物トハ人ノ感官ニ觸ルルモノヲ謂フ即チ地所、建物、動物、器具ノ如シ

無體物トハ智能ノミヲ以テ理會スルモノヲ謂フ即チ左ノ如シ

第一 物權及ヒ人權

第二 著述者、技術者及ヒ發明者ノ權利

第三 解散シタル會社又ハ清算中ナル共通

ニ屬スル財産及ヒ債務ノ包括

第七條 物ハ其性質ニ因リ又ハ所有者ノ用方ニ因リ遷移スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ動産タリ不動産タリ此他法律ノ規定ニ因リテ動産タリ不動産タル物アリ

第八條 性質ニ因ル不動産ハ左ノ如シ

第一 耕地、宅地其他土地ノ部分

第二 池沼、溜井、溝渠、堀割、泉源

第三 土手、棧橋其他此類ノ工作物

第四 土地ニ定著シタル浴場、水車、風車又

ハ水力、蒸氣ノ機械

第五 樹林、竹木其他ノ植物但第十二條ニ記載シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六 果實及ヒ收穫物ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第七 礦物、坑石、泥炭及ヒ肥料土ノ未タ土地ヨリ離レサルモノ

第八 建物及ヒ其外部ノ戸扉但第十二條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第九 塙、籬、柵

第十 水ノ出入又ハ瓦斯、温氣ノ引入ノ爲メ土地又ハ建物ニ附著シタル筒管

第十一 土地又ハ建物ニ附著シタル電氣機器

此他總テ性質ニ因リテ移動ス可キモノト雖モ建物ニ必要ナル附屬物

第九條 動産ノ所有者カ其土地又ハ建物ノ利

用、便益若クハ粧飾ノ爲メニ永遠又ハ不定ノ時間其土地又ハ建物ニ備附ケタル動産ハ性質ノ何タルヲ問ハス用方ニ因ル不動産タリ即チ左ノ如シ但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラ

第一 土地ノ耕作、利用又肥料ノ爲メニ備ヘタル獸畜

第二 耕作用ニ備ヘタル器具、種子、藁草及ヒ肥料

第三 養蠶場ニ備ヘタル蠶種

第四 樹木ノ支持ニ備ヘタル棚架及ヒ杭柱

第五 土地ニ生スル物品ノ化製ニ備ヘタル器具

第六 工業場ニ備ヘタル機械及ヒ器具

第七 不動産ノ常用ニ備ヘタル小舟但其水流カ公有ニ係リ又ハ他人ニ屬スルトキモ亦同シ

圖第二庭八裝置シタル石燈籠、火鉢及ヒ

第十一條 自力又ハ他力ニ因リテ遷移スルコト

岩石

第九 建物ニ備ヘタル壘、建具其他ノ補足物及ヒ毀損スルニ非サレハ取離スコトヲ得サル匾額、玻璃鏡、彫刻物其他各種ノ粧飾物

第十 修繕中ノ建物ヨリ取離シテ再ヒ之ニ用ユ可キ材料

第十條 法律ノ規定ニ因ル不動産ハ左ノ如シ

第一 上ニ列記シタル不動産ノ上ニ存スル物權

第二 不動産ノ上ニ存スル物權ヲ取得セントシ又ハ取回セントスル人權

第三 建築師ノ材料ヲ以テ建物ヲ築造セシムル債權

第四 動産債權ニシテ法律カ不動産ト爲シ又ハ各人カ法律ノ規定ニ依リテ不動産ト爲シタルモノ

止メシムル債權縱令其權利カ不動産タルトキモ亦同シ

第四 法人タル會社存立ノ間社員カ其會社ニ對シテ有スル權利縱令不動産カ會社ニ屬スルトキモ亦同シ

第五 著述者、技術者及ヒ發明者ノ權利

第十四條 解散シタル會社又ハ清算中ナル共通ニ屬スル財産ノ一分ニ付テ有スル權利ノ動産タリ不動産タル性質ハ分割ニ於テ各利害關係人ノ受クル財産ノ性質ニ因リテ定マル

當事者ノ一方ノ選擇ニ任スル動産又ハ不動産ヲ目的トスル擇一又ハ任意債權ノ性質モ亦其辨濟ニ付キ選擇シタル物ノ性質ニ因リテ定マル

第十五條 物ハ他ニ附屬セスシテ完全ナル效用ヲ爲スト否ニ從ヒテ主タル有リ從タル有リ用方ニ因ル不動産ハ性質ニ因ル不動産ノ從ナリ地役ハ要役地ノ從ナリ債權ノ擔保ハ債權ノ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

從ナリ

ヲ得ル物ハ性質ニ因ル動産タリ但第八條及ヒ第九條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス
第十二條 假ニ土地ニ定著セシメタル物ハ用方ニ因ル動産タリ即チ左ノ如シ
第一 建築ノ足場及ヒ支柱
第二 建築ヲ爲スノ間其用ニ備ヘタル小屋
第三 植木師及ヒ園丁カ賣ル爲メニ培養シ又ハ保存シタル草木
第四 取毀ツ爲メニ讓渡シタル建物其他ノ工作物又ハ取去スル爲メニ讓渡シタル樹木及ヒ收穫物
第十三條 法律ノ規定ニ因ル動産ハ左ノ如シ
第一 上ニ指定シタル動産ノ上ニ存スル物權
第二 有體動産ヲ取得シ又ハ取回セントスル債權但不動産ヲ以テ其擔保ニ充ツルトキモ亦同シ
第三 所爲ヲ成就セシメ又ハ權利ノ行使ヲ

從ナリ

第十六條 物ハ左ノ如ク之ヲ視ルコトヲ得

第一 特定物即チ某家、某田、某獸ノ如キ殊別ナル物

第二 定量物即チ金、幾圓、米、幾石、布、幾反ノ

如キ數量尺度ヲ以テ算フル物

第三 聚合物即チ群畜、書庫ノ書籍、店舖ノ

商品ノ如キ増減シ得ヘキ多少類似ナル物

第四 包括產財即チ相續ノ總動產若クハ總

不動產又ハ相續ノ全部若クハ一分ノ如キ

資產ノ全部又ハ一分ヲ組成スル物

第十七條 物ハ其性質ニ因リ一回ノ使用ニテ消

費スルト否トニ從ヒテ消費物タリ不消費物タ

リ

第十八條 物ハ當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ

因リ同種ノ物ヲ以テ代フルコトヲ得ルト否ト

ニ從ヒテ代替物タリ不代替物タリ

定量物及ヒ一回ノ使用ニテ消費スル物ハ概シ

八

テ之ヲ當事者ノ意思ニ因ル代替物ト看做ス

第十九條 物ハ其性質、當事者ノ意思又ハ法律

ノ規定ニ因リ形體上又ハ智能上分割スルコト

ヲ得ルト否トニ從ヒテ可分物タリ不可分物タ

リ

或ル地役及ヒ或ル作爲又ハ不作爲ノ義務ハ性

質ニ因ル不可分物ナリ

物ノ一分ノ供與ヲ以テ合意ノ目的タル便益ヲ

與フルコト能ハサルトキハ其物ハ當事者ノ意

思ニ因ル不可分物ナリ

抵當及ヒ債權ノ物上擔保ハ法律ノ規定ニ因ル

不可分物ナリ

第二十條 物ハ所有ニ屬スルモノ有リ所有ニ屬

セサルモノ有リ

所有ニ屬スル物トハ公私ノ資産ノ部分ヲ爲ス

モノヲ謂フ

所有ニ屬セサル物トハ無主又ハ公共ノモノヲ

謂フ

第二十一條 公ノ法人ニ屬スル物ニ公有及ヒ私

有ノ二種アリ

第二十二條 公ノ法人ニ屬シ國用ニ供シタル物

ハ公有ノ部分ヲ爲ス即チ左ノ如シ

第一 國領ノ海及ヒ海濱但海濱ハ春分、秋

分最高潮ノ到ル處ヲ以テ限ト爲ス

第二 道路、舟若クハ筏ノ通ス可キ川又ハ

堀割及ヒ其床地

第三 城砦、壘壁其他陸海防禦ノ工作物

第四 軍用ノ工廠、船艦、兵器、機械其他ノ

物品

第五 官廳ノ建物

第二十三條 公ノ法人カ各人ト同一ノ名義ニテ

所有スル物ニシテ金錢ニ見積ルコトヲ得ル收

入ヲ生ス可キモノハ其私有ノ部分ヲ爲ス即チ

國、府縣、市町村有ノ海濱、樹林、牧場ノ如シ

所有者ナキ不動產及ヒ相續人ナクシテ死亡シ

タル者ノ遺產ハ當然國ニ屬ス

第二十四條 無主物トハ何人ニモ屬セスト雖モ

所有權ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモノヲ謂フ即

チ遺棄ノ物品、山野ノ鳥獸、河海ノ魚介ノ如シ

第二十五條 公共物トハ何人ノ所有ニモ屬スル

コトヲ得スシテ總テノ人ノ使用スルコトヲ得

ルモノヲ謂フ即チ空氣、光線、流水、大洋ノ如

シ

第二十六條 物ハ私ノ所有權又ハ債權ノ目的ト

爲ルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ融通物タリ不

融通物タリ

公ノ秩序ノ爲メ法律ニ於テ處分ヲ禁シタル物

及ヒ公有ノ財產ハ不融通物ナリ

第二十七條 物ハ讓渡スコトヲ得ルモノ有リ讓

渡スコトヲ得サルモノ有リ

所有權ヨリ支分シタル使用權又ハ住居權、要

役地ヨリ分離セルモノト看做シタル地役及ヒ

政府ノ與ヘタル開坑ノ特許其他ノ特權ハ概シ

テ融通物ナリト雖モ讓渡スコトヲ得サルモノ

九

ナリ

第二十八條 物ハ法律ニ定メタル條件ヲ具備スル占有ニ附著セル取得ノ推定ヲ受クルト否トニ從ヒテ時効ニ罹ルコトヲ得ルモノ有リ時効ニ罹ルコトヲ得サルモノ有リ

第二十九條 物ハ其所有者ノ債權者カ強制賣却ヲ請求スルコトヲ得ルト否トニ從ヒテ差押フルコトヲ得ルモノ有リ差押フルコトヲ得サルモノ有リ

不融通物、讓渡スコトヲ得サル物其他法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ差押ヲ禁シタル物ハ差押フルコトヲ得サルモノナリ即チ無償ニテ設定シタル終身年金權ノ如シ

第一部 物權

第一章 所有權

第三十條 所有權トハ自由ニ物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ謂フ

此權利ハ法律又ハ合意又ハ遺言ヲ以テスルニ

非サレハ之ヲ制限スルコトヲ得ス

十

第三十一條 不動産ノ所有者ハ適法ニ認メ及ヒ宣言シタル公益ニ因由シ且公用徵收法ニ從ヒテ定メタル償金ノ拂渡ヲ豫メ受クルニ非サレハ其所有權ノ讓渡ヲ強要セラルルコト無シ

動産ノ公用徵收ハ毎回定ムル特別法ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第三十二條 所有者ハ償金ヲ得ルニ於テハ公益工事ノ便利ノ爲メ所有物ノ一時ノ占據ヲ強要セラルルコト有リ

第三十三條 物料ノ採掘、道路ノ劃線、樹木ノ採伐、水其他ノ物ノ收取ニ付キ一般又ハ一地方ノ公益ノ爲メ設ケタル地役ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三十四條 土地ノ所有者ハ其地上ニ一切ノ築

造、栽植ヲ爲シ又ハ之ヲ廢スルコトヲ得又其地下ニ一切ノ開鑿及ヒ採掘ヲ爲スヲ得

右何レノ場合ニ於テモ公益ノ爲メ行政法ヲ以テ定メタル規則及ヒ制限ニ從フコトヲ要ス此他相隣地ノ利益ノ爲メ所有權ノ行使ニ付シタル制限及ヒ條件ハ地役ノ章ニ於テ之ヲ規定ス

第三十五條 鑛物ノ所有權及ヒ其試掘若クハ開抗ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三十六條 所有者其物ノ占有ヲ妨ケラレ又ハ奪ハレタルトキハ所持者ニ對シ本權訴權ヲ行フコトヲ得但動産及ヒ不動産ノ時効ニ關シ證據ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス又所有者ハ第九十九條乃至第二百十二條ニ定メタル規則ニ從ヒ占有ニ關スル訴權ヲ行フコトヲ得

第三十七條 數人一物ヲ共有スルトキハ持分ノ

均不均ニ拘ハラズ各共有者其物ノ全部ヲ使用スルコトヲ得但其用方ニ從ヒ且他ノ共有者ノ使用ヲ妨ケサルコトヲ要ス

各共有者ノ持分ハ之ヲ相隣シキモノト推定ス但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

天然又ハ法定ノ果實及ヒ產出物ハ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シ定期ニ於テ之ヲ分割ス各共有者ハ其物ノ保存ニ必要ナル管理其他ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

各共有者ハ其持分ニ應シテ諸般ノ負擔ニ任ズ

右規定ハ使用、收益又ハ管理ヲ格別ニ定ムル合意ヲ妨ケス

第三十八條 處分權ニ付テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾アルニ非サレハ其物ノ形變ヲ變スルコトヲ得ス又自己ノ持分外ニ物權ヲ付スルコトヲ得ス

共有者ノ一人其持分ヲ讓渡シタルトキハ讓受

人ハ他ノ共有者ニ對シ讓渡人ニ代ハリ其地位ヲ有ス

第三十九條 各共有者ハ如何ナル合意アルモ常ニ共有物ノ分割ヲ請求スルコトヲ得

然レトモ共有者ハ五ヶ年ヲ超ユサル定期ノ時間分割セサルヲ約スルコトヲ得

此合意ハ何時ニテモ之ヲ更新スルコトヲ得但其時間ハ亦五ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス

右規定ハ數箇ノ所有地ニ共通ナル通路、井戸、籬壁、溝渠ノ互有ヨリ生スル共有權ニ之ヲ適用セス

第四十條 數人ニテ一家屋ヲ區分シ各其一部分ヲ所有スルトキハ相互ノ權利及ヒ義務ハ左ノ如ク之ヲ規定ス

各所有者ハ離隔セル所有物ノ如クニ自己ノ持分ヲ處分スルコトヲ得

諸般ノ租稅及ヒ建物並ニ其附屬物ノ共用ノ部分ニ係ル大小修繕ハ各自ノ持分ノ價格ニ應シ

テ之ヲ負擔ス 各自ハ己レニ屬スル部分ニ係ル費用ヲ一人ニテ負擔ス

第四十一條 所有權ハ當事者ノ間ニ於ケルモ第三者ニ對スルモ本編及ヒ財產取得編ニ記載シタル原因及ヒ方法ニ依リ之ヲ取得シ保存シ及ヒ轉付ス

主タル物ノ處分ハ從タル物ノ處分ヲ帶フ但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第四十二條 所有權ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

第一 任意又ハ強要ノ讓渡

第二 他人ノ物ニ自己ノ物ノ添附

第三 法律ニ依リテ宣告シタル沒收

第四 取得ノ解除、銷除又ハ廢罷

第五 物ヲ處分スル能力アル所有者ノ任意ノ遺棄

第六 物ノ全部ノ毀滅

第四十三條 動產及ヒ不動產ノ所有權ノ取得及ヒ消滅ニ關スル時効ノ性質及ヒ効力ニ付テハ證據編ノ規定ニ從フ

第二章 用益權、使用權及ヒ住居權 第一節 用益權

第四十四條 用益權トハ所有權ノ他人ニ屬スル物ニ付キ其用方ニ從ヒ其元質本體ヲ變スルコト無ク有期ニテ使用及ヒ收益ヲ爲スノ權利ヲ謂フ

第一款 用益權ノ設定

第四十五條 用益權ハ法律又ハ人意ニ因リテ設定スルモノトス

法律ニ因ル用益權ノ設定ハ別ニ定ムル法律ノ規定ニ從フ

人意ニ因ル用益權ノ設定ハ所有權ノ取得及ヒ移轉ニ關スル規則ニ從フ

又用益權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル財產ノ上ニ之ヲ留存シテ設定スルコトヲ得

時効ヲ以テ用益權ノ取得ヲ證スル條件ハ時効

第四十六條 用益權ハ動產ト不動產ト有體物ト無體物トヲ問ハス一切ノ融通物ノ上ニ之ヲ設定スルコトヲ得

又用益權ハ他ノ用益權ノ上、終身年金權ノ上又ハ包括權原ニテ資產ノ上ニ之ヲ設定スルコトヲ得

第四十七條 用益權ハ始時若クハ終時ヲ定メ又ハ期限ヲ定メスシテ之ヲ設定スルコトヲ得

又用益權ハ其始時又ハ終時ヲ未必條件ノ成就ニ繫ケテ之ヲ設定スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ其期間ハ用益者ノ終身ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十八條 用益權ハ一人又ハ數人ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得數人ノ終身ヲ期シテ設定シタルトキハ數人同時ニ又ハ順次ニ之

ヲ以テ完全ノ所有權ノ取得ヲ證スル條件ニ同シ

第四十九條 用益權ハ其始時又ハ終時ヲ未必條件ノ成就ニ繫ケテ之ヲ設定スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ其期間ハ用益者ノ終身ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十條 用益權ハ一人又ハ數人ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得數人ノ終身ヲ期シテ設定シタルトキハ數人同時ニ又ハ順次ニ之

ヲ以テ完全ノ所有權ノ取得ヲ證スル條件ニ同シ

第五十一條 用益權ハ其始時又ハ終時ヲ未必條件ノ成就ニ繫ケテ之ヲ設定スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ其期間ハ用益者ノ終身ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十二條 用益權ハ一人又ハ數人ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得數人ノ終身ヲ期シテ設定シタルトキハ數人同時ニ又ハ順次ニ之

ヲ以テ完全ノ所有權ノ取得ヲ證スル條件ニ同シ

第五十三條 用益權ハ其始時又ハ終時ヲ未必條件ノ成就ニ繫ケテ之ヲ設定スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ其期間ハ用益者ノ終身ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十四條 用益權ハ一人又ハ數人ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得數人ノ終身ヲ期シテ設定シタルトキハ數人同時ニ又ハ順次ニ之

ヲ以テ完全ノ所有權ノ取得ヲ證スル條件ニ同シ

ヲ行フ

右執レノ場合ニ於テモ用益權ハ其權利發開ノ時既ニ出生シ又ハ胎内ニ在ル者ノ爲メニスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第二款 用益者ノ權利

第四十九條 用益者ハ其權利ノ發開シタルトキ若シ始時ノ定アラハ其期限ノ到來シタルトキハ次款ニ定メタル不動産形狀書、動産目錄ヲ作り及ヒ保證ヲ立ツル義務ヲ履行シタル後其用益權ノ存スル物ノ占有ヲ要求スルコトヲ得

用益者ハ用益物ヲ其現狀ニテ受取ル可シ修繕又ハ恰好ヲ求ムルコトヲ得ス但權利發開ノ後設定者若クハ其相續人ノ過失ニ因リ又ハ發開ノ前ト雖モ其惡意ニ因リテ用益物ヲ毀損シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十條 用益者カ收益ヲ始ムルコトヲ得ルヨリ以後ニ虛有者ノ收取シタル果實ハ用益者ニ

ニ屬ス乳汁、肥料及ヒ剪毛季節ニ剪取シタル剪毛モ亦同シ

第五十四條 法定ノ果實ハ其拂渡時期ノ如何ヲ問ハス收益ヲ始ムルコトヲ得ル時ヨリ用益權ノ消滅スルマテ用益者日割チ以テ之ヲ取得ス

法定ノ果實ハ用益物ニ付キ第三者ヨリ金錢ヲ以テ拂フ可キ納額即チ土地、建物ノ借賃、借入金ノ利息、會社ノ配當金、年金權ノ年金、石坑ノ借料ノ類ナリ

第五十五條 用益物中ニ金穀其他日用品ノ如キ消費スルニ非サレハ使用シ及ヒ收益スルコトヲ得サル動産アルトキハ用益者ハ之ヲ消費シ又ハ讓渡スルヲ得但用益權消滅ノ時同數量、同品質ノ物ヲ返還シ又ハ收益ヲ始ムル以前ニ評價ヲ爲シタルニ於テハ其代價ヲ返還スルコトヲ要ス

右規定ハ用益權ヲ設定シタル商業資産ヲ組成

屬ス縱令用益者カ自ラ其收益ヲ遲延シタルモ亦同シ但其果實ノ收取及ヒ保存ノ費用ヲ虛有者ニ償還スルコトヲ要ス

用益者ハ收益ヲ始ムル時根枝ニ由リテ土地ニ附著スル果實ヲ其成熟ニ至リ收取スル權利ヲ有ス但耕耘、種子、栽培ノ費用ヲ虛有者ニ償還スルコトヲ要セス

第五十一條 用益者ハ其權利ノ繼續間用益物ヨリ生スル天然及ヒ法定ノ一切ノ果實ニ付キ所有者ニ同シキ權利ヲ有ス

第五十二條 天然ノ果實ハ自然ニ生シタルト栽培ニ因リテ得タルトヲ問ハス土地ヨリ之ヲ離シタル時直チニ用益者ニ屬ス縱令事變又ハ盜奪ニ因リテ離レタルモ亦同シ然レトモ果實カ其成熟前ニ土地ヨリ離レ且用益權カ通常ノ收取季節前ニ消滅シタルトキハ其利益ハ虛有者ニ歸ス

第五十三條 獸畜ノ子ハ其產出ノ時ヨリ用益者

スル商品ト其他ノ代替物トニ之ヲ適用ス

第五十六條 住居用ノ器具其他使用ニ因リテ毀損ス可キ用益物ニ付テハ用益者ハ其用方ニ從ヒテ之ヲ使用シ且用益權消滅ノ時其現狀ニテ之ヲ返還スルコトヲ得但用益者ノ過失又ハ懈怠ニ因リテ重大ノ毀損ヲ致シタルトキハ此限ニ在ラス

又貸貸スルコトヲ得ヘキ性質ノ用益物ニ非サレハ用益者ハ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ貸貸スルコトヲ得ス

第五十七條 終身年金權ノ用益者ハ年金權者ト同シク其年金ヲ收取スルノ權利ヲ有ス但反對ノ條件アルトキハ此限ニ在ラス

既ニ設定シタル用益權ニ付キ更ニ用益權ヲ得タル者ハ原用益者ニ屬スル一切ノ權利ヲ行フ

第五十八條 種類及ヒ員數ノミヲ以テ定メタル畜群ノ用益者ハ保存ヲ要セサル部分ヲ毎年處分スルコトヲ得但其子ヲ以テ全數ヲ保持スル

コトヲ要ス

第五十九條 用益者ハ大小木ノ樹林及ヒ竹林ニ付テハ從來ノ所有者ノ慣習及ヒ採伐方ニ從ヒ定期ノ採伐ヲ爲シテ收益ス

採伐方ノ未タ確ニ定マラサルトキハ用益者ハ近傍ノ重モナル所有者又ハ國、府縣、市町村ニ屬スル樹林ノ慣習ニ從フ但採伐スル一个月前ニ虛有者ニ豫告スルコトヲ要ス

第六十條 從來ノ所有者ノ定期採伐ヲ爲サザリシ保存木及ヒ大樹木ニ付テハ用益者ハ其樹木ノ定期產出物ノミヲ得ル權利ヲ有ス

然レトモ用益權ノ存スル建物ノ大修繕ヲ要スルトキハ用益者ハ枯レ又ハ倒レタル大樹木ヲ之ニ用ユルコトヲ得若シ生水ヲ要スルトキハ虛有者立會ニテ其必要ヲ證セシ後之ヲ採伐スルコトヲ得

第六十一條 用益者ハ用益樹木ヲ支持スルニ必要ナル棚架、支柱及ハ杭代ニ用ユル竹木ヲ何時ニテモ其用益地ノ樹林及ヒ竹林ヨリ採取スルコトヲ得

時ニテモ其用益地ノ樹林及ヒ竹林ヨリ採取スルコトヲ得

第六十二條 用益者ハ用益樹木ヲ植續キ又ハ植増ス爲メ其用益地ノ苗床ヨリ苗木ヲ採取スルコトヲ得

又用益者ハ苗其床ノ苗木ヲ定期ニ賣ルコトヲ得但從來此用方アルトキ又ハ其生殖力用益地ノ需用ニ餘ルトキニ限ル

右孰レノ場合ニ於テモ用益者ハ苗木又ハ種子ヲ以テ苗床ヲ保持スルコトヲ要ス

第六十三條 用益地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フヲ要セサル石類、石灰類其他ノ物ノ石抗アルトキハ用益者ハ從來ノ所有者ノ如ク其收益ヲ爲ス

右石抗ヲ未タ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタルトキハ用益者ハ其用益物中ノ建物、牆壁其他ノ部分ノ大小修繕ニ必要ナル材料ノミヲ採取スルコトヲ得但其土地ヲ損傷セス且第六十

條ニ記載シタル如ク豫メ其必要ヲ證スルコトヲ要ス

又用益者ハ前二項ノ區別ニ從ヒ其用益地ノ泥炭及ヒ肥料土ニ付キ收益スルコトヲ得

第六十四條 用益者ハ用益不動産ニ於テ第三者ノ發見シタル埋藏物ニ付キ權利ヲ有セス

第六十五條 用益者ハ用益地ニ於テ猛獵及ヒ捕漁ヲ爲ス權利ヲ有ス

第六十六條 用益者ハ用益不動産ニ屬スル一切ノ地役權ヲ行フ若シ不使用ニ因リテ之ヲ消滅セシメタルトキハ虛有者ニ對シテ其責ニ任ス

第六十七條 用益者ハ虛有者及ヒ第三者ニ對シテ直接ニ其收益權ニ關スル占有及ヒ本權ノ物上訴權ヲ行フコトヲ得

又用益者ハ用益不動産ノ働方又ハ受方ノ地役ニ付キ自己ノ權利ノ範圍内ニ於テ占有ニ係ルト本權ニ係ルトヲ問ハス要請又ハ拒却ノ訴權ヲ行フコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ第九十八條ノ規定ヲ適用ス

第六十八條 用益者ハ有償又ハ無償ニテ其用益權ヲ讓渡シ賃貸シ又ハ用益ニ付スルコトヲ得且用益物カ抵當ト爲ル可キモノナルトキハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ得

如何ナル場合ニ於テモ用益者ノ付與シタル權利ハ其用益權ト同シキ期間、制限及ヒ條件ニ從フ但賃貸借ノ期間及ヒ其更新ニ付テハ第一百十九條乃至百二十二條ノ規定ヲ適用ス

第六十九條 用益者ハ用益權消滅ノ時猶ホ土地ニ附着シテ其收取セザリシ果實及ヒ產出物ノ爲メ償金ヲ求ムル權利ヲ有セス

又用益物ニ改良ヲ加ヘテ價格ヲ増シタルトキト雖モ其改良ノ爲メ虛有者ニ對シテ償金ヲ求ムルコトヲ得ス

用益者ハ自己ノ設ケタル建物、樹木、粧飾物其他ノ附加物ヲ收去スルコトヲ得但用益物ヲ舊

狀ニ復スルコトヲ要ス

第七十條 用益權消滅ノ時用益者又ハ其相續人カ前條ニ從ヒテ收去スルコトヲ得ヘキ建物及ヒ樹木等ヲ賣ラントスルトキハ虛有者ハ鑑定人ノ評價シタル現時ノ代價ヲ以テ先買スルコトヲ得

用益者ハ虛有者ニ右先買權ヲ行フヤ否ヤヲ述フ可キノ催告ヲ爲シ其後十日内ニ虛有者カ先買ノ陳述ヲ爲サヌ又ハ之ヲ拒絕シタルトキニ非サレハ其收去ニ著手スルコトヲ得ス
虛有者カ先買ノ陳述ヲ爲シタリト雖モ鑑定ノ後裁判所ノ處決ノ確定シタル時ヨリ一个月内ニ其代金ヲ辨濟セサルトキハ先買權ヲ失フ但損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス
用益者又ハ其相續人ハ代金ノ辨濟ヲ受クルマテ建物ヲ占有スルコトヲ得

第三款 用益者ノ義務

第七十一條 用益者ハ用益物ノ占有ヲ始ムル前

自費ヲ以テ目錄又ハ形狀書ヲ作ルコトヲ得但此事ニ付キ虛有者ハ十一日以上收益ヲ妨クルコトヲ得ス

第七十二條及ヒ第七十三條第一項ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第七十五條 用益者ハ目錄又ハ形狀書ヲ作ル義務ヲ履行セスシテ收益ヲ始メタルトキハ完好ナル形狀ニテ不動産ヲ受取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス
不動産ニ付テハ虛有者ハ通常ノ證據ハ勿論世評ヲ以テ其實體及ヒ價格ヲ變スルコトヲ得

第七十六條 用益者ハ用益權消滅ノ時負擔ス可キ返還及ヒ償金ノ爲メ保證人ヲ立テ又ハ他ノ相應ナル擔保ヲ供スルニ非サレハ收益ヲ始ムルコトヲ得ス

第七十七條 擔保ノ性質ニ付キ當事者ノ間ニ議協ハサルトキハ裁判所ハ顯然資力アル第三者ノ引受ヲ認許シ又ハ供託所若クハ當事者ノ認

ニ虛有者ト立會ヒ又ハ合式ニ之ヲ存喚シ完全精確ニ動産ノ目錄、不動産ノ形狀書ヲ作ルコトヲ要ス

第七十二條 當事者カ雙方出會シ共ニ能力アルトキ又ハ有効ニ代理セラレタルトキハ目錄及ヒ形狀書ハ私署ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得反對ノ場合ニ於テハ公吏之ヲ作ル

第七十三條 目錄ニ記シタル代替物ノ評價ハ賣買ニ同シキ効力ヲ有ス但反對ノ明言アルトキハ此限ニ在ラス不代替物ノ評價ハ賣買ニ同シキ効力ヲ有スルコトヲ目錄ニ明示スルニ非サレハ其効力ヲ有セス
有價ニテ用益權ヲ設定シタルトキハ目錄及ヒ評價ノ費用ハ用益者、虛有者各其半額ヲ負擔シ無價ノ場合ニ於テハ用益者之ヲ負擔ス
第七十四條 用益權設定ノ時用益者ノ目錄又ハ形狀書ヲ作ル義務ヲ免除シタリト雖モ虛有者ハ常ニ用益者ト立會ヒ又ハ合式ニ之ヲ召喚シ

諾スル第三者ニ金錢若クハ有價物ヲ寄託スルヲ認許シ又ハ質若クハ抵當ヲ認許スルコトヲ得

第七十八條 擔保ス可キ金額ニ付テハ裁判所ハ用益權ノ直接ニ存スル金額未滿ニ其金額ヲ定ムルコトヲ得ス又動産ノ評價カ賣買ニ同シキ効力ヲ有スルトキハ其評價ノ全額未滿ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス又評價カ賣買ニ同シキ効力ヲ有セサルトキハ其評價ノ半額未滿ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス

然レトモ右ノ末ノ場合ニ於テ若シ用益者カ評價セシ動産ニ係ル權利ヲ用益權ノ繼續間ニ讓渡シ又ハ賃貸シタルトキハ虛有者ハ常ニ評價ノ全額ニ對シテ擔保ヲ要求スルコトヲ得
不動産ノ擔保金額ノ多寡ハ裁判所之ヲ定ム

第七十九條 擔保ノ設定證書ニハ前條ニ定メタル金額ニ對スル保證人又ハ用益者ノ一身ノ引受ヲ併記ス

第八十條 用益者カ動産又ハ不動産ニ對シテ相

應ナル擔保ヲ供スル能ハス且當事者ノ間ニ別
段ノ合意ナキトキハ左ノ如ク處辨ス

日用品其他ノ代替物ハ之ヲ競賣シ其代金ハ虛
有者、用益者連名ニテ用益權ノ直接ニ存スル
金錢ト共ニ供託所ニ供託シ又ハ之ヲ國債券ニ
換ヘ用益者ハ其利息ヲ收取ス

此他ノ動産ハ虛有者之ヲ占有ス

不動産ハ之ヲ第三者ニ賃貸シ又ハ虛有者カ賃
借ノ名義ニテ之ヲ保存シ用益者ハ保持費用及
ヒ第八十九條ニ記載シタル負擔ヲ扣除シテ賃
賃ヲ收取ス

第八十一條 用益者カ擔保ノ一分ニ非サレハ供
スル能ハサルトキハ引渡ヲ受ク可キ用益物ニ
付キ其擔保ノ限度ニ應シテ選擇ヲ爲ス

第八十二條 用益者ノ保證人ヲ立ツル義務ハ設
定ノ權原又ハ其後ノ合意ヲ以テ之ヲ免除スル
コトヲ得但用益者ノ無資力ト爲リタルトキハ

大修繕ハ用益者ノ過失ニ因リ又ハ小修繕ヲ爲
ササルニ因リテ必要ト爲リタルトキニ非サレ
ハ用益者之ヲ負擔セス

屋根若クハ重モナル牆壁ノ修繕又ハ重モナル
梁柱若クハ基礎ノ變更ヲ建物ノ大修繕トス
石垣、土手及ヒ牆壁ノ改造モ亦之ヲ大修繕ト
看做ス

第八十七條 過失又ハ懈怠ノ場合ノ外用益者ハ
虛有者ヲ立會ハシメ鑑定人ヲシテ大修繕ノ必
要ヲ證セシメタル後虛有者其大修繕ヲ爲スコ
トヲ拒ミタルトキハ自ラ之ヲ爲スコトヲ得
用益權消滅ノ時虛有者ハ右修繕ヨリ生シタル
現時ノ増價額ヲ用益者ニ辨償スル責ニ任ス
若シ虛有者カ大修繕ヲ爲ストキハ用者益ヲ立
會ハシメ鑑定人ヲシテ其必要及ヒ費用ヲ證セ
シメ用益者ハ毎年其費用ノ利息ヲ虛有者ニ辨
償ス

第八十八條 前條ノ規定ハ建物カ朽敗ノ爲メ崩

此免除ハ其効ヲ失フ若シ用益者カ既ニ收益ヲ
始メタルトキハ其川益物ヲ虛有者ニ返還シ且
前二條ニ從ヒテ處辨ス

第八十三條 贈與物ニ付キ贈與者カ自己ノ利益
ノ爲メ留存シタル用益權ニ付テハ保證人ヲ立
ツル義務ナシ

第八十四條 用益者カ收益ヲ始メタルトキハ善
良ナル管理人ノ如ク用益物ノ保存ニ注意スル
コトヲ要ス

用益者ハ其過失又ハ懈怠ヨリ生スル用益物ノ
滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス但虛有者ノ權利ヲ保
護スル爲メ用益者ニ對シテ第四百四條ニ許可シ
タル處置ヲ爲スコトヲ妨ケス

第八十五條 用益物ノ全部又ハ一分カ火災ニテ
滅失シタルトキハ用益者ニ過失アリト推定ス
但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第八十六條 用益者ハ動産及ヒ不動産ノ小修繕
ヲ負擔シ其求償權ヲ有セス

額シ又ハ事變ニ因リテ破壊シタル場合ニモ之
ヲ適用ス但第六條ニ定メタル如ク此等ノ事
ニ因リテ用益權ノ消滅ヲ致ストキハ此限ニ在
ラス

第八十九條 用益物ニ賦課セラルル毎年通常ノ
租稅及ヒ公課ハ其一般ニ係ルモノト一地方ニ
係ルモノトヲ問ハス用益者之ヲ負擔シ其求償
權ヲ有セス

用益權ノ繼續間用益物ニ賦課セラルルコト有
ル可キ非常ノ公課又ハ租稅ニ付テハ虛有者ハ
其元本ヲ拂ヒ用益者ハ此時間毎年ノ利息ヲ辨
償ス
非常ノ公課又ハ租稅ト看做スモノハ左ノ如シ

- 第一 強要ノ借入
- 第二 増稅又ハ新稅但其臨時又ハ非常ノ性
質カ法令ニ明示アルトキ又ハ明ニ事情ヨ
リ生スルトキニ限ル

第九十條 用益者又ハ虛有者カ通常又ハ非常、

租税ヲ納メサルトキハ不動産ハ完全ノ所有權ニ於テ之ヲ差押ヘ且賣却シ其代金ヲ怠納租税ニ充ツ若シ殘額アラハ其元本ハ虛有者ニ屬シ其收益ハ用益者ニ屬ス

第九十一條 虛有者カ用益權設定ノ前ニ火災ニ對シテ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ毎年保險料ノ利息ヲ拂フノ責ニ任ス但火災ノ場合ニ於テ得タル償金ハ虛有者ニ屬シ其收益ハ用益者ニ屬ス

虛有者カ用益權ノ繼續間ニ完全ノ所有權ヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ保險料ノ利息ヲ負擔セス其償金ニ關シテハ虛有者カ自己ノ拂ヒタル保險料ノ金額ヲ扣除シタル殘餘ニ付キ收益ス又虛有者カ其虛有權ノミヲ保險ニ付シタルトキハ用益者ハ償金ニ付キ權利ヲ有セス
海上ノ危險ニ對シ保險ニ付シタル船舶ニ付キ用益權ヲ設定シタルトキモ亦右ノ規定ヲ適用ス

用益者カ所持者トシテ訴追ヲ受ケタルトキハ債務者ニ對スル求償權ヲ有ス但用益權ノ設定者又ハ其相續人ニ對スル追奪擔保ノ訴權ヲ妨ケス

第九十五條 虛有者カ元本ヲ負擔シ用益者カ其利息ヲ負擔ス可キ諸般ノ場合ニ於テハ左ノ方法ノ一ニ依リテ處辨ス

第一 虛有者カ元本ヲ拂ヒ用益者カ其毎年ノ利息ヲ拂フ

第二 用益者カ元本ヲ立替ヘ虛有者カ用益權消滅ノ時之ヲ用益者ニ償還ス

第三 要求ヲ受ク可キ金額ニ滿ツルマテ用益物ノ一分ヲ賣却ス

第九十六條 用益權ノ繼續間用益不動産ニ第三者カ虛有者ノ權利ヲ害ス可キ侵奪又ハ作業ヲ爲ストキハ用益者ハ其事實ヲ虛有者ニ告發スルコトヲ要ス若シ此告發ヲ爲ササルトキハ爲メニ生シタル總テノ損害及ヒ第三者ノ取得ス

ス

第九十二條 用益者ハ自己及ヒ虛有者ノ利益ノ爲メ自費ヲ以テ保險ヲ約スルコトヲ得此場合ニ於テハ用益者ハ償金ノ額内ヨリ自己ノ拂ヒタル保險料ヲ扣除シ其殘額ニ付テ收益ス

又用益者ハ用益權ノ價額ノミニ付キ建物ヲ保險ニ付シタルトキハ一人ニテ保險料ヲ負擔シ災害アリシトキハ其償金ヲ取得ス凍、雹其他天然ノ事變ニ對シ用益者カ收穫物又ハ產出物ヲ保險ニ付シタルトキモ亦同シ

第九十三條 遺言ニテ包括財産ノ用益權ヲ得タル者ハ其得利益ノ割合ニ應シテ相續ノ債務ノ利息ヲ負擔ス
此他相續ノ負擔タル養料又ハ終身年金權ノ年金モ亦同上ノ割合ニ應シテ之ヲ負擔ス

第九十四條 特定財産ノ用益者ハ其用益財産カ抵當又ハ先取特權ヲ負擔スルトキト雖モ設定者ノ債務ノ辨濟ヲ分擔セス

ル時効又ハ占有者ニ付キ其責ニ任ス

第九十七條 虛有者カ原告又ハ被告トシテ用益物ノ完全ノ所有權ニ係ル訴訟ヲ爲ストキハ用益者ヲ其訴訟ニ召喚スルコトヲ要ス

用益者ハ右訴訟費用ノ利息及ヒ收益ノミニ關スル訴訟費用ヲ負擔ス然レトモ用益權ノ設定證書ヲ以テ用益者ニ追奪擔保ヲ爲シタルトキハ用益者ハ總テノ訴訟費用ヲ負擔セス
如何ナル場合ニ於テモ用益者ハ虛有權ノミニ關スル訴訟費用ヲ分擔セス

第九十八條 訴訟ニ參加ス可クシテ之ニ參加セシメラレザリシ虛有者又ハ用益者ハ其判決ノ害ヲ受クルコト無シ然レトモ事務管理ノ規則ニ從ヒテ其利ヲ受クルコトヲ得

第四款 用益權ノ消滅
第九十七條 用益權ハ第四十二條ニ記載シタル所有權消滅ノ原因ト同一ノ原因ニ由リテ消滅スルノ外尙ホ左ノ原因ニ由リテ消滅ス

第一 用益者ノ死亡

第二 用益者ヲ設定シタル期間ノ經過

第三 用益者ノ明示シタル用益權ノ拋棄

第四 三十个年間繼續シタル不使用

第五 用益者ノ廢罷

第一百條 數人ノ終身ヲ期シテ同時ニ且不分ニテ用益權ヲ設定シタルトキハ死亡者ノ持分ハ生存者ヲ利ス其用益權ハ最後ノ死亡者ノ死亡ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第一百一條 法人ノ爲メニ設定シタル用益權ハ三十个年ノ期間ヲ以テ消滅ス但三十个年ヨリ短キ期間ヲ以テ設定シタルトキハ此限ニ在ラズ

第一百二條 用益者ハ用益權ノ拋棄ヲ以テ其拋棄前ニ履行セザリシ義務ヲ免カル、コトヲ得ス

又其拋棄ハ用益者ノ權ニ基キ物ノ上ニ權利ヲ取得シタル第三者ヲ害スルコトヲ得ス

加ヘタル損害ノ賠償ヲ妨ケス

第一百六條 事變又ハ朽敗ニ因リテ用益權ノ存スル建物ノ全部カ毀滅シタルトキハ用益者ハ土地ニ付テモ材料ニ付テモ收益スルコトヲ得ス但建物カ用益權ノ存スル土地ノ從タルトキハ此限ニ在ラス

第一百七條 用益物カ公用徵收ヲ受ケタルトキハ用益者ハ其償金ニ付キ收益ス此場合ニ於テ用益者ハ其收益スル元本ニ對シテ相應ナル擔保ヲ供スルコトヲ要ス但此場合ヲ豫見シテ特ニ其義務ヲ免除シタルトキハ此限ニ在ラス

第九十條乃至第九十二條ニ規定シタル場合ニ於テモ亦同シ

第一百八條 池沼ノ用益權ハ水ノ乾涸シテ舊狀ニ復スル見込ナキトキハ消滅ス

又土地ノ用益權ハ水ノ浸没シテ舊狀ニ復スル見込ナキトキハ消滅ス

第一百三條 不使用ハ未成年者ニモ其他ノ人ニシテ之ニ對シ時効ノ經過スルコトヲ得サル者ニモ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

免責時効ニ關スル此他ノ規則ハ不使用ニ之ヲ適用ス

第一百四條 用益者カ用益物ニ重大ノ毀損ヲ加フルトキ又ハ保持ノ欠點若クハ收益ノ濫妄ニ因リテ用益物ノ保存ヲ危フスルトキハ裁判所ハ用益權消滅ノ他ノ原因ノ一ノ生スルマテ用益者ノ費用ヲ以テ用益物ヲ保管ニ付シ又ハ此時間虛有者ヨリ毎年用益者ニ拂フ可キ金額若クハ果實ノ部分ヲ定メ虛有者ノ爲メ用益權ノ廢罷ヲ宣告スルコトヲ得

裁判所ハ右ト同時ニ其年ノ果實及ヒ產出物ノ分割ヲ定ム

將來ニ於テ用益者ニ拂フ可キ金額又ハ果實ノ價格ハ用益者日割ヲ以テ之ヲ取得ス

第一百五條 用益權ノ廢罷ハ其廢罷前ニ用益者ノ

益權消滅ノ時猶ホ土地ニ附著スル果實及ヒ產出物ハ虛有者ニ屬ス其栽培又ハ作業ノ費用ハ之ヲ償還スルコトヲ要セス但不動産賃借人カ果實ニ付キ既ニ得タル權利ヲ妨ケス

第二節 使用權及ヒ住居權

第一百十條 使用權ハ使用者及ヒ其家族ノ需用ノ程度ニ限ルノ用益權ナリ

住居權ハ建物ノ使用權ナリ

使用權及ヒ住居權ハ用益權ト同一ノ方法ニ因リテ成立シ及ヒ同一ノ原因ニ由リテ消滅ス

第一百一條 使用權及ヒ住居權ノ程度ヲ定ムル爲メ使用權ノ家族ト看做ス可キ者ハ使用者ト共ニ住居スル配偶者身屬親尊屬親及ヒ使用者又ハ此等ノ親族ノ隨身雇人ナリ

第一百二條 設定ノ權原又ハ其後ノ合意ヲ以テ土地ノ使用權ヲ行フノ方法ヲ定メヌ又ハ住居權ヲ行フ可キ建物ヲ定メタルトキハ當事者立會ノ上裁判所其意見ヲ聽キテ之ヲ定ム

第百十三條 使用權及ヒ住居權ハ之ヲ讓渡シ又ハ賃貸スルコトヲ得ス

第百十四條 使用權又ハ住居權ヲ有スル者ハ用益者ト同シク動産ノ目錄及ヒ不動産ノ形狀書ヲ作り且保證人ヲ立ツル責ニ任ス

又用益者ト同一ノ注意ヲ爲シ及ヒ自己ノ過失ニ付テハ之ト同一ノ責ニ任ス

又其收益ノ割合ニ應シ用益者ト同シク修繕費用、租稅、公課及ヒ訴訟費用ヲ分擔ス

第三章 賃借權、永借權及ヒ地上權

第一節 賃借權

第百十五條 動産及ヒ不動産ノ賃貸借ハ賃借人ヨリ賃借人ニ金錢其他ノ有價物ヲ定期ニ拂フ約ニテ賃借人ニ或ル時間賃借物ノ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利ヲ與フ但後ノ第二款及ヒ第三款ニ定メタル如ク合意ニ因リ又ハ法律ノ効力ニ因リテ當事者ノ負擔スル相互ノ義務ヲ妨ケス

第百十六條 國、府縣、市町村及ヒ公設所ニ屬スル財産ノ賃貸借ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一款 賃借權ノ設定

第百十七條 賃借權ハ賃貸借契約ヲ以テ之ヲ設定ス

賃借權ヲ遺贈シタル場合ニ於テハ相續人ハ遺言書ニ記載シタル項目及ヒ條件ニ從ヒテ受遺者ト賃貸借契約ヲ取結フコトヲ要ス
賃借權ヲ豫約シタル場合ニ於テモ諾約者ハ要約者ト賃貸借契約ヲ取結フコトヲ要ス

第百十八條 賃貸借契約ハ有償且雙務ノ契約ノ一般ノ規則ニ從フ但後ニ掲ケタル變例ヲ妨ケス

第百十九條 法律上又ハ裁判上ノ管理人ハ其管理スル物ヲ賃借スルコトヲ得然レトモ管理人カ期間ニ付キ特別ノ委任ヲ受ケスシテ賃貸スルトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第一 獸畜其他ノ動産ニ付テハ一个月

第二 居宅、店舗其他ノ建物ニ付テハ三年

第三 耕地、池沼其他土地ノ部分ニ付テハ五年

第四 牧場、樹林ニ付テハ十年

第百二十條 管理人ハ前條ニ記載シタル賃貸物ノ區別ニ從ヒ現期間ノ満了ニ先タツ一个月、三個月、六個月又ハ一年內ニ非サレハ同一ノ期間ヲ以テ賃貸借ヲ更新スルコトヲ得ス

然レトモ右ノ時期ニ先タチ爲シタル更新ハ新期間ノ始マリシ後尙ホ管理人ノ委任ノ止マザリシトキハ無効ナラス

第百二十一條 管理人ハ金錢外ノ有價物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得ス

然レトモ耕地ニ付テハ其產出物ヲ賃貸ト爲シテ賃貸スルコトヲ得

第百二十二條 前三條ノ規定ハ代理人ニ之ヲ適用ス但代理委任ノ書面ヲ以テ其權限ヲ伸縮シ

タルトキハ此限ニ在ラス

第百二十三條 自己ノ財産ヲ管理スルコトヲ得ル婦及ヒ自治産ノ未成年者モ亦管理人ト同一ノ條件ニ從フニ非サレハ其財産ヲ賃貸スルコトヲ得ス

第百二十四條 賃借人ハ前數條ニ反シタル賃貸借又ハ其更新ノ無効又ハ短縮ヲ請求スルコトヲ得ス

然レトモ所有者其權利ヲ自在ニスルコトヲ得ルニ至リタルトキハ賃借人ハ所有者ノ認諾スルヤ否ヤノ意思ヲ第百十九條ニ區別シタル賃貸物ノ性質ニ從ヒ五日、八日、十五日又ハ三十日ノ期間ニ述フルコトヲ常ニ要求スルコトヲ得

所有者カ其意思ヲ述フルコトヲ拒ムトキハ賃借人ハ起初又ハ更新ニ於テ定メタル如ク賃借期間ヲ維持セント述フルコトヲ得

第百二十五條 所有者ノ爲シタル不動産ノ賃貸

借カ三十年ノ超ユルトキハ其貸借ハ永貸借ト爲リ此種ノ貸借ノ爲メ後ノ第二節ニ定メタル規則ニ從フ

第二款 賃借人ノ權利

第二百二十六條 賃借人ハ賃借物ニ付キ用益者ト同一ノ利益ヲ収ムル權利ヲ有ス但其賃借借設定ノ契約及ヒ法律ノ規定ヨリ生スル權利ノ増減ハ此限ニ在ラス

第二百二十七條 賃借人ハ其収益ヲ始ムル爲メニ定メタル時期ニ於テ賃借物ノ占有ヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得然レトモ其目錄又ハ形狀書ヲ作り及ヒ保證人ヲ立ツル責ニ任セス但契約ニ因リテ其責ニ任スルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十八條 賃借人ハ物ノ引渡前ニ其用方ニ從ヒテ一切ノ修繕ヲ整フルコトヲ賃借人ニ要求スルコトヲ得

此他賃借人ハ賃借ノ期間大小修繕ヲ爲ス責ニ任ス但左ノ二項ニ掲ケタル修繕及ヒ賃借人

又ハ其雇人ノ過失若クハ懈怠ニ因リテ必要ト爲タル修繕ハ賃借人ノ負擔ス
賃借人ハ賃借ノ期間疊、建具、塗彩及ヒ壁紙ノ保持ヲ負擔セス

又井戸、用水溜、汚物溜又ハ水道管ノ疏浚及ヒ普通ニ賃借人ノ爲ス可キ修繕ヲ負擔セス
本條ノ規定ニ反對ノ慣習アルトキハ其慣習ニ從フコトヲ妨ケス

第二百二十九條 建物ニ必要ト爲リタル大修繕ハ賃借人ヨリ之ヲ要求セサルモ又此カ爲メ賃借人ニ多少ノ不便ヲ生セシム可キモ賃借人ノ爲スコトヲ得

然レトモ賃借人ハ右修繕ノ一个月ヨリ長ク繼續スルトキハ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得又時間ノ如何ヲ問ハス右修繕ノ爲メ其賃借物中住居ス可キ全部又ハ商業若クハ工業ニ極メテ必要ナル部分ヲ失フ可キトキハ賃借人ハ賃借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第二百三十條 賃借人カ第三者ヨリ収益ノ權利ニ妨害又ハ爭論ヲ受ケ其原因賃借人ノ責ニ歸ス可カラサルトキ賃借人ヨリ合式ニ告知ヲ受ケ

タル賃借人ハ其訴訟ニ參加シテ賃借人ヲ擔保シ又ハ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第二百三十一條 妨害カ戦争、旱魃、洪水、暴風、火災ノ如キ不可抗力又ハ官ノ處分ヨリ生シ此カ爲メ毎年ノ収益ノ三分一以上損失ヲ致シタルトキハ賃借人ハ其割合ニ應シテ借賃ノ減少ヲ要求スルコトヲ得但地方ノ慣習之ニ異ナルトキハ其慣習ニ從フコトヲ妨ケス

又右ノ妨害カ引續キ三ノ年ニ及フトキハ賃借人ハ賃借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得建物ノ一分ノ燒失其他ノ毀滅ノ場合ニ於テ所有者カ一个年内ニ之ヲ再造セサルトキモ亦同シ

第二百三十二條 土地又ハ建物ヲ以テ主タル目的物ト爲シタル賃借ニ於テ其現在ノ坪數カ契約ノ坪數ヨリ少ナク又ハ多キトキハ土地又ハ

建物ノ賣買ニ於ケルト同一ノ條件ニ從ヒテ借賃ノ増減又ハ契約ノ銷除ヲ爲スコトヲ得

第二百三十三條 賃借人ハ賃借人ノ明許ヲ要セスシテ賃借地ニ適宜ニ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ栽植スルコトヲ得但現在ノ建物又ハ樹木ニ何等ノ變更ヲモ加フルコトヲ得ス

賃借人ハ舊狀ニ復スルコトヲ得ヘキトキハ其築造シタル建物又ハ栽植シタル樹木ヲ賃借ノ終ニ取去スルコトヲ得但第四百四十四條ヲ以テ賃借人ニ與ヘタル權能ヲ妨ケス

第二百三十四條 賃借人ハ賃借ノ期間ヲ超ユサルニ於テハ其賃借權ヲ無償若クハ有償ニテ讓渡シ又ハ其賃借物ヲ轉賃スルコトヲ得但反對ノ慣習又ハ合意アルトキハ此限ニ在ラス
賃借人ハ讓渡ノ場合ニ於テハ贈與者又ハ賣主ノ權利ヲ有シ轉賃ノ場合ニ於テハ賃借人ノ權利ヲ有ス

右讓渡ノ場合ニ於テモ賃借人ハ賃借人ニ對シ

ヲ其義務ヲ免カルルコトヲ得ス但貸貸人カ轉借人ト更改ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス果實又ハ產出物ノ一分ヲ以テ賃借ト爲シ金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ許ササルトキハ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ハ貸貸人ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三百二十五條 不動産ノ賃借人ハ其權利ヲ抵當ト爲スコトヲ得但讓渡又ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル

第三百二十六條 賃借人ハ其權利ヲ保存スル爲メ貸貸人及ヒ第三者ニ對シテ第六十七條ニ記載シタル訴權ヲ行フコトヲ得

第三款 賃借人ノ義務

第三百二十七條 貸貸人其權利ヲ保存スル爲メ賃借物ノ目錄又ハ形狀書ヲ作ラント欲スルトキハ賃借人ハ何時ニテモ貸貸人カ己レト立會ヒテ之ヲ作ルヲ許諾スルコトヲ要ス但其書類ノ費用ヲ分擔セス

請求スルコトヲ得

第四百十條 賃借人ハ賃借物ニ直接ニ賦課セラレル通常及ヒ非常ノ租稅其他ノ公課ヲ負擔セス若シ租稅法ニ依リテ賃借人ヨリ徵收スルコト有ルトキハ其借賃ヨリ之ヲ扣除シ又ハ賃借人ヨリ賃借人ニ之ヲ償還ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

然レトモ賃借人ノ築造シタル建物ニ賦課セラレ又ハ賃借不動産ニ於テ賃借人ノ營ム商業若クハ工業ニ賦課セラルル租稅其他ノ公課ハ賃借人之ヲ負擔ス

第四百十一條 賃借人ハ明示ト默示トヲ問ハス合意ヲ以テ定メタル用方ニ從フニ非サレハ賃借物ヲ使用スルコトヲ得ス其合意ナキトキハ契約ノ時ノ用方又ハ賃借物ノ性質ニ相應シテ毀損セサル用方ニ從フニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四百十二條 賃借人ハ賃借物ノ看守及ヒ保存

賃借人モ亦貸貸人ヲ召喚シ立會ノ上自費ニテ右目錄又ハ形狀書ヲ作ルコトヲ得

形狀書ヲ作ラサリシトキハ賃借人ハ修繕完好ノ形狀ニテ賃借物ヲ受取リタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス目錄ナキトキハ動産ノ實體及ヒ形狀ノ證據ハ賃借人ノ責ニ歸シ通常ノ方法ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百二十八條 金錢ヲ以テ借賃ト爲シタルトキハ賃借人ハ合意シタル時期ニ之ヲ拂ヒ合意ナキトキハ毎月末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但地方ノ慣習之ニ異ナルトキハ此限ニ在ラス果實ヲ以テ借賃ト爲シタルトキハ收穫後ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第三百二十九條 賃借人借賃ヲ拂ハス其他賃借借ノ特別ナル項目又ハ條件ヲ履行セサルトキハ賃借人ハ賃借人ニ對シテ其履行ヲ強要シ又ハ損害アルトキハ其賠償ヲ得テ賃借借ノ解除ヲ

ニ付キ用益者ト同一ノ義務ヲ負擔ス

第三者カ賃借物ニ侵奪又ハ作業ヲ爲ストキハ賃借人ハ第九十六條ニ記載シタル如ク用益者ト同一ノ責ニ任ス

第四百十三條 賃借借ノ終ニ於テ賃借人カ賃借物ヲ返還セサルトキハ賃借人ハ其選擇ヲ以テ對人訴權又ハ物上訴權ニテ之ヲ訴追スルコトヲ得

第四百十四條 賃借人ハ賃借借ノ終ニ於テ第四百十三條ニ依リテ賃借人ノ収去スルヲ得ヘキ建物及ヒ樹木ヲ先買スルコトヲ得此場合ニ於テハ第七十條ノ規定ヲ適用ス

第四款 賃借權ノ消滅

第四百十五條 賃借權ハ左ノ諸件ニ因リテ當然消滅ス

- 第一 賃借物ノ全部ノ滅失
- 第二 賃借物ノ全部ノ公用徵收
- 第三 賃借人ニ對スル追奪又ハ賃借物ハ存

スル賃貸人ノ權利ノ取消但其追奪及ヒ取
消ハ賃貸借契約以前ノ原因ニ由リ裁判所
ニ於テ之ヲ宣告セシトキニ限ル

第四 明示若クハ黙示ニテ定メタル期間ノ
満了又ハ要約シタル解除條件ノ成就

第五 初ヨリ期間ヲ定メサルトキハ解約申
入ノ告知ノ後法律上ノ期間ノ満了

右ノ外賃貸借ハ條件ノ不履行其他法律ニ定メ
タル原因ノ爲メ當事者ノ一方ノ請求ニ因リ裁
判所ニテ宣告シタル取消ニ因リテ終了ス

第四百十六條 意外又ハ不可抗ノ原因ニ由リテ
賃借物ノ一分ノ滅失セシトキハ賃借人ハ第百
三十一條ニ記載シタル條件ニ從ヒテ賃貸借ノ
解除ヲ要求シ又ハ賃貸借ヲ維持シテ借賃ノ減
少ヲ要求スルコトヲ得

公用ノ爲メ賃借物ノ一分カ徴收セラレタルト
キハ賃借人ハ常ニ賃借ノ減少ヲ要求スルコト
ヲ得

第四百十七條 期間ノ定アル賃貸借ノ終リシ後

賃借人仍ホ收益シ賃貸人之ヲ知リテ故障ヲ爲
ササルトキハ新賃貸借暗ニ成立シ前賃貸借ト
同一ノ負擔及ヒ條件ニ從フ

然レトモ前賃貸借ヲ擔保シタル抵當ハ消滅シ
保證人ハ義務ヲ免カル

新賃貸借ハ下ノ數條ニ記載シタル如ク解約申
入ニ因リテ終了ス

第四百十八條 家具ノ附キタル建物ノ全部又ハ
一分ノ賃貸借ニシテ其期間ヲ明示セス其借賃
ヲ一年、一月又ハ一日ヲ以テ定メタルモノハ
一年、一月又ハ一日ノ間賃借ヲ爲シタリト推
定ス但前條ニ記載シタル黙示ノ更新ヲ妨ケ
ス

不動産ノモ以テ目的ト爲シタル賃貸借ニ付テ
モ亦同シ

第四百十九條 家具ノ附カサル建物ノ賃貸借ハ
期間ヲ定メサルトキ又ハ之ヲ定メタルモ黙示

ノ更新アリタルトキハ何時ニテモ當事者ノ一
方ノ解約申入ニ因リテ終了ス

解約申入ヨリ返却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一 建物ノ全部ニ付テハ二个月但賃借人
ノ造作ヲ附シタルトキハ三個月

第二 建物ノ一分ニ付テハ一個月但賃借人
ノ造作ヲ附シタルトキハ二個月

第百五十條 家具ノ附キタル建物ノ賃貸借ニ付
キ黙示ノ更新アリタルトキハ解約申入ヨリ返
却マテノ時間ハ左ノ如シ

第一 前賃貸借ノ期間ヲ三個月又ハ其以上
ニ定メタルトキハ一個月

第二 三個月未滿ノ賃貸借ニ付テハ原期間
ノ三分一

第三 日日ノ賃貸借ニ付テハ二十四時
右規定ハ黙示ノ更新後ノ不動産ノ賃貸借ニ付テ
モ亦之ヲ適用ス

賃貸セシ建物ニ備ヘタル動産又ハ用方ニ因ル

不動産ト看做ス可キ動産ノ賃貸借ハ其建物ノ

賃貸借ノ終了スルニ非サレハ終了セス

第百五十一條 土地ノ賃貸借ニシテ期間ヲ定メ

サルモノ又ハ期間ヲ定メタルモ黙示ノ更新ア
リタルモノハ耕地ニ付テハ主タル收穫季節ヨ
リ六個月前又ハ不耕地其他牧場樹林ニ付テハ返
却セシム可キ時期ヨリ一个年前ニ解約申入ヲ
爲スニ因リテ終了ス

第百五十二條 解約申入及ヒ返却ノ時期ニ關ス
ル前數條ノ規定ハ其時期ニ付キ地方ノ慣習ナ
キトキニ非サレハ之ヲ適用セス

第百五十三條 如何ナル場合ニ於テモ賃借人ノ
權利ノ存スル一切ノ收穫物ヲ收去スル前ニ賃
貸借ノ終了セシトキハ賃借人又ハ新賃借人ハ

前賃借人ノ之ヲ收去スルニ委スルヲ要ス
又賃借人ハ土地ノ收穫物ヲ收去シタル部分ニ
於テ賃貸借ノ終了前ニ急要ノ作業ヲ爲スコト
ヲ賃借人又ハ新賃借人ニ許スコトヲ要ス但賃

借人此カ爲メ妨害ヲ受テ可キトキハ此限ニ在ラス

第五百五十四條 貸借人カ貸借物ヲ讓渡サントシ又ハ自己ノ爲メ若クハ他ノ特別ナル原因ノ爲メ之ヲ取戻サントスルトキハ期間ノ満了前ト雖モ貸借ヲ銷除スルコトヲ得ル機能ヲ留保シタル場合又貸借人カ貸借ノ無用ト爲ル可キ未定專政ヲ慮カリテ同一ノ機能ヲ留保シタル場合ニ於テハ前數條ニ定メタル時期ニ於テ各自豫メ解約申入ヲ爲スコトヲ要ス

第二節 永借權及ヒ地上權

第一款 永借權

第五百五十五條 永借借トハ期間三十个年ヲ超ユル不動産ノ貸借ヲ謂フ

永借借ハ五十个年ヲ超ユルコトヲ得ス此期間ヲ超ユル貸借ハ之ヲ五十个年ニ短縮ス

永借借ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ其更新ノ時ヨリ五十个年ヲ超ユルコトヲ得ス

當事者カ永借借契約ナルコトヲ明示シ其期間ヲ定メサルトキハ其貸借ハ四十个年ニシテ終了ス

本法實施以前ニ期間ヲ定メテ爲シタル不動産ノ貸借ハ五十个年ヲ超ユルモノト雖モ其全期間有効ナリ

本法實施以前ニ期間ヲ定メシテ爲シタル荒蕪地又ハ未耕地ノ貸借及ヒ永小作ト稱スル貸借ノ終了ノ時期及ヒ條件ハ日後特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五百五十六條 永借借ハ永借借契約ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス又遺贈又ハ豫約ニ付テハ第五百七條ノ規定ニ從フ

第五百五十七條 當事者相互ノ權利及ヒ義務ハ永借借ノ設定契約ヲ以テ之ヲ定ム

特別ノ合意ナキトキハ下ノ規定ニ從フ外通常貸借ノ規則ニ從フ

第五百五十八條 永借人ハ永借地ノ形質ヲ變スル

コトヲ得但永久ノ毀損ヲ生セシメサルコトヲ要ス

永借人ハ常ニ沼澤ヲ乾涸スルコトヲ得又永借地ノ作業ニ益ス可キトキハ其土地ヲ通過スル水流ヲ變轉スルコトヲ得

第五百五十九條 永借人ハ原野ヲ開墾スルコトヲ得然レトモ所有者ノ承諾アルニ非サレハ定期採伐ニ供シタル小木林ノ樹木ヲ掘取ルコトヲ得ス又定期採伐ニ供セサル樹木ニシテ既ニ二十个年ヲ過キ且其成長ノ年期カ貸借ノ期間ヲ超ユ可キモノヲ採伐スルコトヲ得ス

第六十條 永借人ハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ノ承諾アルニ非サレハ主タル建物ヲ取除クコトヲ得ス從タル建物ト雖モ其存立ノ時期カ貸借ノ期間ヲ超ユ可キモノハ亦同シ

第六十一條 前二條ニ從ヒ永借人カ建物又ハ樹木ヲ取除キタルトキハ其物料及ヒ材木ハ所有者ニ屬ス

第六十二條 永借人ハ地底ニ礦物在ルトキ開坑ノ特許ヲ得タル者ヨリ所有者ニ拂ヘル價金ニ付キ何等ノ權利ヲ有セス然レトモ此特許ヲ得タル者ノ地上ニ加ヘタル損害ノ爲メ賠償ヲ受クル權利ヲ有ス

第六十三條 永借地ニ既ニ採掘ヲ始メ且特別法ニ從フヲ要セサル石類、石灰類其他ノ物ノ石坑アルトキハ永借人ハ其收益ヲ繼續ス右石坑ヲ未タ採掘セス又ハ其採掘ヲ廢止シタルトキハ永借人ハ永借地ノ改良ノ爲メ石其他ノ物料ヲ採取スルコトヲ得

第六十四條 永借人ハ永借借契約ノ當時ノ現狀ニテ永借物ヲ引渡スモノトス

第六十五條 意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ貸借ノ期間ニ起リタル毀損ハ借減少ノ理由ト爲ラス但第六十九條ニ定メタル解除ノ權利ヲ妨ケス

第六十六條 永賃人ニ對シ永借物ニ賦課セラ
ルル通常又ハ非常ノ租稅其他ノ公課ハ永賃人
之ヲ永賃人ニ辨濟ス

第六十七條 數人カ一箇ノ契約ヲ以テ一箇ノ
不動産ヲ永借シタルトキハ借賃ヲ拂フ義務ハ
各永賃人又ハ其相續人ニ在テハ連滞ニシテ且
不可分ナリ

第六十八條 永賃人カ第六十六條ノ辨濟ヲ
爲サス又ハ三箇年間引續キ借賃ノ拂入ヲ爲サ
サルトキハ永賃人ハ永賃借ノ解除ヲ請求スル
コトヲ得

又永賃人カ他ノ債權者ノ訴追ニ因リテ破産又
ハ無資力ノ宣告ヲ受ケタルトキハ永賃人ハ辨
濟ノ如何ナル不足ニ拘ハラズ解除ヲ請求スル
コトヲ得但其債權者カ借賃ヲ延滞ナク拂入ル
ルコトヲ擔保スルトキハ此限ニ在ラス

第六十九條 永賃人ハ意外ノ事又ハ不可抗力
ニ因リテ三箇年間引續キ全ク不動産ノ収益ヲ

得ル能ハス又ハ其一分ノ毀損ニ因リテ將來ノ
収益カ借賃ノ年額ヲ越エ可キ見込ナキトキハ
永賃借ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

第七十條 永賃人カ永借地ニ加ヘタル改良及
ヒ栽植シタル樹木ハ永賃借ノ満期又ハ其解除
ニ當リ賠償ナクシテ之ヲ殘置クモノトス
建物ニ付テハ通常賃借借ニ關スル第四百四十
條ノ規定ヲ適用ス

第二款 地上權

第七十一條 地上權トハ他人ノ所有ニ屬スル
土地ノ上ニ於テ建物又ハ竹木ヲ完全ノ所有權
ヲ以テ占有スル權利ヲ謂フ

第七十二條 地上權設定ノ時其土地ニ建物又
ハ樹木ノ既ニ存スルト否トヲ問ハズ設定行爲
ノ基本、方式及ヒ公示ハ不動産讓渡ノ一般ノ
規則ニ從フ

第七十三條 地上權者カ讓受ケタル建物又ハ
樹木ノ存スル土地ノ面積ニ應シテ土地ノ所有

者ニ定期ノ納額ヲ拂フ可キトキハ其權利及ヒ
義務ハ其拂フ可キ納額ニ付テハ通常賃借借ニ
同スル規則ニ從ヒ其繼續スル期間ニ付テハ第
百七十六條ノ規定ニ從フ

右納額ニ付テハ新ニ建物ヲ築造シ又ハ樹木ヲ
栽植スル爲メ土地ヲ賃借シタルトキモ亦同シ
第七十四條 既ニ存セル建物又ハ樹木ニ於ケ
ル地上權ノ設定ニ際シ從トシテ之ニ屬ス可キ
周邊ノ地面ヲ明示セサルトキハ左ニ掲クル規
定ニ從フ

建物ニ付テハ地上權者ハ其建坪ノ全面積ニ同
シキ地面ヲ得ルノ權利ヲ有ス此配置ハ鑑定人
ヲシテ土地及ヒ建物ノ周圍ノ形狀ト建物ノ各
部ノ用方トヲ斟酌セシメテ之ヲ爲ス

樹木ニ付キテハ地上權者ハ其最長大ナル外部
ノ枝ノ蔭蔽ス可キ地面ヲ得ル權利ヲ有ス

第七十五條 地上權設定後ニ築造シタル建物
又ハ栽植シタル樹木ニ付テハ地上權者ハ此種

ノ作業ノ爲メ法律ヲ以テ相隣者ノ爲メニ規定
シタル距離及ヒ條件ヲ遵守ス可シ縱令其隣人
カ地上權ノ設定者ナルモ亦同シ
又地上權者ハ働方又ハ受方ニテ其他ノ地役ノ
規則ニ從フ

第七十六條 既ニ存セル建物又ハ地上權者ノ
築造ス可キ建物ニ付キ設定權原ヲ以テ地上權
ノ繼續期間ヲ定メサルトキハ此建物存立ノ時
期間其權利ヲ設定シタルモノト推定ス但其大
修繕ハ土地ノ所有者ノ承諾アルニ非サレハ之
ヲ爲スコトヲ得ス

既ニ存セル樹木又ハ地上權者ノ栽植ス可キ樹
木ニ付テハ其地上權ハ樹木ヲ採伐スル時期マ
テ又ハ其有用ナル最長大ニ至ル可キ時期マテ
之ヲ設定シタリト推定ス

其他地上權ハ通常賃借借ト同一ノ原因ニ由リ
テ消滅ス但所有者ノ爲メ解約申入ハ此限ニ在
ラス

地上權者ハ一个年前ニ豫告ヲ爲シ又ハ未タ拂
期限ノ至ラサル納額ノ一个年分ヲ拂フトキハ
常ニ解約申入ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 建物又ハ樹木ノ契約前ヨリ存ス
ルト否トヲ問ハス地上權者之ヲ賣ラントスル
トキハ土地ノ所有者ニ先買權ヲ行フヤ否ヤヲ
述フ可キノ催告ヲ一个月前ニ爲スコトヲ要ス
右先買權ニ付テハ此他尙ホ第七十條ノ規定ニ
從フ

第七十八條 本法實施ノ時ニ存スル地上權ハ
左ノ規定ニ從フ

期限ヲ立テテ設定シタル地上權ハ其期限ニ至
リ當然消滅ス
期限ヲ立テテシテ設定シタル地上權ハ第七
十六條ニ從ヒテ建物存立ノ時期間繼續ス
右同様ノ地上權ハ共ニ前條ニ規定シタル先買
權ニ服ス

第四章 占有

キハ之ヲ善意ノ占有トシ此ニ反スルトキハ惡
意ノ占有トス

法律ノ錯誤ハ善意ニ付テノ利益ヲ受クル爲メ
ニ之ヲ申立ツルコトヲ許サス但第九十四條
ノ規定ヲ妨ケス

善意タルコトハ權原ノ瑕疵ヲ覺知シタルトキ
ハ止ム

第八十三條 強暴又ハ隱密ノ占有ハ之ヲ瑕疵
ノ占有トス

占有カ暴行又ハ脅迫ニ因リテ成リ又ハ保持セ
ラレタルトキハ其占有ハ強暴ノ占有ナリ

占有カ公然且外見ノ所爲ニ因リテ當事者ニ容
易ニ見ハレサルトキハ其占有ハ隱密ノ占有ナ
リ

右占有カ平穩ト爲リ又ハ公然ト爲リタルトキ
ハ其瑕疵ハ消滅ス

第八十四條 自然ノ占有トハ占有者カ自己ノ
權利ヲ主張スル意ナクシテ有體物ヲ所持スル

第一節 占有ノ種類及ヒ占有スルコト
ヲ得ヘキ物

第七十九條 占有ニ法定、自然及ヒ容假ノ三
種アリ

第八十條 法定ノ占有トハ占有者カ自己ノ爲
メニ有スルノ意思ヲ以テスル有體物ノ所持又
ハ權利ノ行使ヲ謂フ

權利ハ物權ト人權トヲ問ハス法定ノ占有チ受
クルコトヲ得其種種ノ効力ハ場合ニ從ヒ下ニ
之ヲ定ム

第八十一條 法定ノ占有カ占有ノ權利ヲ授付

ス可キ性質アル權利行爲ニ基クトキハ讓渡人
ニ授付ノ分限ナキチ以テ其効力ヲ生スル能ハ

サルトキト雖モ其占有ハ正權原ノ占有ナリ
占有カ侵奪ニ因リテ成リタルトキハ其占有ハ
無權原ノ占有ナリ

第八十二條 正權原ノ占據ハ權原創設ノ當時
ニ於テ占有者カ其權原ノ瑕疵ヲ知ラザリシト

ヲ謂フ

公有物ニ付テハ各人ハ自然ノ占有ノ外占有ヲ
爲スコトヲ得ス

第八十五條 容假ノ占有トハ占有者カ他人ノ
爲メニ其他人ノ名ヲ以テスル物ノ所持又ハ權
利ノ行使ヲ謂フ

容假ノ占有者カ自己ノ爲メニ占有ヲ始メタル
トキハ其占有ノ容假ハ止ミテ法定ト爲ル
然レトモ占有ノ權原ノ性質ヨリ生スル容假ハ
左ニ掲クル場合ニ非サレハ止マズ

第一 占有ヲ爲サシメタル人ニ告知シタル
裁判上又ハ裁判外ノ行爲カ其人ノ權利ニ
對シ明確ノ異議ヲ含メルトキ

第二 占有ヲ爲サシメタル人又ハ第三者ニ
出テタル權原ノ轉換ニシテ其占有ニ新原
因ヲ付スルトキ

第八十六條 占有者ハ常ニ自己ノ爲メニ占有
スルモノトノ推定ヲ受ク但占有ノ權原又ハ事

情ニ因リテ容假ノ證據アルトキハ此限ニ在ラ
ス

第八十七條 正權原ノ證據アル占有ハ之ヲ善
意ノ占有ナリト推定ス但反對ノ證據アルトキ
ハ此限ニ在ラス

第八十八條 強暴ノ證據ナキ占有ハ之ヲ平穩
ノ占有ト推定ス
占有ノ公然ハ之ヲ推定セス必ス之ヲ證スルコ
トヲ要ス

前後二箇ノ時期ニ於テ證據アリタル占有ハ其
中間繼續シタリトノ推定ヲ受ク但其占有ノ中
斷又ハ停止ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第二節 占有ノ取得

第八十九條 法定ノ占有ハ或ル物ノ所有權又
ハ或ル權利ヲ自己ノ有ト爲ス意思ヲ以テ其物
ヲ握取スル所爲ニ因リ又ハ其權利ヲ實行スル
ニ因リテ之ヲ取得ス

第九十條 物ノ所持又ハ權利ノ行使ハ之ヲ第

三者ノ所爲ニ委ヌルコトヲ得但占有スルノ意
思ハ占有ニ付キ利益ヲ得ント主張スル其人ニ
存スルコトヲ要ス

然レトモ無能力者及ヒ法人ハ其代人ノ意思及
ヒ所爲ニ因リテ占有ノ利益ヲ受クルコトヲ得
第九十一條 物ノ握取ハ簡易ノ引渡又ハ占有
ノ改定ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

初メ容假ノ權原ヲ以テ占有シタル物ヲ其占有
者ニ爾後自己ノ物ト看做スコトヲ得セシムル
新權原ニ依リテ之ヲ保存セシメタルトキハ簡
易ノ引渡アリタリトス

初メ物ヲ自己ニ屬ストシテ占有シタル者カ爾
後他人ノ名ヲ以テ其他人ノ爲メ占有ヲ繼續ス
ルコトヲ承諾シタルトキハ占有ノ改定アリタ
リトス

權利ノ行使ニ付テハ初メ他人ノ名ヲ以テ行使
セル者カ爾後自己ノ爲メニ行使スルニモ亦當
事者ノ意思ノミニテ足ル又初メ自己ノ爲メ行

使セル者カ爾後他人ノ爲ニ行使スルニ付テモ
亦同シ

第九十二條 占有ハ前主ニ於テ存シタル占有
ノ性質及ヒ瑕疵ヲ以テ相續人其他包括權原ノ
承繼人ニ移轉ス

物又ハ權利ノ特定權原ノ取得者ハ其利益ニ從
ヒ或ハ自己ノ占有ノミヲ申立テ或ハ自己ノ占
有ニ讓渡人ノ占有ヲ併セテ申立ツルコトヲ得

第三節 占有ノ効力

第九十三條 法定ノ占有者ハ反對ノ證據アル
ニ非サレハ其行使セル權利ヲ適法ニ有スルモ
ノトノ推定ヲ受ク其權利ニ關スル本權ノ訴ニ
付テハ常ニ被告タルモノトス

第九十四條 正權原且善意ノ占有者ハ天然ノ
果實及ヒ產出物ニ付テハ自身又ハ代人ヲ以テ
土地ヨリ離シタル時ニ於テ之ヲ取得シ法定ノ
果實ニ付テハ用益者ニ關シ規定シタル如ク日
割ヲ以テ之ヲ取得ス

占有者カ正權原ヲ有セスシテ事實又ハ法律ノ
錯誤ニ因リテ惡意ナキトキハ其消費シタル果
實ニ付キ利益ヲ得サリシ證據ヲ舉クルニ於テ
ハ之ヲ返還スル責ニ任セス

占有者カ其占有セシ物又ハ權利ノ自己ニ屬セ
サルコトヲ覺知シタルトキハ將來ニ向ヒテ果
實返還ノ責ヲ生ス又訴訟ニ於テ確定ニ敗訴シ
タルトキハ其出訴ノ時ヨリ此責ヲ生ス

第九十五條 惡意ノ占有者ハ回復ノ請求ヲ受
ケタル物又ハ權利ハ勿論現物ニテ仍ホ占有ス
ル果實及ヒ產出物ヲ返還シ且其既ニ消費シ又
ハ過失ニ因リテ損傷シ又ハ收取ヲ怠リタル果
實及ヒ產出物ノ代價ヲ償還スル責ニ任ス

回復者ハ果實ノ通常ノ負擔タル費用ヲ占有者
ニ償還スルコトヲ要ス

強暴又ハ隱密ノ占有者ハ其權原ノ正當ナルコ
トヲ自ラ信セシトキト雖モ果實ニ關シテハ常
ニ之ヲ惡意ノ占有者ト看做ス

第九十六條 占有者ハ善意ナルト惡意ナルトヲ問ハス物ノ保存ノ爲又ハ物ノ増價ノ爲メ費シタル金額ヲ回復者ヨリ償還セシムルコトヲ得

右孰レノ占有者モ其分限ノミニテハ奢靡ノ爲メ費シタル金額ノ償還ヲ求ムルコトヲ得ス
第九十七條 前二條ノ場合ニ於テ善意ノ占有者ハ回復者ノ言渡サレタル保存又ハ増價ノ爲メノ費用ノ全償ヲ得ル迄物ノ上ニ留置權ヲ有ス惡意ノ占有者ハ保存ノミノ費用ニ付キ留置權ヲ有ス

第九十八條 物カ毀損ヲ受ケ又ハ價格ヲ減シ其責ヲ占有者ニ歸ス可キトキハ惡意ノ占有者ニ在テハ如何ナル場合ニ於テモ所有者ニ賠償ヲ爲シ善意ノ占有者ニ在テハ其毀損又ハ減價ニ因リ己レヲ利シタル場合ニ於テ其利シタル限度ニ應シ賠償ヲ爲スコトヲ要ス
第九十九條 占有者ハ占有ヲ保持シ又ハ回收

屬ス

此訴權ハ右危險ニ對スル豫防ノ處分ヲ命令セシメ又ハ未定ノ損害ニ對スル賠償ノ保證人ヲ立テシムルヲ以テ其目的トス

第二百三條 保持訴權及ヒ新工告發訴權ハ平穩且公然ナル法定ノ占有者ノミニ屬ス但不動產又ハ包括動產ニ付テハ其占有ノ滿一箇年以來繼續シタルコトヲ要ス

第二百四條 回收訴權ハ暴行、脅迫又ハ詐術ヲ以テ不動產若クハ包括動產若クハ特定動產ノ全部又ハ一分ノ占有ヲ奪ハレタル占有者ニ屬ス但其占有カ被告ニ對シテ此等ノ瑕疵ノ一ヲモ帶ヒサルコトヲ要ス

此訴權ハ侵奪ノ占有ヲ特定權原ニテ承繼シタル者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス但其者カ侵奪ノ不法ノ所爲ニ關與シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百五條 回收訴權及ヒ急害告發訴權ハ法定

スル爲メ下ノ區別ニ從ヒテ占有ニ關スル訴權ヲ有ス

占有訴權ハ保持訴權、新工告發訴權、急害告發訴權及ヒ回收訴權ノ四種ナリ
第二百條 保持訴權ハ不動產ト包括動產ト特定動產トヲ問ハス其占有ニ關シ他人ヨリ反對ノ主張ヲ含メル事實上又ハ權利上ノ妨害ヲ受クル占有者ニ屬ス

此訴權ハ妨害ヲ止マシメ又ハ賠償ヲ得ルヲ以テ其目的トス

第二百一條 新工告發訴權ハ占有ノ妨害ト爲ル可キ隣地ノ新工事ヲ廢止セシメ又ハ變更セシムル爲メ不動產ノ占有者ニ關ス

第二百二條 急害告發訴權ハ或ハ建物、樹木其他ノ物ノ傾倒ニ因リ或ハ土手、水溜、水樋ノ破潰ニ因リ或ハ火、燃燒物、爆發物ノ必要ノ豫防ヲ爲ササル使用ニ因リテ隣地ヨリ生スル損害ヲ懼ル可キ至當ノ事由アル不動產ノ占有者ニ

ノ占有者及ヒ容假ノ占有者ニ屬ス縱令其占有カ未タ一箇年ニ滿タサルモ亦同シ

第二百六條 保持及ヒ回收ノ訴ハ妨害又ハ侵奪ヲ受ケタルヨリ一箇年内ニ非サレハ之ヲ受理セス

新工告發ノ訴ハ其工事ノ竣成セサル間ハ之ヲ受理ス但其工事ニ付キ占有者カ妨害ヲ受ケタルトキハ其工事竣成ノ前後ニ拘ハラズ妨害ヨリ一箇年内ニ於テ保持訴權ノミヲ行フコトヲ得

急害告發ノ訴ハ危險ノ存スル間ハ之ヲ受理ス
第二百七條 占有ノ訴ハ本權ノ訴ト併行スルコトヲ得ス

判事ハ當事者ノ權利ノ基本ヨリ出テタル理由ニシテ其權利ヲ豫決ス可キモノニ基キテ占有ノ訴ヲ裁判スルコトヲ得ス
又判事ハ本權ノ訴カ既ニ審理中ニ在ルモ占有ノ訴ノ判決ヲ猶豫スルコトヲ得ス

第二百八條 占有ノ訴ヲ起シタル後當事者ノ一方カ其裁判所又ハ他ノ裁判所ニ本權ノ訴ヲ起シタルトキハ占有ノ訴ノ確定判決ニ至ルマテ本權ノ訴ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ要ス本權ノ訴ノ被告カ第二十條ニ定メタル如ク其訴訟中ニ占有ノ訴ノ原告ト爲リタルトキモ亦同シ

第二百九條 本權ノ訴ノ原告ハ訴ヲ取下クルト雖モ其訴以前ノ事實ノ爲メニ更ニ占有ノ訴ヲ起スコトヲ得然レトモ既ニ起シタル占有ノ訴ニ付テハ原告タルト被告タルトヲ問ハス之ヲ繼續スルコトヲ得本權ノ訴ニ於テ確定ニ敗訴シタル者ハ占有ノ訴ヲ起スコトヲ得ス

第二百十條 本權又ハ占有ノ訴ノ被告ハ其訴訟中反訴ニテ占有ノ訴ノ原告ト爲ルコトヲ得
第二百十一條 判事ハ占有ノ訴ヲ正當ナリト認ムルトキハ場合ニ從ヒ妨害ノ絶止、侵奪物ノ

返還、新工事ノ廢止若クハ變更又ハ急害ノ豫防處分ヲ命令ス可ク若シ損害アラハ同時ニ其賠償ヲ言渡ス可シ

又判事ハ急害告發ノ訴ニ付テハ其將來未定ノ損害額ヲ斷定シ之ニ對スル保證人ヲ立ツ可キコトヲ被告ニ命令スルコトヲ得

第二百十二條 占有ノ訴ニ於テ敗訴シタル原告ハ仍ホ本權ノ訴ヲ起スコトヲ得占有ノ訴ニ於テ敗訴シタル被告モ亦仍ホ本權ノ訴ヲ起スコトヲ得但既ニ受ケタル言渡ヲ履行セシ後ニ限ル若シ言渡ノ金額カ未定ナルトキハ其言渡ヲ履行スルニ相應ナル金額ヲ裁判所書記課ニ供託ス可シ

第四節 占有ノ喪失
第二百十三條 占有ハ左ノ諸件ニ因リテ喪失ス
第一 自己又ハ他人ノ爲メニ占有スル意思ノ絶止

第二 物ノ所持又ハ權利ノ行使ノ任意ノ抛

棄又ハ法律上強要セラレタル抛棄

第三 不法ト否トヲ問ハス他人ノ占有ノ握取但其占有カ保持訴權又ハ回收訴權ノ行使ヲ受クルコト無クシテ一年ヨリ長ク繼續シタルトキニ限ル

第四 占有ノ目的タル物ノ全部ノ毀滅又ハ其權利ノ消滅

第五章 地役

總則

第二百十四條 地役トハ或ル不動産ノ便益ノ爲メ他ノ所有者ニ屬スル不動産ノ上ニ設ケタル負擔ヲ謂フ

地役ハ法律又ハ人爲ヲ以テ之ヲ設定ス

第一節 法律ヲ以テ設定シタル地役
第一款 隣地ノ立入又ハ通行ノ權利

第二百十五條 凡ソ所有者ハ土地ノ分界ニ於テ又ハ自己ノ土地ニ工事ヲ爲シ得ル餘地ナキ距離ニ於テ牆壁若クハ建物ヲ築造シ又ハ修繕ス

ル爲メ隣地ニ立入ルヲ求ムルコトヲ得

第二百十六條 築造又ハ修繕ノ工事ハ收穫ヲ害ス可キ季節ニ於テモ隣地ノ所有者又ハ占有者ノ一時不在ノ場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ス但急要又ハ極メテ必要ノ場合ハ此限ニ在ラス

如何ナル場合ニ於テモ隣人ノ承諾アルニ非ザレハ右工事ノ爲メ其住家ニ立入ルコトヲ得ス縱令其修繕ヲ要スル建物カ隣人ノ住家ニ連接スルモ亦同シ

第二百十七條 立入ヲ許諾セル隣人ハ工事ノ性質及ヒ時期ヲ酌量シテ其受ケタル妨害ニ相應スル償金ヲ求ムルコトヲ得

第二百十八條 或ル土地カ他ノ土地ニ圍繞セラレテ袋地ト爲リ公路ニ通スル能ハサルトキハ圍繞地ハ公路ニ至ル通路ヲ其袋地ニ供スルコトヲ要ス但下ニ記載シタル如ク二様ノ償金ヲ拂ハシムルコトヲ得

土地が堀割若クハ河海ニ由ルニ非サレハ他ニ通スル能ハサルキ又ハ崖岸アリテ公路ト著シキ高低ヲ爲ストキハ之ヲ袋地ト看做スヲ得

第二百十九條 袋地ノ利用又ハ其住居人ノ需用ノ爲メ定期又ハ不斷ニ車輛ヲ用ユルヲ要スルハ通路ノ幅ハ其用ニ相應スルヲ要ス
通行ノ必要又ハ其方法及ヒ條件ニ付キ當事者ノ議協ハサルトキハ裁判所ハ成ル可ク袋地ノ需用及ヒ通行ノ便利ト承役地ノ損害トヲ斟酌スルコトヲ要ス

第二百二十條 通路ノ開設及ヒ保持ノ工事ハ袋地ノ負擔ニ屬ス
承役地ノ建物又ハ樹木ヲ取除キ又ハ變更セシムルノ必要アルトキハ一回限ノ償金ヲ其所有者ニ辨償ス
此他承役地ノ使用又ハ耕作ヲ減シ及ヒ永ク其地ノ價格ヲ減スルニ付テノ償金ハ毎年之ヲ辨償ス

第二百二十一條 袋地タルコトノ止ミタルトキハ通行ノ權利及ヒ毎年ノ償金ノ義務ハ從ヒテ消滅ス

要役地ノ所有者ハ未タ拂期限ノ至ラサル償金ノ六個月分チ拂ヒテ常ニ通行ノ權利ヲ拋棄シ及ヒ之ニ對スル義務ヲ免カルコトヲ得

第二百二十二條 當事者ハ通行ヨリ生スル永久ノ損害ノ賠償又ハ毎年ノ償金ノ買戻ヲ隨意ニ元本ニテ定ムルコトヲ得
孰レノ場合ニ於テモ袋地ノ止ミシトキハ右元本ハ之ヲ全ク返還スルモノトス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十三條 土地ノ一分ノ讓渡又ハ共有者間ノ分割ニ因リテ袋地ノ生シタルトキハ讓渡人又ハ分割者ハ償金ヲ受クルコト無クシテ通路ヲ供スルノ義務ヲ負擔ス此義務ハ公路ノ創設ニ因リテ袋地タルヲ止ミシトキハ消滅ス

第二款 水ノ疏通、使用及ヒ引入

第二百二十四條 低地ノ所有者ハ人工ニ由ラスシテ自然ニ高地ヨリ流下スル雨水及ヒ泉水ヲ承クル義務アリ

人工ヲ以テ水ノ疏通路ヲ創設シ又ハ變更セシト雖モ其工事カ三十年前ニ在ルカ又ハ年月ヲ知ル可カラサルトキハ亦同シ

第二百二十五條 土手其他水ヲ湛フル工作物ノ破潰ニ因リ又ハ水樋、堀割ノ阻塞ニ因リ高地ノ水量ヲ増シテ衝激ヲ致シ又ハ方向ヲ變セントスルトキハ低地ノ所有者ハ第二百二條及ヒ第二百十一條ニ從ヒテ急害ノ告發ヲ爲シ且高地ノ所有者ノ費用ヲ以テ其修繕ヲ爲スコトヲ得

事變ニ因リ低地ニ於テ水流ノ阻塞シタルトキハ高地ノ所有者ハ平常ノ疏通ニ復スル爲メ自費ヲ以テ必要ノ工事ヲ爲ス權利ヲ有ス然レトモ其義務ヲ負擔セス

第二百二十六條 所有者ハ雨水ノ直チニ隣地ニ

落ツル如キ屋根其他ノ工作物ヲ設クルコトヲ得ス

第二百二十七條 泉源ノ所有者ハ隨意ニ之ヲ使用シ且自然ニ隣地ニ流ル可キ餘水ヲ隣人ニ與ヘサルコトヲ得但次條及ヒ第二百七十六條ノ規定其他鑽泉ノ利用、収益ニ關スル行政法ノ規定ヲ妨ケス

第二百二十八條 泉源ノ水カ一町村又ハ一部落ノ住民ノ家用ニ必要ナルトキハ所有者ハ其水ノ不用ノ部分ヲ流下セシムル責ニ任ス
又町村ハ自費ヲ以テ水ノ聚合及ヒ引入ニ必要ナル工事ヲ泉源ノ土地ニ旋スコトヲ得但其工事ノ爲メ償金ヲ拂ヒ且其土地ニ永久ノ損害ヲ生セシメサルコトヲ要ス

此他町村ハ水ノ使用ノ爲メ償金ヲ拂フコトヲ要ス但三十年間無償ニテ使用ヲ爲シクルトモ此限ニ在ラス

第二百二十九條 溝渠、水流、堀割又ハ池沼ノ沿

岸者ニシテ其床地ヲ所有スル者ハ家用及ヒ農工業用ニ其水ヲ使用スルコトヲ得然レトモ其水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得ス

同上ノ流水ノ通過スル土地ノ所有者ハ右ト同一ノ需用ノ爲メ其地内ニ於テ水路ヲ變轉スルコトヲ得然レトモ其水ノ出口ニ於テハ之ヲ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス

右孰レノ場合ニ於テモ沿岸者ハ地方ノ規則ニ從ヒテ捕漁ノ權利ヲ有ス

沿岸者ハ對岸者ニ損害ヲ及ホス可キトキハ己レノ方ニ於テ水除ヲ築クコトヲ得ス

第二百三十條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ其水ヲ利用ス可キ沿岸者又ハ低地ノ所有者ヨリ爭ヲ起シタルトキハ裁判所ハ地方ノ慣習ト衛生ノ需用ト農工業ノ利益トヲ斟酌シテ之ヲ決ス

第二百三十一條 右流水ニ關スル取締ハ地方廳ニ屬ス地方廳ハ其流水ノ疏通、保持及ヒ魚類

ニ連接シタル庭園ヲ經テ水ノ通過ヲ要求スルコトヲ得ス

第二百三十六條 水ノ通路ニ必要ナル工作物ノ築造及ヒ保持ハ其工作物ニ付キ利益ヲ得ル所有者ノ費用ニテ之ヲ爲ス

第二百三十七條 承役地ノ所有者ハ其土地ニ存スル掘割ヲ要役地ニ出入スル水ノ全部又ハ一分ノ通路ニ供スルコトヲ要求スルヲ得但從來其掘割ヲ通過スル水カ要役地ニ供シタル水ヲ變スルノ性質ナラサルトキニ限ル

又承役地ノ所有者ハ其土地ニ要役地ノ所有者ノ爲シタル工作物ヲ右ト同一ノ條件ニ從ヒテ水ノ通過ノ爲メ使用セント請求スルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ他人ノ爲シタル工作物ヲ使用スル者ハ自己ノ利益ノ割合ニ應シテ其築造及ヒ保持ノ費用ヲ分擔ス

第二百三十八條 第二百二十九條第一項ニ從ヒ

ノ保育ニ付キ必要ノ處分ヲ命スルコトヲ得
第二百三十二條 一般又ハ一地方ノ公有又ハ私有ニ屬スル水ノ使用及ヒ取締ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十三條 自己ノ土地外ニ在ル天然又ハ人工ノ水ヲ用ユル權利ヲ有スル所有者ハ家用又ハ農工業用ノ爲メ償金ヲ拂ヒ其水ノ通過ヲ中間ノ土地ニ要求スルコトヲ得

第二百三十四條 低地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カスニ因リ出水ノ疏通ノ爲メ及ヒ家用又ハ農工業用ノ餘水ノ排泄ノ爲メ公路、公流又ハ下水道ニ至ルマテ其通路ヲ供スル責ニ任ス
家用又ハ農工業用ノ爲メニ變質シタル水ノ通過ハ地下ニ於ケルニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第二百三十五條 水ノ通路ハ成ル可ク承役地ノ損害少ナキ場所ニ之ヲ設クルコトヲ要ス
如何ナル場合ニ於テモ建物ノ下ヲ經又ハ住家

流水ヲ使用スル權利ヲ有スル所有者ハ堰ヲ設ケテ水ヲ高ムルノ要用アルトキハ償金ヲ拂ヒテ其堰ヲ對岸ニ支持セシムルコトヲ得
同一ノ權利ヲ有スル對岸地ノ所有者ハ前條ニ記載シタル如ク費用ヲ分擔シテ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得

第三款 經界

第二百三十九條 凡ソ相隣者ハ地方ノ慣習ニ從ヒ樹石杭杙ノ如キ標示物ヲ以テ其連接シタル所有地ノ界限ヲ定メント互ニ強要スルコトヲ得

第二百四十條 經界訴權ハ建物ニ付キ及ヒ土屏、垣柵等ノ圍障アル土地ニ付テハ行ハレス
公路又ハ公流ニテ隔テタル土地ニ付テモ亦同シ

第二百四十一條 經界訴權ハ協議上又ハ裁判上ニテ界限ノ定マラサル間ハ時効ニ罹ルコト無シ

經界ノ訴ニ付キ被告カ原告ノ土地ノ全部又ハ一分ニ對シ取得時効又ハ一年以上ノ占有ヲ申立ツルトキハ原告ハ先ツ回復又ハ回復ノ訴ヲ爲スコトヲ要ス

第二百四十二條 經界ハ界限ノ確定セザルトキ又ハ爭論アルトキハ所有權ノ證書ニ記載シタル坪數及ヒ界限ニ從ヒテ之ヲ爲ス其證書ナキトキハ之ニ代フルニ足ル他ノ證據又ハ書類ニ依リテ之ヲ爲ス

所有權ニ付キ爭論アルトキハ先ツ其裁判ヲ受クルコトヲ要ス

第二百四十三條 當事者カ協議ヲ以テ界限ヲ定メタルトキハ其證書ヲ作ルコトヲ要ス此證書ハ坪數及ヒ界限ニ付キ確定權原ノ効ヲ有ス當事者ノ議協ハサルトキハ判決ヲ以テ坪數及ヒ界限ヲ定メ其判決書ニ圖面ヲ添フ此圖面ニハ界標ヲ指示シ且各界標ノ距離及ヒ其近傍ノ移動ナキ目標ト各界標トノ距離ヲ記載ス

竹垣ノ類ニ非サレハ之ヲ要求スルヲ得ス其高サハ分界線ノ平面ヨリ少ナクトモ六尺タル可シ

第二百四十七條 圍障ノ設置、保持及ヒ修繕ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス

相隣者ノ一人ハ前條ニ定メタル材料ヨリ良好ナル他ノ材料ヲ用井又ハ高サヲ増シテ圍障ヲ築造スルコトヲ得但築造費用ノ差額ヲ拂ヒ且保持及ヒ修繕ノ費用ノ全額ヲ負擔ス

第二百四十八條 相隣者ノ一人カ他ノ一人ヲ圍障分擔ノ遲滯ニ付セスシテ之ヲ築造シ又ハ修繕シタルトキハ其人ニ對シテ費用ノ分擔ヲ要求スルコトヲ得ス

第五款 互有

第二百四十九條 前款ニ定メタル義務ニ因リ又ハ任意且協議ニ因リ共擔ノ費用ヲ以テ土地ノ分界線上ニ築造シタル圍障ハ其性質ノ如何ヲ問ハス敷地ト共ニ相隣者ノ互有ニ屬ス

第二百四十四條 樹石杭杙ノ代價其設置ノ費用及ヒ證書並ニ訴訟費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス然レトモ判決ニ因リテ不當ト爲リタル爭論ノミニ關スル訴訟費用ハ敗訴者之ヲ負擔ス

第四款 圍障

第二百四十五條 凡ソ所有者ハ適宜ノ材料ヲ用井適宜ノ高サニ於テ自己ノ不動產ニ圍障ヲ設クルコトヲ得但其不動產カ法律又ハ人爲ニテ隣人ノ立入又ハ通行ノ地役ニ服スルトキハ其地役ヲ行フ權能ヲ妨クルコトヲ得ス

第二百四十六條 二箇ノ住家又ハ農工業用建物ノ間ニ在ル中庭又ハ圍圃ノ土地カ各箇ノ所有者ニ分屬スルトキハ各自其隣人ニ分界圍障ノ分擔ヲ強要スルコトヲ得

性質ノ如何ヲ問ハス相隣者ノ建物ノ隔壁及ヒ溝渠、牛糞、柴垣ニシテ共擔ノ費用ヲ以テ土地ノ分界線上ニ設ケタルモノモ亦同シ

第二百五十條 凡ソ土地ノ圍障又ハ建物ノ隔壁ニシテ分界線上ニ在ルモノハ其性質ノ如何ヲ問ハス共擔ノ費用ヲ以テ設ケタルモノトシテ之ヲ互有ト推定ス但或ハ證書ニ因リ或ハ證人ニ因リ或ハ三十年ノ時効ニ因リ或ハ下ニ示シタル非互有ノ目標ニ因リテ反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第二百五十一條 相隣者ノ一人ノ專屬權ヲ定ムル直接ノ證據又ハ時効ノ存セサルモ非互有ヲ推定ス可キ目標トナル可キモノハ左ノ如シ

第一 土造、石造、煉瓦造ノ牆壁ニ付テハ屋根ノ傾斜面又ハ小窓、漏孔其他ノ工作物

又ハ粧飾物カ一方ノミニ存スルコト

第二 板扉、竹垣ニ付テハ其支柱カ一方ノ

ミニ存スルコト

第三 溝渠ニ付テハ堀浚ノ泥土カ一方ノミニ存スルコト

第四 生籬、柴垣ニ付テハ一方ノ土地ノミ四面ヲ圍マレタルコト

此四箇ノ場合ニ於テ專屬權ハ右目標ノ存スル一方又ハ土地ノ至ク圍マレタル一方ノ相隣者ニ屬ス

第二百五十二條 高サノ不同ナル二箇ノ建物ヲ隔ツル牆壁ニ付テハ其牆壁カ低キ建物ヲ踰ユル部分ニハ互有ノ推定ヲ適用セス

又牆壁カ一箇ノ建物ノミヲ支持スルトキハ右ノ推定ハ如何ナル部分ニモ之ヲ適用セス

第二百五十三條 二箇ノ土地ヲ分界スル一箇ノ圍障其他ノ工作物ニ互有ノ目標ト非互有ノ目標トノ併存スルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ其所有權ノ共通ナルカ專屬ナルカヲ査定ス

第二百五十四條 互有界ノ保持及ヒ修繕ハ互有者平分シテ之ヲ負擔ス但其一人ノ所爲ヨリ毀

損ノ生シタルトキハ此限ニ在ラス
然レトモ第二百四十六條ニ定メタル義務上ノ圍障ニ非サルトキハ互有者ノ各自ハ互有權ヲ拋棄シテ保持及ヒ修繕ノ負擔ヲ免カルルコトヲ得但自己ノ建物ヲ支持スル牆壁ノ保持及ヒ修繕ニ關スルトキ又ハ自己ノ所爲ニ因リテ必用ト爲リタル修繕ノ費用ヲ拂フ可キトキハ此限ニ在ラス

第二百五十五條 相隣者ハ互有界ヲ其性質及ヒ用方ニ從ヒテ使用スルコトヲ得但其堅牢ヲ傷ハサルコトヲ要ス

相隣者ハ互有ノ牆壁ニ其厚サ四分ノ三ニ至ルマテ梁棟ヲ穿入シテ建物ヲ支持シ又ハ之ニ煖爐ヲ嵌入シ若クハ烟突、水管、瓦斯管其他家用、工業用ノ爲メ筒管ヲ通スルコトヲ得但其牆壁ノ性質及ヒ厚サカ此ニ耐フルトキニ限ル然レトモ互有者ハ其牆壁ニ窟孔ヲ鑿チ又室内用ノ爲メ些少ノ凹穴ヲモ鑿ツルコトヲ得ス

互有者ハ互有ノ牆壁ノ高サヲ増スコトヲ得但其牆壁ノ堅牢此ニ耐フルトキ又ハ自費ニテ工事ヲ加ヘ若クハ改築ヲ爲シテ堅牢ナラシムルトキニ限ル此場合ニ於テ其高サヲ増シタル部分ハ互有ニ非ラス

互有者ハ互有ノ溝渠ニ雨水又ハ家用、工業用ノ水ヲ注下スルコトヲ得

互有者ハ互有ノ生籬ヲ剪伐シタル樹枝ヲ平分シ又其生籬ニ存スル高木ノ伐除ヲ要求スルコトヲ得

第二百五十六條 相隣者ノ一人カ石又ハ煉瓦ニテ土地ノ圍障又ハ建物ノ牆壁ヲ分界線ニ接シ又ハ此ヨリ一尺ニ滿タサル距離ニ於テ築造シタルトキハ他ノ一人ハ現時ノ相場ニテ材料代及ヒ手間賃ノ半額ヲ償ヒテ常ニ其互有權ノ讓渡ヲ要求スルコトヲ得前條第三項ニ從ヒテ増築シタル牆壁ニ付テモ亦同シ
互有權ノ讓渡ヲ要求スル相隣者ハ圍障、牆壁

ノ敷地及ヒ之ト分界線トノ間ノ地面ニ付キ地上權ノミヲ要求スルコトヲ得此地地上權ニ付テハ鑑定人ノ評定シタル定期ノ納額ヲ建物ノ存立間拂フ責ニ任ス
本條ニ依リ牆壁ノ互有權ヲ取得シタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ使用スルコトヲ得然レトモ人爲上ノ觀望ノ地役トシテ其牆壁ニ設ケタル窟孔ヲ塞カシムルコトヲ得ス
石造、煉瓦造ニ非サル圍障、隔壁及ヒ籬柵、溝渠、土手ニ付テハ共擔ノ費用ヲ以テセル設定又ハ協議上ノ讓渡ニ因ルニ非サレハ互有權ヲ生セス

第二百五十七條 所有者ハ石造、煉瓦造ニ非サル建物ヲ築造スルトキハ其建物ト土地ノ分界線トノ間ニハ其地方ノ慣習ニテ定マリタル尺度ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス
此距離ヲ存セスシテ築造スルトキハ一方ノ相隣者ハ築造ノ間ハ第二百一一條ニ從ヒテ新工告

額ノ占有訴權ヲ行フコトヲ得
右築造竣成ノ後一方ノ相隣者カ建物ヲ築造セ
ントシ其工事ノ爲メ自己ノ地上ニ於テ分界線
ヨリ慣習ノ尺度ヲ超ニル距離ヲ要スルニ因リ
建物ヲ其尺度外ニ退ケタルトキハ其餘分ニ退
ケタル地面ニ應シ前築造者ニ對シテ償金ヲ要
求スルコトヲ得

第六款 他人ノ所有地ニ對スル觀望
及ヒ明取窓

第二百五十八條 二箇ノ土地ノ分界線ヨリ少ナ
クトモ三尺ノ距離アルニ非サレハ建物ニ窓又
ハ縁側ヲ設ケテ他人ノ所有地ヲ直線ニ觀望ス
ルコトヲ得ス
此距離ハ窓又ハ縁側ノ突出シタル部分ヨリ直
角線ニテ分界線ニ至ルマテヲ測算ス
第二百五十九條 右距離ノ制限ヲ遵守スルニ不
便ナルトキハ目隱ヲ以テ窓ヲ蔽フコトヲ要ス
但其目隱ハ分界線上ニ突出スルコトヲ得ス

目隱ヲ設クル能ハサルトキハ明取窓ニ非サレ
ハ之ヲ設クルコトヲ得ス此明取窓ハ其下部ヨ
リ床板マテ少ナクトモ六尺ト爲シ格子ヲ附著
シ其格子目ハ一寸以内タルコトヲ要ス
此場合ニ於テ尙ホ隣地ノ所有者ハ目隱カ一尺
以上分界線ヲ踰ニルヲ許シテ之ヲ設ケシムル
コトヲ得

第二百六十條 觀望又ハ明取窓ニ關スル前二條
ノ規定ハ建物ト對向スル隣地ノ建物ニ隔孔ナ
キトキハ之ヲ適用セス

第七款 或ル工作物ニ要スル距離
第二百六十一條 自己ノ土地ニ井戸、用水溜、下
水溜又ハ糞尿坑ヲ穿タントスル所有者ハ分界
線ヨリ少ナクトモ六尺ノ距離ヲ存スルコトヲ
要ス但土砂ノ崩壞又ハ水液ノ滲漏ヲ防クニ必
要ナル工事ヲ爲ス可シ
乾燥シテ覆蓋アル地窖ニ付テハ右距離ヲ三尺
ニ減ス

水路ニ供シタル石樋又ハ溝渠ニ付テハ右距離
ハ少ナクトモ其深サノ半ニ同シキコトヲ要ス
然レトモ三尺ヲ踰ユルコトヲ要セス
右溝渠ハ分界線ノ方ノ崖ヲ斜ニ削下シ又ハ石
垣若クハ木柵ヲ以テ之ヲ支持ス可シ
第二百六十二條 高サ三間ニ踰ユル竹木ハ分界
線ヨリ六尺ニ滿タサル距離内ニ之ヲ栽植シ又
ハ保持スルコトヲ得ス

高サ三間ニ滿タス一間ニ踰ユル竹木ニ付テハ
二尺ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス
此他矮小ノ竹木ハ直チニ之ヲ分界線ニ接著セ
シムルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ相隣者ハ竹木ノ所有者
ニ對シ分界線ヲ踰ユタル枝ノ剪除ヲ要求スル
コトヲ得又自己ノ土地ヲ侵セル根ヲ自ラ截去
スルコトヲ得
前條及ヒ本條ノ規定ハ二箇ノ土地ノ分界カ互
有ナルトキト雖モ之ヲ適用ス

第二百六十三條 右ニ異ナリタル慣習アルトキ
ハ前二條ノ規定ニ依ラスシテ其慣習ヲ遵守ス
第二百六十四條 危險ヲ含ミ衛生ヲ害シ又ハ不
都合ヲ生スル營業ニ付キ近隣ノ利益ノ爲メニ
要スル條件ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス
前諸款ニ共通ナル規則
第二百六十五條 本節ノ規定ハ國、府縣、市町村
ノ私有及ヒ公有ノ財産ニ付キ勸方及ヒ受方ニ
テ之ヲ適用ス
然レトモ公用財産ハ水ノ疏通及ヒ互有ノ要求
權ニ服セス

第二節 人爲ヲ以テ設定シタル地役
第一款 地役ノ性質及ヒ種類
第二百六十六條 相隣者ハ其不動産ノ利益又ハ
負擔ニテ諸種ノ地役ヲ設定スルコトヲ得但其
地役カ公ノ秩序ニ反セサルコトヲ要ス

第二百六十七條 地役ハ不動産ノ所有權カ何人
ニ移轉スルモ勸方又ハ受方ニ於テ其不動産ニ

從トシテ附著ス

働方ノ地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ
賃貸シ又ハ抵當ト爲スコトヲ得ス又地役ノ上
ニ地役ヲ設定スルコトヲ得ス

第二百六十八條 地役ハ不動産カ數人ノ共有ニ
屬スルトキハ其一人自己ノ持分ニ付キ要役地
ニ地役ヲ失ハシメ又承役地ニ之ヲ免カレシム
ルコトヲ得サルニ因リテ之ヲ不可分トス
又土地ノ分割又ハ其一分ノ讓渡ノ場合ニ於テ
地役ハ不可分ニテ承役地ノ各部分ヲ累ハシ又
ハ要役地ノ各部分ヲ利ス但其地役カ承役地ノ
一部分ニ對スルニ非サレハ有益ニ行ハレス又
ハ要役地ノ一部分ノ爲メニ非サレハ便益ヲ得
セシメサル場合ハ此限ニ在ラス

第二百六十九條 要役地ノ所有者ハ自己ニ屬ス
ト主張スル地役ニ付キ占有ニ係ルト本權ニ係
ルトヲ問ハス要請訴權ヲ行フコトヲ得
又承役地ナリトノ主張ヲ受ケタル不動産ノ所

有者ハ其爭フ地役ノ行使ヲ拒ミ又ハ之ヲ止マ
シムル爲メ占有ニ係ルト本權ニ係ルトヲ問ハ
ス拒却訴權ヲ行フコトヲ得

第二百七十條 前三條ノ規定ハ法律ヲ以テ設定
シタル地役ニ之ヲ適用ス

第二百七十一條 地役ノ種類ハ之ヲ左ニ掲ク

第一 繼續又ハ不繼續ノ地役

第二 表見又ハ不表見ノ地役

第三 有的又ハ無的ノ地役

第二百七十二條 地役カ場所ノ位置ノミニ因リ
人ノ所爲ヲ要セスシテ間斷ナク要役地ニ便ヲ
與ヘ承役地ニ累ヲ爲ストキハ繼續地役ナリ
地役カ用役地ノ便益ノ爲メ時時人ノ所爲ヲ要
スルトキハ不繼續地役ナリ

第二百七十三條 地役カ外見ノ工作又ハ形跡ニ
因リテ顯露スルトキハ表見地役ニシテ之ニ反
スルトキハ不表見地役ナリ

第二百七十四條 地役ハ左ノ場合ニ於テハ有的

地役ナリ

第一 不動産ノ所有者カ他人ノ不動産ヨリ
或ル便益ヲ取ルコトヲ得ルトキ

第二 不動産ノ所有者カ相隣便益ノ爲メ法
律ノ普通ニ制禁スル或ル工作ヲ自己ノ不
動産ニ爲スコトヲ得ルトキ

地役ハ左ノ場合ニ於テハ無的地役ナリ

第一 不動産ノ所有者カ普通ニ所有者ニ許
サル可キ所爲ヲ隣人カ自己ノ不動産ニ爲
スヲ禁スルコトヲ得ルトキ

第二 不動産ノ所有者カ普通法ニ從ヒ自己
ノ不動産ニ於テ相隣便益ノ爲メニ爲スコ
ク又ハ許ス可キ所爲ヲ爲サス又ハ許ササ
ルコトヲ得ルトキ

第二款 地役ノ設定

第二百七十五條 地役ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之
ヲ設定スルコトヲ得

右條レノ場合ニ於テモ當事者ノ間ニ於ケルト

第三者ニ對スルトヲ問ハス地役ノ有効ナル爲
メニハ不動産物權ノ讓渡ニ關スル通常規則ヲ
遵守ス可シ

第二百七十六條 不動産所有權ニ關シ時効ヨリ
生スル正當ナル取得推定ハ繼續且表見ノ地役
ニノミ之ヲ適用ス

隣地ヨリ引ク水ノ取得ニ關スル時効ノ期間ハ
其時効ヲ援用スル所有者カ自己ノ土地又ハ承
役地ニ於テ其便益ノ爲メ水ヲ聚合シ及ヒ引入
スル外見ノ工作物ヲ作りタル當時ヨリ算起ス
第二百七十七條 初メ一人ノ所有ニ屬シタル二
箇ノ土地カ不分ノ時既ニ繼續且表見ノ地役ノ
成立ス可キ位置ヲ成シ其分離ノ時此形狀ヲ變
更セス又之ヲ變更スルコトヲ要約セサリント
キハ所有者ノ用方ニ因リ此種ノ地役ヲ設定シ
タルモノト看做ス

第二百七十八條 不繼續地役及ヒ不表見地役ハ

第二百七十五條ニ記載シタル二箇ノ權原ノ一

ニ依ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス
 第二百七十九條 要役權ヲ有スト主張スル所有者ハ承役地ノ所有者ヨリ出テ又ハ其前所有者ノ一人ヨリ出テタル地役追認ノ證書ヲ差出スコトヲ得ルトキハ前ニ掲ケタル方法ノ一ニ因レル地役設定ノ直接ノ證據ヲ舉グルコトヲ要セス

第三款 地役ノ効力

第二百八十條 適法ニ取得シタル地役權ハ其性質ニ從ビテ行使ニ必要ナル從タル權利及ヒ權能ヲ帶フ
 右ノ外合意又ハ遺言ヲ以テ設定シタル地役ニ付テハ其合意又ハ遺言ノ解釋ニ關スル一般ノ規則ニ從フ又時効ニ基キタル地役ニ付テハ實際占有ノ廣狹ヲ量リ所有者ノ用方ニ因リテ生シタル地役ニ付テハ設定者ノ意思ヲ推定シテ其權利ノ廣狹ヲ定ム
 第二百八十一條 通行ノ地役、繼續若クハ不繼

所有者ノ承認アルニ非サレハ正シク定置キタル行使ノ時日、場所又ハ方法ヲ變更スルコトヲ得ス但承役地ノ所有者カ如何ナル損害ヲモ受ケサルトキハ此限ニ在ラス
 又承役地ノ所有者カ右變更ニ付キ正當ナル利益ヲ得且要役地ノ所有者カ如何ナル損害ヲモ受ケサルトキハ承役地ノ所有者ハ其變更ヲ要求スルコトヲ得
 第二百八十四條 地役ヲ設定スル爲メ或ル工作物ヲ必要トスルトキハ其費用ハ要役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス但承役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス可キコトヲ要約シタルトキハ此限ニ在ラス
 第二百八十五條 地役ノ行使ニ關スル工作物ノ保持及ヒ修繕ハ亦要役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス但修繕カ承役地ノ所有者ノ過失ニ因リテ必要ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス
 又承役地ノ所有者カ保持及ヒ修繕ヲ負擔ス可キヲ合意スルコトヲ得此場合ニ於テ承役地ノ

續ナル取水ノ地役、牧畜又ハ物料採取ノ地役ニ付キ設定權原又ハ其後ノ合意ニ於テ行使ノ時日、場所、方法又ハ收取ノ數量ヲ定メサリシトキハ當事者ノ一方ハ常ニ他ノ一方ト立會ノ上其定方ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得
 此定方ニ付テハ裁判所ハ雙方ノ需用ヲ斟酌シ且地役權行使ノ從來ノ實蹟ヲ照查ス可シ

第二百八十二條 取水ノ地役ニ服スル不動產ノ所有者ハ自己ノ所爲ニ因リテ水ノ缺乏ヲ生セシメタルトキニ非サレハ其責ニ任セス
 二箇ノ不動產ノ需用ノ爲メニ水ノ不足スルトキハ先ツ家用ニ次ニ農業用ニ次ニ工業用ニ之ヲ供ス右ハ總テ其不動產ノ重要ノ度ニ割合ヲ可シ
 徵箇ノ要役地アルトキハ各要役地ハ家用ノ爲メ相共ニ水ヲ使用ス農工業用ニ付テハ取水ノ先後ハ地役權取得ノ先後ニ從フ
 第二百八十三條 地役權ヲ有スル者ハ承役地ノ

所有者ハ地役ノ存スル不動產ノ部分ヲ要役地ノ所有者ニ遺棄スルトキハ常ニ右ノ負擔ヲ免カルルコトヲ得

第二百八十六條 承役地ノ所有者ハ地役ノ行使ニ如何ナル妨碍ヲモ爲サス又其便益ニ如何ナル減少ヲモ生セサルニ於テハ其所有權ニ固有ナル適法ノ權能ヲ行フコトヲ得
 又承役地ノ所有者ハ地役ノ行使ノ爲メ其不動產ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但其所有者カ工作物ヨリ收ムル便益及ヒ其使用ニ因リ増加ス可キ費用ニ應シテ其建設又ハ保持ノ費用ヲ分擔ス

第四款 地役ノ消滅

第二百八十七條 地役ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス
 第一 地役ヲ設定シタル期間ノ滿了
 第二 設定ノ權原又ハ設定者ノ權利ノ解除、銷除又ハ廢罷

第三 承役地ノ公用徴收

第四 拋棄

第五 混同

第六 三十个年間ノ不使用

第三者カ地役アルコトヲ知ラスシテ承役地ヲ占有シ其占有ニ不動産所有權ノ取得ニ關スル時効ニ必要ナル條件ヲ具備スルトキハ地役ハ消滅シタリトノ推定ヲ受ク

第二百八十八條 地役ノ拋棄ハ之ヲ明示スルコトヲ要ス然レトモ繼續地役ノ行使ノ爲メ承役地ニ設ケタル工作物ノ毀壞又ハ其使用ノ廢止ニ付キ要役地ノ所有者カ異議ヲ留メスシテ明示ノ承諾ヲ與ヘタルトキハ其地役ヲ拋棄シタリト看做ス

拋棄ハ拋棄者カ自己ノ不動産權利ヲ讓渡スノ能力ヲ有スルトキニ非サレハ其効ナシ

第二百八十九條 地役ハ要役地及ヒ承役地ヲ一入ノ所有ニ併合シタルトキハ混同ニ因リテ消滅ス然レトモ其併合ノ行爲ヲ裁判上ニテ解除シ銷除シ又ハ廢罷シタルトキハ其地役ヲ曾テ消滅セサリシモノト看做ス

右不動産ヲ再ヒ分離シタルトキハ繼續且表見ノ地役ハ第二百七十七條ノ規定ニ從ヒテ再生ス

第二百九十條 地役ハ要役地ノ所有者カ任意タルト否トヲ問ハス其地役權ヲ行フ無クシテ三十个年ヲ經過シタルトキハ不使用ニ因リテ消滅ス

右期間ハ不繼續地役ニ付テハ最後ノ使用ノ行爲ヨリ之ヲ起算シ繼續地役ニ付テハ地役ノ自然ノ作用ニ對スル形體上ノ妨碍ノ起レル當時ヨリ之ヲ起算ス

右妨碍カ承役地ニ起發シタル事變ヨリ生スルトキハ要役地ノ所有者ハ自費ニテ舊狀ニ復スルコトヲ得又其妨碍カ承役地ノ所有者ノ所爲ヨリ生スルトキハ其費用ヲ以テ復舊ス

第二百九十一條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其一人ノ權利ノ行使ニ因リテ他ノ人ノ權利ヲ保存ス

此他免責時効ノ停止又ハ中斷ニ關スル規則ハ地役ノ不使用ニ之ヲ適用ス

第二百九十二條 地役權ノ行使ノ時日、場所及ヒ方法ニ關スル利益ハ不使用又ハ時効ノ結果ニ因リテ滅殺ヲ受クルコト有リ

第二部 人權及ヒ義務

總則

第二百九十三條 人權即チ債權ハ常ニ義務ト對當ス

義務ハ一人又ハ數人ヲシテ他ノ定マリタル一人又ハ數人ニ對シテ或ル物ヲ與ヘ又ハ或ル事ヲ爲シ若クハ爲ササルコトニ服從セシムル人定法又ハ自然法ノ羈絆ナリ

義務ヲ負フ者ハ之ヲ債務者ト名ツケ義務ニ因リテ利益ヲ得ル者ハ之ヲ債權者ト名ツク

第二百九十四條 人定法ノ義務ハ其履行ニ付キ法律ノ許セル諸般ノ方法ニ依リテ債務者ヲ強要スルコトヲ得ルモノナリ

自然ノ義務ニ對シテハ訴權ヲ生セス

第一章 義務ノ原因

總則

第二百九十五條 義務ハ左ノ諸件ヨリ生ス

第一 合意

第二 不當ノ利得

第三 不正ノ損害

第四 法律ノ規定

第一節 合意

第二百九十六條 合意トハ物權ト人權トヲ問ハス或ル權利ヲ創設シ若クハ移轉シ又ハ之ヲ變更シ若クハ消滅セシムルヲ目的トスル二人又ハ數人ノ意思ノ合致ヲ謂フ

合意カ人權ノ創設ヲ主タル目的トスルトキハ之ヲ契約ト名ツク

六十一

第一款 合意ノ種類

第二百九十七條 合意ニハ雙務ノモノ有リ片務ノモノ有リ

當事者相互ニ義務ヲ負擔スルトキハ其合意ハ雙務ノモノナリ

當事者ノ一方ノミカ他ノ一方ニ對シテ義務ヲ負擔スルトキハ其合意ハ片務ノモノナリ

第二百九十八條 合意ニハ有償ノモノ有リ無償ノモノ有リ

各當事者カ出捐ヲ爲シテ相互ニ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得セシムルトキハ其合意ハ有償ノモノナリ

當事者ノ一方ノミカ何等ノ利益ヲモ給セスシテ他ノ一方ヨリ利益ヲ受クルトキハ其合意ハ無償ノモノナリ

第二百九十九條 合意ニハ諾成ノモノ有リ要物ノモノ有リ

合意カ當事者ノ承諾ノミヲ以テ成立スルトキ

ハ其合意ハ諾成ノモノナリ

合意カ當事者ノ承諾ノ外尙ホ目的物ノ引渡ヲ要スルトキハ其合意ハ要物ノモノナリ

第三百條 合意ニハ要式ノモノ有リ不要式ノモノ有リ

公正證書ヲ以テ承諾ヲ與フ可キ合意ハ要式ヲモノナリ

此他ノ場合ニ於ケル合意ハ不要式ノモノナリ

第三百一條 合意ニハ實定ノモノ有リ射倂ノモノ有リ

合意ノ成立及ヒ効力カ合意ノ當初ヨリ確實ナルトキハ其合意ハ實定ノモノナリ

合意ノ成立又ハ其効力ノ全部若クハ一分カ偶然ノ事ニ繫ルトキハ其合意ハ射倂ノモノナリ

第三百二條 合意ニハ主タルモノ有リ從タルモノ有リ

合意ノ成立カ他ノ合意ノ成立ニ關係ナキトキハ其合意ハ主タルモノナリ

反對ノ場合ニ於テハ其合意ハ從タルモノナリ

主タル合意ノ無効ハ從タル合意ノ無効ヲ惹起ス但從タル合意カ主タル合意ノ無効ノ場合ニ於テ之ニ代ハルヲ目的トスルモノナルトキハ此限ニ在ラス

從タル合意ノ無効ハ主タル合意ノ無効ヲ惹起セス但當事者カ其二箇ノ合意ヲ分離ス可カラサルモノト看做シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百三條 合意ニハ有名ノモノ有リ無名ノモノ有リ

有名ノ合意ハ固有ノ名稱アリテ本法又ハ商法ニ於ケル特別ノ規則ノ目的タルモノナリ特別ノ規則ヲ設ケサル總テノ場合ニ於テハ其合意ハ本部ノ規則ニ從フ

無名ノ合意ハ本部ニ掲ケタル合意ノ一般ノ規則ニ從フ又有名ノ合意ニ特別ナル規則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スル

無名ノ合意ハ本部ニ掲ケタル合意ノ一般ノ規則ニ從フ又有名ノ合意ニ特別ナル規則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スル

無名ノ合意ハ本部ニ掲ケタル合意ノ一般ノ規則ニ從フ又有名ノ合意ニ特別ナル規則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スル

無名ノ合意ハ本部ニ掲ケタル合意ノ一般ノ規則ニ從フ又有名ノ合意ニ特別ナル規則ハ其合意ト最モ類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スル

コトヲ得

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件

第三百四條 凡ソ合意ノ成立スル爲メニハ左ノ三箇ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

第一 當事者又ハ代人ノ承諾

第二 確定ニシテ各人カ處分權ヲ有スル目的

第三 眞實且合法ノ原因

右ノ外尙ホ要式ノ合意ハ必要ノ方式ヲ遵守シ要物ノ合意ハ返還セラル可キ物ノ引渡ヲ爲シタルニ非サレハ成立セス

第三百五條 合意ノ成立ニ必要ナル條件ノ外尙ホ其有効ナル爲メニハ左ニ掲シル二箇ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

第一 承諾ノ瑕疵ヲ成ス可キ錯誤又ハ強暴ノ無キコト

第二 當事者ノ能力アルコト又ハ有効ニ代理セラレタルコト

第三百六條 承諾トハ利害關係人トシテ合意ニ

加ハル總當事者ノ意思ノ合致ヲ謂フ

當事者中ノ一人カ承諾セザルトキハ他ノ當事者カ承諾シタルモ合意ハ成立セス但此ニ異ナル意思ノ存セシ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七條 承諾ハ書面、口頭又ハ容態ヲ以テ

之ヲ與フルコトヲ得但此末ノ場合ニ於テハ他ニ同意ヲ表スルノ手段ナキコト且承諾スル意思ノ確證アルコトヲ要ス

又承諾ハ事情ニ因リテ默示ヨリ成ルコトヲ得

第三百八條 遠隔ノ地ニ於テ取結フ合意ノ言込

ハ其受諾ノ爲メ明示又ハ默示ノ期間ナキトキハ受諾ノ報ナキノ間ハ之ヲ言消スコトヲ得但言消ノ報ノ達スルニ先タチ受諾ノ報ヲ發シタルトキハ其受諾ハ有効ニシテ其言消ハ無効ナ

リ
右ニ反シ明示又ハ默示ノ期間アルトキハ其期間ハ言込ヲ言消スコトヲ得ス但言消ノ報カ言

込又ハ期間指示ノ報ニ先タチ又ハ同時ニ先方

ニ達シタルキハ此限ニ在ラス

此指示期間ニ承諾ヲ爲サザルトキハ言込ハ期間満了ノミニテ消滅ス

受諾モ亦之ヲ言消スコトヲ得但其報カ受諾ノ報ニ先タチ又ハ同時ニ言込人ニ達スルコトヲ要ス

言込人カ死亡シ又ハ合意スル能力ヲ失ヒタルモ先方カ未タ此事實ヲ知ラサル間ハ其受諾ハ有効ナリ

郵便、電信ノ錯誤ハ差出人ノ責ニ歸ス但郵便、電信ノ官署ニ對スル求償權アルトキハ之ヲ行フコトヲ妨ケス

第三百九條 當事者ノ錯誤ニテ合意ノ性質、目的又ハ原因ノ著眼ニ相違アリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

合意ノ緣由ノ錯誤ハ其錯誤ノミニテハ無効ノ原因ヲ成サス但當事者ノ一方ノ詐欺ニ關シテ

定ムルモノハ此限ニ在ラス

當事者ノ身上ノ錯誤ハ其身上ニ付テノ著眼カ決意ノ原因タリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

身上ノ著眼カ合意ノ附隨ノ原因タルニ過キタルトキハ其合意ハ身上ノ錯誤ノ爲メ單ニ取消スコトヲ得ヘキモノナリ

第三百十條 物上ノ錯誤カ物ノ品質ニ存スルト

キハ其錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス但其品質ニ付テノ著眼カ當事者ノ決意ヲ助成セザルトキハ此限ニ在ラス

之ニ反シテ物ノ品格ニ存スル錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成サス但當事者ノ意思カ明示又ハ事情ニ因リテ品格ニ著眼シタルコトノ明白ナルトキハ此限ニ在ラス物ノ時代、出處又ハ用方ノ如

キ思想上ノ品格ニ付テモ亦同シ

合意ノ履行ノ時期又ハ場所ニ存スル錯誤ニ付テハ前項ノ規定ニ從フ

算數、氏名、證書ノ日附又ハ場所ノ錯誤ニ付テ

ハ第五百五十九條ノ規定ニ從フ

第三百十一條 法律ノ錯誤カ或ハ合意ノ性質、原因又ハ効力ニ存スルトキ或ハ物ノ資格又ハ人ノ分限ニ存シテ其資格若クハ分限カ決意ヲ爲サシメタルトキハ其錯誤ハ事實ノ錯誤ノ如ク承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ス

然レトモ裁判所ハ宥恕ス可キ情狀アルニ非サレハ右錯誤ノ爲メ合意ノ無効ヲ認許スルコトヲ得ス

法律ノ錯誤ハ責罰ニ對シ時期ヨリ生スル法律上ノ失權ニ對シ又ハ行為ノ違式ヨリ生スル無効ニ對シ此他公ノ秩序ニ係ル法律、規則ノ不知ニ對シテモ當事者ヲ救護スル爲メニ之ヲ認許セス

第三百十二條 詐欺ハ承諾ヲ阻却セス又其瑕疵ヲ成サス但詐欺カ錯誤ヲ惹起シ其錯誤ノミニテ

以テ前三條ニ記載セル如ク承諾ヲ阻却シ又ハ

其瑕疵ヲ成ストキハ此限ニ在ラス
此他ノ場合ニ於テハ詐欺ハ之ヲ行ヒタル者ニ
對スル損害賠償ノ訴權ノミヲ生ス

然レトモ當事者ノ一方カ詐欺ヲ行ヒ其欺詐カ
他ノ一方ヲシテ合意ヲ爲スコトニ決意セシメ
タルトキハ其一方ハ補償ノ名義ニテ合意ノ取
消ヲ求メ且損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコ
トヲ得但其合意ノ取消ハ善意ナル第三者ヲ害
スルコトヲ得ス

第三百十三條 強暴ハ當事者ノ一方カ抵抗スル
コトヲ得サル暴行、脅迫ヲ受ケタルニ因リ枉
ケテ合意ヲ爲シタルトキハ承諾ヲ阻却ス
當事者ノ一方カ不可抗力ニ出テタル急迫ノ災
害ヲ避クル爲メ熟慮スルノ暇ナクシテ過度ナ
ル義務ヲ約シ又ハ無思慮ナル讓渡ヲ爲シタル
トキモ亦同シ

暴行、脅迫又ハ災害カ抵抗ス可カラサルニ非
サルモ當事者又ハ第三者ノ身體、財産ノ爲メ

切迫ニシテ一層重大ノ害ヲ避クル爲メ當事者
ヲシテ合意ヲ爲スコトニ決意セシメタルトキ
ハ強暴ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス

第三百十四條 強暴ニ因リテ身體財産ニ危難ノ
恐ヲ受ケタル第三者カ當事者ノ偶配者又ハ直
系ノ親屬若クハ姻屬ナルトキハ其強暴ハ常ニ
之ヲ當事者ニ加ヘタリト看做ス

此他ノ人ニ付テハ親屬ナルト姻屬ナルト又ハ
外人ナルトヲ問ハス裁判所ハ此等ノ者ニ對シ
テ加ヘタル強暴カ當事者ノ承諾ニ及ホセシ影
響ヲ其事情ニ從ヒテ査定ス

第三百十五條 強暴ハ當事者ノ一方ノ所爲ニ出
テタルト第三者ノ所爲ニ出テタルト又第三者
カ其一方ニ通謀セルト否トヲ問ハス上ノ區別
ニ從ヒテ承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ス

第三百十六條 強暴ヲ受ケタル一方ハ合意ヲ銷
除スルコトヲ得ル場合ニ於テモ強暴ヲ行ヒタ
ル者ニ對シ損害賠償ノミヲ請求シテ其合意ヲ

維持スルコトヲ得

強暴カ合意ノ決意ヲ爲サシメタルニ非スシテ
單ニ權利ナル條件ヲ承諾セシメタルトキハ其合
意ハ銷除スルコトヲ得ス但賠償ノ要求ヲ妨ケス
第三百十七條 強暴ノ場合ニ於テ裁判所ハ當事
者ノ男女、年齢、強弱、智愚及ヒ相互ノ身分ヲ
斟酌ス可シ

然レトモ卑屬親ノ尊屬親ニ對スル尊敬ノミニ
出テタル畏懼ハ合意ヲ取消ス理由ト爲ラス

第三百十八條 錯誤、強暴、詐欺及ヒ無能力ハ之
ヲ推定セス其申立人ヨリ之ヲ證スルコトヲ要ス
當事者ノ雙方ニ屬スル銷除訴權ノ方法ハ相互
ノ非理ニ基クトキト雖モ互ニ毀滅セス但損害
アルトキハ其賠償ノ相殺ヲ妨ケス

第三百十九條 前數條ノ場合ニ於ケル銷除訴權
ハ無能力者又ハ瑕疵アル承諾ヲ與ヘタル者ノ
ミニ屬ス

然レトモ處刑ノ言渡ヨリ生スル無能力ハ其言

渡ヲ受ケタル者ト合意ヲ爲シタル者ヨリ之ヲ
申立ツルコトヲ得

第三百二十條 取消スコトヲ得ヘキ合意ヲ第三
章第七節ニ定メタル期間ニ攻撃セサルトキハ
默示ニテ之ヲ認諾シタルモノト看做ス

此他默示認諾ノ場合及ヒ明示認諾ノ方式ハ右
同節ノ規定ニ從フ

第三百二十一條 合意ハ未來ニ係リ且成立ノ不
確定ナル物ヲ目的トスルコトヲ得此場合ニ於
テ諸約者ハ其諾約ノ實施ヲ妨碍シ若クハ減縮
スル何等ノ事ヲモ爲サス又其實施ニ便ス可キ
何等ノ事ヲモ放却シ若クハ怠ラサルコトヲ要
ス

然レトモ相續ニテ受ク可キ財産ヲ讓渡ス合意
ハ其相續ヲ遺ス可キ人ノ承諾アリト雖モ之ヲ
爲スコトヲ得ス

第三百二十二條 合意ハ不法又ハ不能ノ作爲又
ハ不作爲ヲ目的トスルトキハ無効ナリ

合意ノ目的タル第三者ノ作爲又ハ不作爲カ合法又ハ可能ナリト雖モ若シ諾約者カ其第三者ニ對シテ威權ヲ有セサルトキハ其諾約ハ之ヲ不能ノ作爲又ハ不作爲ヲ目的トセルモノト看做ス

然レトモ何人ニテモ第三者ノ作爲又ハ不作爲ニ付キ明示ニテ擔保人ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ諾約者ハ保證人ノ義務ニ服ス

又何人ニテモ第三者ヨ代ハリテ諾約ヲ爲シ若シ其第三者カ之ヲ履行セサルニ於テハ過怠金ヲ辨済ス可キ責ニ服スルコトヲ得

何人ニテモ第三者ノ名ヲ以テ合意ヲ爲シ第三者ヲシテ之ヲ承認セシム可キコトノミヲ諾約シタルトキハ其第三者ノ承認シタル時ヨリ義務ヲ免カル

第三百二十三條 要約者カ合意ニ付キ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ正當ノ利益ヲ有セサルトキハ其合意ハ原因ナキ爲メ無効ナリ

第三者ノ利益ノ爲メニ要約ヲ爲シ且之ニ過怠約款ヲ加ヘサルトキハ其要約ハ之ヲ要約者ニ於テ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ有セサルモノト看做ス

然レトモ第三者ノ利益ニ於ケル要約ハ要約者カ自己ノ爲メ爲シタル要約ノ從タリ又ハ諾約者ニ爲シタル贈與ノ從タル條件ナルトキハ有効ナリ

右二箇ノ場合ニ於テ從タル條件ノ履行ヲ得サルトキハ要約者ハ單ニ合意ノ解除訴權又ハ過怠約款ノ履行訴權ヲ行フコトヲ得

第三百二十四條 主タリ又ハ從タル要約ハ常ニ要約者ノ相續人ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ得

主タリ又ハ從タル諾約ハ諾約者ノ相續人ノ負擔トシテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百二十五條 前二條ノ場合ニ於テ第三者又ハ相續人ノ利益ノ爲メニ爲シタル要約ハ享益

者ノ之ヲ承諾セサル間ハ要約者ハ自己ノ利益

ノ爲メニ之ヲ廢罷シ又ハ之ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得

第三百二十六條 合意ノ證書ニ原因ヲ明示シタルト否トヲ問ハス其原因ノ不成立、虛妄又ハ

不法ナルコトノ證據ハ被告ヨリ之ヲ爲ス可キモノトス若シ原因ノ明示ナキトキハ被告ハ先

ツ原告ヲシテ其原因ヲ陳述セシムル爲メニ之ニ催告スルコトヲ得但原因ニ付キ爭フコトヲ

妨ケス

第三款 合意ノ効力

第一則 當事者間及ヒ其承繼人間ノ合意ノ効力

第三百二十七條 適法ニ爲シタル合意ハ當事者ノ間ニ於テ法律ニ同シキ効力ヲ有ス

此合意ハ當事者ノ雙方カ承諾スルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得ス但法律カ一方ノ意思ヲ以テ廢罷スルコトヲ許セル場合ハ此限ニ在

ラス

第三百二十八條 當事者ハ合意ヲ以テ普通法ノ規定ニ依ラサルコトヲ得但其効力ヲ増減スルコトヲ得但公ノ秩序及ヒ善良ノ風俗ニ觸ルルコトヲ得ス

第三百二十九條 合意ハ當事者ノ明示及ヒ默示ノ効力ノミナラス尙ホ合意ノ性質ニ從ヒテ條理若クハ慣習ヨリ生シ又ハ法律ノ規定ヨリ生スル効力ヲ有ス

第三百三十條 合意ハ善意ヲ以テ之ヲ履行スルコトヲ要ス

第三百三十一條 特定物ヲ授與スル合意ハ引渡ヲ要セスシテ直チニ其所有權ヲ移轉ス但合意ニ附帶スルコト有ル可キ停止條件ニ關シ下ニ規定スルモノヲ妨ケス

第三百三十二條 代替物ヲ授與スル合意ハ諾約者ヲシテ其物ノ所有權ヲ約束シタル性質、品格及ヒ分量ヲ以テ要約者ニ移轉スル義務ヲ負

ハシム此場合ニ於テ所有權ハ物ノ引渡ニ因リ
又ハ當事者立會ニテ爲シタル其指定ニ因リテ
移轉ス

第三百三十三條 前二條ノ場合ニ於テハ約束シ
タル時日及ヒ場所ニ於テ諾約者ノ注意及ヒ費
用ニテ物ノ引渡ヲ爲スコトヲ要ス

引取ノ費用ハ要約者之ヲ負擔ス
證書ノ費用ハ有償行爲ニ付テハ當事者雙方之
ヲ負擔シ無償行爲ニ付テハ享益者之ヲ負擔ス
不動産ノ引渡ハ證書ノ交付及ヒ場所ノ明渡ヲ
以テ之ヲ爲ス但簡易ノ引渡及ヒ占有ノ改定ニ
關シ第九十一條ニ規定シタルモノヲ妨ケス
債權ノ引渡ハ證書ノ交付ヲ以テ之ヲ爲ス
引渡ノ期限ノ定マラザリシトキハ即時ニ引渡
ヲ要求スルコトヲ得

引渡ノ場所ノ定マラザリシトキハ特定物ニ付
テハ合意ノ當時其物ノ存在セシ場所、代替物
ニ付テハ其物ノ指定ヲ爲シタル場所其他ノ場

合ニ在テハ諾約者ノ住所ニ於テ引渡ヲ爲ス
第三百三十四條 諾約者ハ特定物ノ引渡ヲ爲ス
マテ善良ナル管理人タルノ注意ヲ以テ其物ヲ
保存スルコトヲ要ス懈怠又ハ惡意アルトキハ
損害賠償ノ責ニ任ス

無償ニテ讓渡シタル物ノ保存ニ付テハ諾約者
ハ自己ノ物ニ加フルト同一ノ注意ヲ加フルノ
ミノ責ニ任ス
此他諾約者カ右ト同一ノ注意ノミヲ負擔スル
場合ハ其各事項ニ於テ之ヲ規定ス

第三百三十五條 授與スル合意カ特定物ヲ目的
トスルトキハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出テタ
ル其物ノ滅失又ハ毀損ハ諾約者カ危險ヲ負擔
シタル場合及ヒ停止條件ニ關スル規定ヲ除ク
外要約者ノ損ニ歸シ其物ノ増加ハ要約者ノ益
ニ歸ス

然レトモ諾約者カ物ノ引渡ノ遲滞ニ付セラレ
タルトキハ其滅失又ハ毀損ハ諾約者ノ負擔ニ

歸ス但縱令引渡ヲ爲シタルモ滅失又ハ毀損ヲ
免ル可カラザリシ場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十六條 左ノ場合ニ於テハ諾約者其他
ノ債務者ハ遲滞ニ付セラレタルモノトス

第一 期限ノ到來後ニ裁判所ニ請求ヲ爲シ
又ハ合式ニ催告書ヲ送達シ若クハ執行文
ヲ示シタルトキ

第二 期限ノ到來ノミニ因リテ遲滞ニ付ス
ルコトヲ法律又ハ合意ヲ以テ定メタル場
合ニ於テ其期限ノ到來シタルトキ

第三 諾約者カ或ル時期ニ後レタル履行ハ
要約者ニ無用ナルコトヲ知リテ其時期ヲ
經過セシメタルトキ

第三百三十七條 作爲又ハ不作爲ノ義務ヲ定ム
ル合意ノ効力ハ第三百八十二條ノ規定ニ從
フ

第三百三十八條 合意ハ當事者ノ相續人其他一
般ノ承繼人ヲ利シ又ハ之ヲ害ス但法律又ハ合

意ニ於テ格別ノ定ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在
ラス

第三百三十九條 債權者ハ其債務者ニ屬スル權
利ヲ申立テ及ヒ其訴權ヲ行フコトヲ得

債權者ハ此事ノ爲メ或ハ差押ノ方法ニ依リ或
ハ債務者ノ原告又ハ被告タル訴ニ参加スルコ
トニ依リ或ハ民事訴訟法ニ從ヒテ得タル裁判
上ノ代位ヲ以テ第三者ニ對スル間接ノ訴ニ依
ル

然レトモ債權者ハ債務者ニ屬スル純然タル權
能又ハ債務者ノ一身ニ專屬スル權利ヲ行フコ
トヲ得ス又法律又ハ合意ノ明文ヲ以テ差押ヲ
禁シタル財産ヲ差押フルコトヲ得ス

第三百四十條 右ニ反シ債權者ハ其債務者カ第
三者ニ對シ承諾シタル義務、拋棄又ハ讓渡ニ
付キ其損害ヲ受ク但債權者ノ權利ヲ詐害スル
行爲ハ此限ニ在ラス

債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ自己

ノ財産ヲ減シ又ハ自己ノ債務ヲ増シタルトキ
ハ之ヲ詐害ノ行爲トス

第三百四十一條 詐害ノ行爲ノ廢罷ハ債務者ト
約束シタル者及ヒ轉得者ニ對シ次條ノ區別ニ
從ヒ債權者ヨリ廢罷訴權ヲ以テ之ヲ請求ス
債務者カ原告タルト被告タルトヲ問ハス詐害
スル意思ヲ以テ故サラニ訴訟ニ失敗シタルト
キハ債權者ハ民事訴訟ニ從ヒ再審ノ方法ニ依
リテ訴フルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ヲ訴訟ニ參加セ
シムルコトヲ要ス
債權者カ詐害ノ行爲ノ廢罷ヲ得ル能ハサルト
キハ被告ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ
得

第三百四十二條 債權者ハ攻撃スル行爲ノ如何
ヲ問ハス其債務者ノ詐害ヲ證スルコトヲ要ス
此他有價ノ行爲ニ付テハ債務者ト約束シ又ハ
之ト訴訟シタル者ノ通謀ヲ證スルコトヲ要ス

タル場合ニ於テシ且其條件ニ從フトキハ第三
者ニ對シテ効力ヲ生ス

第三百四十六條 所有者カ一箇ノ有體動産ヲ二
箇ノ合意ヲ以テ各別ニ二人ニ與ヘタルトキハ
其二人中現ニ占有スル者ハ證書ノ日附ハ後ナ
リトモ其所有者タリ但其者カ自己ノ合意ヲ爲
ス當時ニ於テ前ノ合意ヲ知ラス且前ノ合意ヲ
爲シタル者ノ財産ヲ管理スル責任ナキコトヲ
要ス

此規則ハ無記名證券ニ之ヲ適用ス
第三百四十七條 記名證券ノ讓受人ハ債務者ニ
其讓受ヲ合式ニ告知シ又ハ債務者カ公正證書
若クハ私署證書ヲ以テ之ヲ承諾シタル後ニ非
サレハ自己ノ權利ヲ以テ讓渡人ノ承繼人及ヒ
債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

債務者ハ讓渡ヲ承諾シタルトキハ讓渡人ニ對
スル抗辯ヲ以テ新債權者ニ對抗スルコトヲ得
ス又讓渡ニ付テ告知ノミニテハ債務者ヲシテ

讓渡ニ對スル廢罷訴權ハ有價又ハ無價ノ轉得
者カ最初ノ取得者ト約束スルニ當リ債權者ニ
加ヘタル詐害ヲ知りタルトキニ非サレハ其轉
得者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第三百四十三條 廢罷ハ詐害行爲ニ先タチ權利
ヲ取得シタル債權者ニ非サレハ之ヲ請求スル
コトヲ得ス然レトモ廢罷ヲ得タルトキハ總債
權者ヲ利ス但各債權者ノ間ニ於テ適法ノ先取
原因ノ存スルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十四條 廢罷訴權ハ詐害行爲ノ有リタ
ル時ヨリ三十年ニシテ時効ニ罹リ消滅ス若
シ債權者カ詐害ヲ覺知シタルトキハ其覺知ノ
時ヨリ二個年ニシテ消滅ス
右ノ時効ハ再審申立ノ訴權ニ之ヲ適用ス

力
第三百四十五條 合意ハ當事者及ヒ其承繼人ノ
間ニ非サレハ効力ヲ有セスト雖モ法律ニ定メ

其告知後ニ生スル抗辯ノミヲ失ハシム
右ノ行爲ノ一ヲ爲スマテハ債務者ノ辨濟、免
責ノ合意、讓渡人ノ債權者ヨリ爲シタル拂渡
差押又ハ合式ニ告知シ若クハ承諾ヲ得タル新
讓渡ハ總テ善意ニテ之ヲ爲シタルモノトノ推
定ヲ受ケ且之ヲ以テ懈怠ナル讓受人ニ對抗ス
ルコトヲ得

當事者ノ惡意ハ其自白ニ因ルニ非サレハ之ヲ
證スルコトヲ得ス然レトモ讓渡人ト通謀シタ
ル詐害アリシトキハ其通謀ハ通常ノ證據方法
ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得
裏書ヲ以テスル商證券ノ讓渡ニ特別ナル規則
ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百四十八條 左ニ掲クル諸件ハ財産所在地
ノ區裁判所ニ備ヘタル登記簿ニ之ヲ登記ス
第一 不動産所有權其他ノ不動産物權ノ讓
渡

第二 右ノ權利ノ變更又ハ拋棄

第三 差押へタル不動産ノ競落

第四 公用徴収ヲ宣言シタル判決又ハ行政上ノ命令

第三百四十九條 登記ハ當事者ノ請願ニ因リ其費用ヲ以テ之ヲ爲ス

請願者ニハ其求ニ因リテ登記ノ認證書ヲ交付ス

何人ニテモ登記簿ノ抄本ヲ要求スルコトヲ得

登記ニ關スル方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百五十條 第三百四十八條ニ掲ケタル行爲

判決又ハ命令ノ効力ニ因リテ取得シ變更シ又ハ取回シタル物權ハ其登記ヲ爲スマテハ仍ホ

名義上ノ所有者ト此物權ニ付キ約束シタル者又ハ其所有者ヨリ此物權ト相容レサル權利ヲ

取得シタル者ニ對抗スルコトヲ要ス但其善ノ善意ニシテ且其行爲ノ登記ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ爲シタルトキニ限ル

惡意及ヒ通謀ニ付テハ第三百四十七條ノ規定

ニ從ヒテ之ヲ證スルコトヲ得

第三百五十一條 法律、裁判又ハ合意ニ因リテ前取得者ノ爲メ登記ヲ爲ス義務アルモノカ之ヲ爲サスシテ後ニ取得者ト爲リタルトキハ善意タリト雖モ自己又ハ其相續人若クハ一般ノ承繼人ヨリ登記ナキコトヲ申立テテ前取得者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十二條 登記ヲ經タル讓渡ノ解除、銷

除又ハ廢罷ヲ爲サントスル訴權カ善意ノ轉得者ニ對シテ行フコトヲ得サル場合ニ在テハ原告ハ爾後自己ニ對抗スルコトヲ得ヘキ登記ヲ防止スル爲メ其攻撃スル行爲ノ登記ニ豫メ訴狀ノ抜抄ヲ附記ス

右ノ訴權ヲ總テノ轉得者ニ對シテ行フコトヲ得ヘキ場合ニ在テハ其攻撃スル行爲ノ登記ニ訴狀ヲ附記セサル間ハ裁判所ニ於テ其訴訟ヲ受理セス

行爲取消ノ判決ハ假執行タリトモ其執行以前

訴狀ノ附記ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

ス縱令執行ナキモ亦其判決ノ確定ト爲リタル時ヨリ一个月内ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス此

ニ違ヒタルトキハ其判決ヲ得タル者ヲ五十圓以下ノ過料ニ處ス裁判所ハ請求ヲ却下シ又ハ

其手續ノ失効ヲ宣告シタルトキハ其判決ノ確定ニ至リテ訴狀ノ附記ヲ抹消セシムル爲メ職權ヲ以テ豫メ其抹消ヲ命ス

原告カ取下ヲ爲シタルトキハ當事者ノ請願ニ因リテ訴狀ノ附記ヲ抹消ス

第三百五十三條 登記ヲ經タル行爲ノ協議上ノ解除、銷除又ハ廢罷ハ總テ之ヲ任意ノ讓戻ト

看做シ第三百四十八條乃至第三百五十一條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

右登記ハ登記官吏其職權ヲ以テ取消ト爲リタル行爲ノ登記ニ之ヲ附記ス

第三百五十四條 登記及ヒ附記ハ總テ利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ其抹消又ハ改正ヲ請求スル

若請求及ヒ其判決ハ第三百五十二條ニ規定シタル如ク其爭フ行爲ノ登記ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス此ニ違フ者ノ責罰モ亦同條ノ規定ニ從フ

能カヲ有シ又ハ合式ニ代理セラレ若クハ保佐セラレタル當事者ハ協議ニテ抹消又ハ改正ヲ承諾スルコトヲ得

裁判上ニテ合式ニ命シ又ハ協議ニテ承諾シタル株消又ハ改正ハ登記ヲ爲シタル權利者ヲ此事ニ付キ異議ヲ違ヘシムル爲メニ召喚シ又ハ其承服ヲ得タルニ非サレハ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十五條 登記官吏ハ前數條ニ掲ケタル登記、附記、抹消若クハ改正又ハ登記認證書ニ於ケル脱漏又ハ訛誤ニ付キ請願者又ハ利害關係人ニ對シテ其責ニ任ス

第四款 合意ノ解釋

七十五

第三百五十六條 合意ノ解釋ニ付テハ裁判所ハ當事者ノ用非タル語辭ノ字義ニ拘ハラシヨリ寧ロ當事者ノ共通ノ意思ヲ推尋スルコトヲ要ス

第三百五十七條 一箇ノ語辭カ各地ニ於テ意義ヲ異ニスルトキハ當事者雙方ノ住所ヲ有スル地ニ於テ慣用スル意義ニ從ヒ若シ同一ノ地ニ住所ヲ有セサルトキハ合意ヲ爲シタル地ニ於テ慣用スル意義ニ從フ

一箇ノ語辭ニ本來二様ノ意義アルトキハ其合意ノ性質及ヒ目的ニ最モ適スル意義ニ從フ

第三百五十八條 合意ノ各項目ハ合意ノ全體ト最モ善ク一致スル意義ニ從ヒテ相互ニ之ヲ解釋ス

一箇ノ項目ニ二様ノ意義アリテ其一カ項目ヲ有効ナラシムルトキハ其意義ニ從フ

第三百五十九條 合意ノ語辭カ如何ニ廣泛ナルモ其語辭ハ當事者ノ合意ヲ爲スニ付キ期望シ

タル目的ノミヲ包含セルモノト推定ス

當事者カ合意ノ自然若クハ法律上ノ効力ノ一ヲ明言シ又ハ特別ノ場合ニ於ケル其適用ヲ明言シタルモ慣習若クハ法律ニ因リテ生スル他ノ効力又ハ適當ニ受ク可キ他ノ適用ヲ阻却セント欲シタルモノト推定セス

第三百六十條 總テノ場合ニ於テ當事者ノ意思ニ疑アルトキハ其合意ノ解釋ハ諸約者ノ利ト爲ル可キ意義ニ從フ

雙務ノ合意ニ於テハ此規定ハ各項目ニ付キ各別ニ之ヲ適用ス

第二節 不當ノ利得

第三百六十一條 何人ニテモ有意ト無意ト又錯誤ト故意トヲ問ハス正當ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ付キ利ヲ得タル者ハ其不當ノ利得ノ取戻ヲ受ク
此規定ハ下ノ區別ニ從ヒ主トシテ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 他人ノ事務ノ管理

第二 負擔ナクシテ辨濟シタル物及ヒ虛妄若クハ不法ノ原因ノ爲メ又ハ成就セス若クハ消滅シタル原因ノ爲メニ供與シタル物ノ領受

第三 遺贈其他遺言ノ負擔ヲ付シタル相續ノ受諾

第四 他人ノ物ノ添附ヨリ又ハ他人ノ勞力ヨリ生スル所有物ノ増加

第五 他人ノ物ノ占有者カ不法ニ収取シタル果實產出物其他ノ利益及ヒ之ニ反シテ占有者カ其占有物ニ加ヘタル改良但第九十四條乃至第九十八條ニ規定シタル區別ニ從フ

第三百六十二條 不在者其他ノ人ノ財産ニ患害アリト見ユルトキ合意上、法律上又ハ裁判上ノ委任ナク好意ヲ以テ其事務ヲ管理スル者ハ本主ノ財産ヨリ収メタル利益ヲ返還シ且其管

理ノ際自己ノ名ニテ取得シタル權利及ヒ訴權ヲ本主ニ移轉スル責アリ

右管理者ハ本主又ハ其相續人カ自ラ管理ヲ爲シ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スル責アリ又右管理者ハ過失又ハ懈怠ニ因リテ本主ニ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但管理者カ其管理ニ任スルニ至レル事情ヲ酌量スルコトヲ要ス

第三百六十三條 本主ハ管理者カ管理ノ爲メニ出シタル必要又ハ有益ナル諸費用ヲ賠償シ及ヒ管理者カ其管理ノ爲メニ自身ニ負擔シタル義務ヲ免カレンメ又ハ其擔保ヲ爲スヲ要ス若シ本主ノ意思ニ反シ管理ヲ爲シタルトキハ管理者ハ出訴ノ日ニ於テ存在スル費用又ハ約務ノ有益ノ限度ニ在ラザレハ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

第三百六十四條 債權者ニ非スシテ辨濟ヲ受ケタル者ハ其善意ト惡意ト又辨濟者ノ錯誤ト故意トヲ問ハス訴ヲ受ケタル日ニ於テ現ニ已レ

ヲ利シタルモノノ取戻ヲ受ク

第三百六十五條 辨濟ヲ受ケタル者カ債權者ナルモ債務者ニ非サル者ヨリ之ヲ受ケタルトキハ辨濟者カ錯誤ニテ辨濟ヲ爲シタルトキニ非サレハ其取戻ヲ許サス

債權者カ辨濟ヲ受ケタル爲メニ善意ニテ債權證書ヲ毀滅セシトキモ亦其取戻ヲ許サス
右二箇ノ場合ニ於テ辨濟者カ事務管理ノ訴權ニ依リ又ハ代位辨濟ノ規則ニ依リ眞ノ債務者ニ對シテ有スル求償權ヲ妨ケス

第三百六十六條 眞ノ債務者ヨリ眞ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル場合ニ在テハ債務者カ其負擔シタル物ニ異ナル性質ノ物又ハ自己ニ屬セサル物ヲ錯誤ニ因リ辨濟トシテ與ヘタルトキニ非サレハ其取戻ヲ許サス
或ハ期限ニ先タチテ辨濟ヲ爲シ或ハ辨濟ヲ實行ス可キ場所外ニ於テ辨濟ヲ爲シ或ハ諾約シタル物ニ異ナル品質、品格若クハ價格ノ物ヲ

以テ辨濟ヲ爲シタルトキモ亦其取戻ヲ許サス
但當事者ノ一方ノ錯誤ニ出テタルトハ其ノ一方ハ爲メニ受ケタル損失ヲ他ノ一方ノ得タル利益ノ割合ニ應ジテ賠償セシムルコトヲ妨ケス

第三百六十七條 第三百六十一條第二號ニ掲ケタル供與ニシテ辨濟ノ性質ヲ有セサルモノニモ亦第三百六十四條ノ規定ヲ適用ス
然レトモ不法ノ原因ノ爲メ供與シタル物又ハ有價物ハ其原因カ之ヲ供與シタル者ノ方ニ於テ不法ナルトキハ其取戻ヲ許サス

第三百六十八條 第三百六十一條第二號ニ掲ケタル供與ヲ善意ニテ領受シタル者ハ訴ヲ受ケタル日ニ於テ其不當ニ已レヲ利シタルモノノ外尙ホ左ノ物ヲ返還ス可シ
第一 元本ヲ領受セシ時ヨリノ法律上ノ利息

第二 收取ヲ怠リ又ハ消費シタル特定物ノ

果實及ヒ產出物

第三 自己ノ過失又ハ懈怠ニ因ル物ノ價額ノ喪失又ハ減少ノ償金縱令其喪失又ハ減少カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルモ其物カ供與者ノ方ニ在ルニ於テハ此損害ヲ受ケサル可カリシトキハ亦同シ

第三百六十九條 不當ニ領受シタル物カ不動産ニシテ且之ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ初ノ引渡人ハ其選擇ヲ以テ或ハ第三所持者ニ對シテ其不働産ノ回復ヲ訴ヘ或ハ領受者ニ對シテ其代金ノ取戻ヲ訴フルコトヲ得
善意ナル領受者ニ對シテハ單ニ不動産ノ讓渡代金ヲ取戻シ又ハ其代金ニ關スル訴權ヲ要求シ惡意ナル領受者ニ對シテハ其代金ヲ評價ニテ取戻スコトヲ得

第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪

第三百七十條 過失又ハ懈怠ニ因リテ他人ニ損

害ヲ加ヘタル者ハ其賠償ヲ爲ス責ニ任ス
此損害ノ所爲カ有意ニ出テタルトキハ其所爲ハ民事ノ犯罪ヲ成シ無意ニ出テタルトキハ准犯罪ヲ成ス
犯罪及ヒ准犯罪ノ責任ノ廣狹ハ合意ノ履行ニ於ケル詐欺及ヒ過失ノ責任ニ關スル次章第二節ノ規定ニ從フ

第三百七十一條 何人ヲ問ハス自己ノ所爲又ハ懈怠ヨリ生スル損害ニ付キ其責ニ任スルノミナラス尙ホ自己ノ威權ノ下ニ在ル者ノ所爲又ハ懈怠及ヒ自己ニ屬スル物ヨリ生スル損害ニ付キ下ノ區別ニ從ヒテ其責ニ任ス

第三百七十二條 父權ヲ行フ尊屬親ハ已レト同居スル未成年ノ尊屬親ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

後見人ハ已レト同居スル被後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

癡癲白痴者ヲ看守スル者ハ癡癲白痴者ノ加ヘ

タル損害ニ付キ其責ニ任ス

教師、師匠及ヒ工場長ハ未成年ノ生徒、習業者及ヒ職工カ自己ノ監督ノ下ニ在ル間ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

本條ニ指定シタル責任者ハ損害ノ所爲ヲ防止スル能ハサリシヲ證スル片ハ其責ニ任セス

第三百七十三條 主人、親方又ハ工事、運送等ノ營業人若クハ總テノ委託者ハ其雇人、使用人、職工又ハ受任者カ受任ノ職務ヲ行フ爲メ又ハ之ヲ行フニ際シテ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

第三百七十四條 動物ノ加ヘタル損害ノ責任ハ其所有者又ハ損害ノ當時之ヲ使用セル者ニ歸ス但其損害カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十五條 建物其他ノ工作物ノ所有者ハ此等ノ工作物ノ崩壊カ修繕ノ欠缺又ハ築造ノ瑕疵ニ出テタルトキハ其崩壊ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但此未成年者ハ其雇人若クハ使用人又ハ自己ニ歸スル物ノ加ヘタル損害ニ付キ民事上其責ニ任セシメラルコト有リ但後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

ル損害ノ責ニ任ス但此未ノ場合ニ於テハ工事請負人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

堤防ノ破潰ニ因リテ投錨若クハ繫纜ノ粗忽ニ因リ又ハ樹木、柱竿、目隠、看板、屋瓦其他堅牢ヲ缺ケル建物ノ部分ノ崩壊墮落ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テモ亦同シ

第三百七十六條 自治産ナルト否トヲ問ハス未成年者ハ其有意又ハ粗忽ニテ加ヘタル不正ノ損害ニ付テハ刑事上責任ヲ免カル可キトキト雖モ民事上責任アリト宣告セラルルコト有リ又右未成年者ハ其雇人若クハ使用人又ハ自己ニ歸スル物ノ加ヘタル損害ニ付キ民事上其責ニ任セシメラルコト有リ但後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

第三百七十七條 前數條ノ場合ニ於テ加害者ニ責任アリト認ムルトキハ裁判所ハ之ニ對シテ主タル裁判ヲ言渡シ且民事擔當人ノ附隨ノ義務ノ廣狹ヲ定ム但民事擔當人ハ犯罪者ニ對シ

ヲ當然求償權ヲ有ス

民事擔當人ハ法律ニ特定シタル場合ニ非サレハ犯罪者ノ言渡サレタル罰金ノ責ニ任セス

第三百七十八條 本節ニ定メタル總テノ場合ニ於テ數人カ同一ノ所爲ニ付キ責ニ任シ各自ノ過失又ハ懈怠ノ部分ヲ知ル能ハサルトキハ各自全部ニ付キ義務ヲ負擔ス但其謀ノ場合ニ於テハ其義務ハ連帶ナリ

第三百七十九條 民事ノ犯罪又ハ准犯罪カ刑事ノ犯罪ヲ成ストキハ犯罪者ニ付テモ民事擔當人ニ付テモ刑事訴訟法ヲ以テ定メタル民事訴訟ノ管轄及ヒ時効ニ關スル規則ヲ適用ス

第四節 法律ノ規定

第三百八十條 或ル義務ハ人ノ所爲ニ拘ハラス法律ニ依リテ之ヲ負擔セシム即チ左ノ如シ

第一 或ル親族間又ハ或ル婚族間ノ養料ノ義務

第二 後見ノ義務

第三 共有者間ノ義務

第四 相隣者間ノ義務ニシテ地役ヲ成ササルモノ

此等ノ義務ニ特別ナル規則ハ其各事項ニ於テ之ヲ掲ク

第二章 義務ノ効力

總則

第三百八十一條 義務ノ主タル効力ハ下ノ第一節第二節及ヒ第三節ニ定メタル區別ニ從ヒテ其義務ヲ直接ニ履行セシムル爲メ又不履行ノ場合ニ於テハ附隨トシテ損害ヲ賠償セシムル爲メノ訴權ヲ債權者ニ與フルニ在リ

第一節 直接履行ノ訴權

第三百八十二條 義務ノ本旨ニ從ヒテ直接ノ履行ヲ債權者ヨリ請求シ且債務者ノ身體ヲ拘束セシメテ履行セシムルコトヲ得ル場合ニ於テ

ハ裁判所ハ其直接履行ヲ命スルコトヲ要ス引渡ス可キ有體物ニシテ債務者ノ財産中ニ在ルモノニ付テハ裁判所ノ威權ヲ以テ差押ヘ之ヲ債權者ニ引渡ス

作爲ノ義務ニ付テハ裁判所ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ債權者ニ許ス

不作爲ノ義務ニ付テハ其義務ニ背キテ爲シタルモノヲ債務者ノ費用ヲ以テ毀壞セシメ及ヒ將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スニトテ債權者ニ許ス

此等ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ其賠償ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

債務者ニ對スル強制執行ノ方法ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二節 損害賠償ノ訴權

第三百八十三條 債務者カ義務履行ヲ拒絕シタル場合ニ於テ債權者強制執行ヲ求メサルカ又

ハ義務ノ性質上強制執行ヲ爲スコトヲ得サルトキハ債權者損害賠償ヲ爲サシムルコトヲ得債務者ノ責ニ歸ス可キ履行不能ノ場合ニ於テモ亦同シ

又債權者ハ履行遲延ノミノ爲メ損害賠償ヲ爲サシムルコトヲ得

法律ヲ以テ損害賠償ノ額ヲ定メタル場合ノ外當事者之ヲ定メサリシトキハ下ノ區別及ヒ條件ニ從ヒテ裁判所之ヲ定ム

第三百八十四條 損害賠償ハ債務者カ第三百三十六條ニ依リテ遲滞ニ付セラレタル後ニ非サレハ之ヲ負擔セス

然レトモ不作爲ノ義務ニ於テハ債務者ハ常ニ當然遲滞ニ在リ

犯罪ニ因リテ他人ニ屬スル金錢其他ノ有價物ヲ返還スル責ニ任スル者モ亦同シ

第三百八十五條 損害賠償ハ債權者ノ受ケタル損失ノ償金及ヒ其失ヒタル利得ノ填補ヲ包含

ス

然レトモ債務者ノ惡意ナク懈怠ノミニ出テタル不履行又ハ遲延ニ付テハ損害賠償ハ當事者カ合意ノ時ニ豫見シ又ハ豫見スルヲ得ヘカリ

シ損失ト利得ノ喪失トノミヲ包含ス

惡意ノ場合ニ於テハ豫見スルヲ得ザリシ損害ト雖モ不履行ヨリ生スル結果ニシテ避ク可カラサルモノタルトキハ債務者其賠償ヲ負擔ス

第三百八十六條 損害賠償カ主タル訴ノ目的タルトキハ裁判所ハ金錢ニテ其額ヲ定ム

損害賠償ノ請求カ直接履行ノ訴又ハ契約解除ノ訴ノ從タルトキハ裁判所ハ主タル請求ヲ決スルト同時ニ先ツ數額不定ノ損害賠償ヲ債務者ニ言渡シ其計算ハ疏明ヲ待チテ日後ニ之ヲ爲サシムルコトヲ得

又裁判所ハ債務者ニ直接履行ヲ命スルト同時ニ其極度ノ期間ヲ定メ其遲延スル日毎ニ又ハ

月毎ニ若干ノ償金ヲ拂フ可キヲ言渡スコトヲ得此場合ニ於テハ債務者ハ直接履行ヲ爲サスシテ損害賠償ノ即時ノ計算ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十七條 不履行又ハ遲延ニ關シ當事者雙方ニ非理アルトキハ裁判所ハ損害賠償ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌ス

第三百八十八條 當事者ハ豫メ過意約款ヲ設ケ不履行又ハ遲延ノミニ付テノ損害賠償ヲ定ムルコトヲ得

第三百八十九條 裁判所ハ過意約款ノ數額ヲ増スコトヲ得ス又不履行若クハ遲延カ債務者ノ過失ノミニ出テサルトキ又ハ一分ノ履行アリタルトキニ非サレハ其數額ヲ減スルコトヲ得ス

第三百九十條 雙務契約ニ於テ不履行ニ付テノ過意約款ヲ要約シタルトキト雖モ其債權者ハ解除ノ權利ヲ失ハス但明白ニ其權利ヲ拋棄シ

タルトキハ此限ニ在ラス

債權者ハ遅延ノミニ付テノ過怠約款ヲ要約シタルトキニ非サレハ解除ト過怠ト併セテ要求スルコトヲ得ス

第三百九十一條 金錢ヲ目的トスル義務ノ遅延

ノ損害賠償ニ付テハ裁判所ハ法律上ノ利息ノ割合ト異ナル額ニ之ヲ定ムルコトヲ得ス但法律ノ特例アル場合ハ此限ニ在ラス

當事者カ損害賠償ノ數額ヲ定ムルトキハ合意上ノ利息ノ最上限以下タルコトヲ要ス

第三百九十二條 債權者ハ右ノ損害賠償ヲ請求

スル爲メニ何等ノ損失ヲモ證スル責ニ任セス又債務者ハ其請求ヲ拒ム爲メニ意外ノ事又ハ不可抗力ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百九十三條 遅延利息ヲ生セシムル爲メ債

務者ヲ遅滞ニ付スルニハ裁判所ニ其利息ヲ請求シ又ハ債務者ノ特別ノ追認ヲ得ルコトヲ要ス但法律カ當然此利息ヲ生セシムル場合及ヒ

法律カ催告其他ノ行爲ニ因リテ此利息ヲ生セシムルヲ許セル場合ハ此限ニ在ラス

第三百九十四條 要求スルヲ得ヘキ元本ノ利息

ハ填補タルト遅延タルト問ハス其一个年分ノ延滞セル毎ニ特別ニ合意シ又ハ裁判所ニ請求シ且其時ヨリ後ニ非サレハ此ニ利息ヲ生セシムル爲メ元本ニ組入ルコトヲ得ス

然レトモ建物又ハ土地ノ賃貸、無期又ハ終身ノ年金權ノ年金、返還ヲ受ク可キ果實又ハ產

出物ノ如キ滿期ト爲リタル入額ハ一个年未滿ノ延滞タルトキト雖モ請求又ハ合意ノ時ヨリ

其利息ヲ生スルコトヲ得

債務者ノ免責ノ爲メ第三者ノ拂ヒタル元本ノ利息ニ付テモ亦同シ

第三節 擔保

第三百九十五條 物權ト人權ト問ハス權利ヲ

讓渡シタル者ハ讓渡以前ノ原因又ハ自己ノ責ニ歸ス可キ原因ニ基キタル還奪又ハ妨碍ニ對

シテ其權利ノ完全ナル行使及ヒ自由ナル收益

ヲ擔保スル責ニ任ス

擔保ニ二箇ノ目的アリ即チ第三者ノ主張ニ對

シ讓受人ヲ保護スルコト及ヒ防止スル能ハサリシ妨碍者クハ追奪ニ對シ償金ヲ拂フコト是ナリ

第三百九十六條 擔保ハ有價ノ行爲ニ付テハ反

對ノ要約ナキトキハ當然存立シ無價ノ行爲ニ付テハ之ヲ諾約シタルニ非サレハ存立セス

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル要約ノ爲ニモ讓渡人ハ自ら讓受人ニ妨碍ヲ加フ

ルコトヲ得ス又第三者カ讓渡人ノ授與シタル權利ニ依リテ讓受人ニ妨碍ヲ加ヘ又ハ追奪ヲ

爲シタルトキハ讓渡人ハ其擔保ノ責ニ任ス但權利ノ授與カ無擔保ニテ爲シタル讓渡ノ以前

ニ在ルトキト雖モ亦同シ

右擔保ノ義務ハ讓渡人ノ相續人ニ移轉ス

第三百九十七條 買主又ハ賃借人ノ爲メニスル

賣主又ハ賃借人ノ擔保及ヒ共同分割者ノ相互

ノ擔保ニ特別ナル規則ハ其擔保ヲ生スル契約

及ヒ行爲ノ各事項ニ於テ之ヲ規定ス

第三百九十八條 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ

義務ヲ負擔スル者ハ保證、連帶及ヒ不可分ノ事項ニ於テ規定シタル如ク他人ノ免責ノ爲メ

ニ爲シタル辨濟ニ付キ擔保ノ求償權ヲ有ス

又債權者ノ一人カ連帶又ハ不可分ノ義務ノ皆

濟ヲ受ケタルハ他ノ債權者ハ其一人ノ收メタル利益ノ分與ニ付キ之ニ對シテ特別ナル訴

權ヲ有セザルトキハ擔保ノ訴權ヲ有ス

第三百九十九條 擔保ニ付キ權利ヲ有スル者ハ

訴テ受ケタルトキ民事訴訟法ニ從ヒテ擔保人ノ訴訟參加ヲ請求スルコトヲ得

第四百條 擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメスシテ追

奪ヲ受ケ又ハ他人ノ債務ヲ辨濟シタル者ハ主

タル訴權ヲ以テ擔保人ニ對シ擔保ヲ請求スル

ニ有効ナル方法ヲ有センコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第四節 義務ノ諸種ノ體様

第四百一條 義務ハ左ノ場合ニ從ヒテ其體様ヲ變ス

第一 義務ノ成立ノ單純、有期又ハ條件附ナルトキ

第二 義務ノ目的ノ單一、選擇又ハ任意ナルトキ

第三 債權者又ハ債務者ノ單數又ハ複數ナルトキ

第四 義務ノ性質又ハ其履行ノ可分又ハ不可分ナルトキ

義務ハ其體様ノ變スルニ從テ其効力モ亦變ス

第一款 成立ノ單純、有期又ハ條件

附ナル義務

第四百二條 義務ノ成立カ初ヨリ正確ニシテ且即時ニ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其義務ハ

單純ナリ

第四百三條 債權者カ或ル時期前又ハ時期ハ確定セサルモ必ス到來ス可キ或ル事件ノ到來前ニ履行ヲ求ムルコトヲ得サルトキハ其義務ハ有期ナリ

當事者ノ定メタル期限又ハ法律ニ依リテ許與シタル期限ハ之ヲ權利上ノ期限トス

債務者ノ爲シ得ヘキ時又ハ歿スル時ニ辨濟ス可シトノ語辭アルキハ裁判所ハ債權者ノ請求

ニ因リ事情ニ從ヒ及ヒ當事者ノ意思ヲ推定シテ其履行ノ期間ヲ定ム但當事者カ無期ノ年金

權ヲ設定セント欲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四百四條 債務者ハ期限ノ利益ヲ拋棄シテ滿期前ニ其義務ヲ履行スルコトヲ得但契約ニ因

リ又ハ事情ニ因リテ當事者雙方ノ利益又ハ債權者ノミノ利益ノ爲メニ期限ヲ定メタル證據

アルトキハ此限ニ在ラス

合ニ於テハ債權者モ其期限ヲ拋棄スルコトヲ得

當事者カ錯誤ニ因リテ滿期前ニ辨濟シタル場合ニ於テハ第三百六十六條ノ規定ニ從フ

第四百五條 債務者ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ請求ニ因リ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ

第一 債務者カ破産シ又ハ顯然無資力ト爲リタルトキ

第二 債務者カ財産ノ多分ヲ讓渡シ又ハ其多分カ他ノ債權者ノ差押ヲ受ケタルトキ

第三 債務者カ其供シタル特別ノ擔保ヲ毀滅シ若クハ減少シ又ハ其豫約シタル擔保ヲ供セサルトキ

第四 債務者カ填補利息ヲ拂ハサルトキ

第四百六條 權利上ノ期限ノ有無ヲ問ハス又執行力ヲ有スル證書アル場合ト雖モ債務者カ不幸且善意ニシテ債權者カ猶豫ノ爲メ確實ノ損

害ヲ受ケサル可キトキハ裁判所ハ債務者ニ相應ナル恩惠上ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

又裁判所ハ右ノ條件ニ從ヒテ債務ノ一分ツツノ履行ヲ許スコトヲ得

右ニ反スル要約ハ總テ無効ナリ

第四百七條 恩惠上ノ期限ヲ得タル債務者ハ第四百五條ニ定メタル場合ノ外尙ホ左ノ場合ニ於テモ之ヲ失フ

第一 債務者カ逃亡シ又ハ住所ヲ去リテ債權者ニ其居所ヲ隱秘スルトキ

第二 債務者カ一年以上ノ禁錮ノ刑ヲ受ケタルトキ

第三 債務者カ言渡ヲ受ケタル條件ノ一ヲ行ハサルトキ

第四 債務者カ法律上ノ相殺ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テ自ラ其債權者ノ債權者ト爲リタルトキ

恩惠上ノ期限ハ裁判所ニ於テ更ニ之ヲ延フル

コトヲ得ス

第四百八條 當事者又ハ法律カ義務ノ發生又ハ消滅ヲ未來且不确定ノ事件ノ有無ニ繫ラシムルトキハ其義務ハ條件附ナリ此條件ハ第一ノ場合ニ於テハ停止ニシテ第二ノ場合ニ於テハ解除ナリ

物權モ亦主タルト從タルトヲ問ハス之ヲ停止又ハ解除ノ條件ニ繫ラシムルヲ得

第四百九條 停止ノ條件ノ成就スルトキハ合意ノ日ニ遡リテ其効ヲ生ス

解除ノ條件ノ成就スルトキハ當事者ヲシテ合意前ノ各自ノ地位ニ復セシム

第四百十條 停止又ハ解除ノ條件カ成就セサルハ間當事者ノ各自ハ條件ヲ帶ヒタル權利ヲ其儘ニ第三者ニ授與スルコトヲ得

然レトモ其條件ヲ第三百四十七條以下ニ定メタル方法ニ從ヒテ公示シタルニ非サレハ當事者ノ一方又ハ其承繼人ハ之ヲ以テ他ノ一方ノ

承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百十一條 解除條件ヲ帶ヒタル權利ヲ有スル者ノ善意ニ出テ且法律ニ從ヒテ爲シタル管理ノ行爲ハ第三者ノ利益ノ爲メニ之レヲ保持ス

解除條件ヲ帶ヒタル權利ヲ有スル當事者ノ一方ト第三者トニ對シテ言渡サレタル判決ハ他ノ一方又ハ其承繼人ノ援用スルコトヲ得

然レモ右判決ハ他ノ一方ノ當事者又ハ其承繼人ヲ異議申述ノ爲メニ訴訟ニ召喚セザリシトキハ之ヲ以テ其當事者又ハ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス但其判決カ管理ノ行爲ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第四百十二條 條件ノ成就シタルトキハ物又ハ金錢ヲ引渡シ又ハ返還ス可キ當事者ハ其成就セサル間ニ收取シ又ハ滿期ト爲レル果實若クハ利息ヲ交付スルコトヲ要ス但當事者間ニ反對ノ意思アル證據カ事情ヨリ生スルトキハ此

限ニ在ラス

第四百十三條 合意ノ主タル目的ヲ不能又ハ不法ノ條件ニ繫ラシメタルトキハ其合意ハ無効ナリ

當事者ノ一方カ或ハ禁止ノ所爲ヲ行ヒ又ハ本分ノ責務ヲ盡ササルニ因リテ自己ニ利ヲ得或ハ禁止ノ所爲ヲ行ハス又ハ本分ノ責務ヲ盡スニ因リテ自己ニ害ヲ受ク可キトキハ其條件ハ不法ナリ

不能又ハ不法ノ條件カ合意ノ從タル効力ノミニ關スルトキハ其約款ノミ成立セス

第四百十四條 條件カ偶成ナルトキ又ハ其全部若クハ一分カ要約者ノ隨意ナルトキ諾約者カ其成就ヲ妨ケタルニ於テハ其條件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス

第四百十五條 條件カ全ク當事者ノ一方ノ隨意ナルトキハ他ノ一方ハ其成否ヲ決ス可キ或ル期限ヲ定メント裁判所ニ請求スルコトヲ得

第四百十六條 有的條件ノ爲メ當事者又ハ裁判所カ或ル期限ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到來セスシテ此期限ヲ經過シタルトキハ其條件ハ之ヲ成就セサルモノト看做ス條件ノ成否ノ爲メ期限ヲ定メタルト否トヲ問ハス事件ノ到來セサルコトノ確實ト爲リタル片モ亦同シ

無的條件ノ爲メ成ル期限ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到來セスシテ其期限ヲ經過シタルトキハ其條件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス又其期限ヲ定メタルト否トヲ問ハス事件ノ到來セザルコトノ確實ト爲リタルトキモ亦同シ右孰レノ場合ニ於テモ裁判所ハ當事者ノ定メタル期限ヲ延フルコトヲ得ス

第四百十七條 當事者ノ一方又ハ雙方カ條件ノ成就又ハ不成就ノ前ニ死亡シタルトキハ合意ノ効力ハ其相續人ニ對シ働方又ハ受方ニテ存在ス但條件カ其性質ニ因リ又ハ當事者ノ意思ニ因リテ要約者又ハ諾約者ノ一身ノミニ附著

シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十八條 條件カ如何様ニ成就ス可キカ又如何ナル時ニ成就シ又ハ成就セスト看做サル可キカヲ知ルコトハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ從ヒテ之ヲ決シ其條件ノ一分ノ成就ヨリ生ス可キ効力ニ付テモ亦同シ

第四百十九條 諾約シタル物カ諾約者ノ過失ナクシテ停止條件ノ成就前ニ其價額ノ全部又ハ其過半ノ喪失シタルトキハ合意ハ之ヲ成立セスト看做シ且孰レノ方ヨリ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得ス

之ニ反シ解除條件ヲ以テ諾約シタルトキハ右同一ノ喪失ハ要約者ノ權利確定シテ其負擔ニ歸シ且何等ノ返還ヲモ要求スルコトヲ得ス前二項ノ場合ニ於テ喪失カ價額ノ半ヲ超エタルトキハ條件ノ成就ハ合意ノ効力ヲ生ス

第四百二十條 一分ノ喪失カ當事者ノ一方ノ責ニ歸ス可キトキハ他ノ一方ハ自己ノ選擇ヲ以

九十

テ或ハ損失ノ償金ト共ニ合意ノ履行ヲ請求シ或ハ損害ノ賠償ト共ニ合意ノ解除ヲ請求スルコトヲ得

又全部喪失ノ場合ニ於テハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十一條 凡ソ雙務契約ニハ義務ヲ履行シ又ハ履行ノ言込ヲ爲セル當事者ノ一方ノ利益ノ爲メ他ノ一方ノ義務不履行ノ場合ニ於テ常ニ解除條件ヲ包含ス

此場合ニ於テ解除ハ當然行ハレス損害ヲ受ケタル一方ヨリ之ヲ請求スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ第四百六條ニ從ヒ他ノ一方ニ恩惠上ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第四百二十二條 當事者ハ前條ノ解除ヲ行ハサル旨ヲ明約スルコトヲ得

又當事者ハ履行ノ遲滞ニ付セラレタル一方ニ對シテ解除ノ當然行ハル可キ旨ヲ明約スルコトヲ得然レハ遲滞ニ付セラレタル一方ハ他ノ

一方カ其解除ヲ申立ツルニ非サレハ自己ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四百二十三條 不履行ノ爲メニ損害ヲ受ケタル當事者ハ默示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ裁判上ニテ請求セサル間又ハ明示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ援用スル旨ヲ述ヘタル間ハ其解除ヲ拋棄スルコトヲ得

第四百二十四條 裁判上ニテ解除ヲ請求シ又ハ援用スル當事者ハ其受ケタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第四百二十五條 當事者ハ其權利カ停止條件ニ繫リ又ハ其訴權カ權利上若クハ恩惠上ノ期限ノ爲メニ阻止ヲ受クルト雖モ其間ニ於テ本法及ヒ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ自己ノ權利ノ保存處分ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條 賣買契約ニ於テ特ニ慣用スル隨意ノ停止又ハ解除ノ條件ニ付テハ財産取得編第二十九條乃至第三十二條ノ規定ニ從

フ

第二款 目的ノ單一、選擇又ハ任意ノ義務

第四百二十七條 義務カ一個若クハ數個ノ特定物又ハ定量物或ハ物ノ聚合、財産ノ包括ヲ目的トスルトキハ其義務ハ單一ナリ

又義務カ同時又ハ順次ニ數箇ノ各別ナル供與ヲ目的トスル場合ト雖モ唯一又ハ牽連ノ合意ヲ以テ其供與ヲ負擔シタルトキハ尙ホ其義務ハ之ヲ單一ナリト看做ス

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ハ負擔シタル總テノ物ヲ供與スルニ非サレハ其義務ヲ免カルルコトヲ得ス

第四百二十八條 義務カ數箇ノ各別ナル目的ヲ有スルモ債務者カ其中ノ幾個ノ供與ヲ爲スニ因リテ義務ヲ免カル可キトキハ其義務ハ選擇ナリ

供與ス可キ物ノ選擇ハ債務者ニ屬ス但其選

九十一

擇ヲ債權者ニ許與シタルトキハ此限ニ在ラ

然レトモ債務者ハ選擇ニテ負擔シタル數箇ノ物ノ各ノ一分ヲ受クルコトヲ債權者ニ強ヒ又債權者ハ其各ノ一分ヲ與フルコトヲ債務者ニ強フルコトヲ得ス

第四百二十九條 選擇ヲ有スル當事者ノ孰レタルヲ問ハス二箇ノ物ノ一カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ義務ハ單一ト爲リテ其殘ル所ノ物ニ存ス

二箇ノ物カ共ニ全部滅失シタルトキハ義務ハ消滅ス
二箇ノ物ノ一カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其價ノ半額ヨリ多キ部分ヲ喪失シタルトキハ其物ハ債務者ノ選擇ノ目的タルコトヲ得ス
第四百三十條 債務者カ實物ノ提供ヲ爲シ又ハ債權者カ合式ノ請求ヲ爲シテ一旦有効ニ行フタル選擇ハ當事者ノ一方ノ承諾アルニ非サレ

ハ之ヲ言渡スコトヲ得ス

第四百三十一條 選擇カ債務者ニ屬スル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ其過失ニ因リテ滅失シタルトキハ義務ハ殘ル所ノ物ニ存シ債務者ハ滅失シタル物ノ價金ヲ與ヘテ其義務ヲ免カルルコトヲ得ス

二箇ノ物カ債務者ノ過失ニ因リテ順次ニ滅失シタルトキハ債務者ハ後ニ滅失シタル物ノ價金ヲ負擔ス
又二箇ノ物カ同時ニ滅失シテ債務者カ其二箇又ハ一個ニ對シ過失アリタルトキハ選擇ハ債權者ニ移轉シ之ヲシテ一個ノ物ノ價金ヲ得セシム

第四百三十二條 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル但債務者ハ自己ノ選擇ヲ以テ殘ル所ノ物ヲ與ヘテ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

第四百三十四條 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ

一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ選擇ハ債務者ニ移轉シ之ヲシテ一個ノ物ノ價金ヲ得セシム

二箇ノ物カ一ハ債權者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル債權者ニ對シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十五條 前數條ノ規定ニ從ヒテ選擇ノ義務カ一箇ノ物ニ歸着シタルトキ又ハ其權利ヲ有スル當事者カ選擇ヲ爲シタルトキハ其義務ハ停止條件ノ義務ニ關シ第四百九條ニ規定シタル如ク既往ニ遡リテ効ヲ生ス

第四百三十六條 債務者カ一定ノ物ヲ主トシテ負擔スルモ他ノ物ヲ與ヘテ義務ヲ免カルルノ權能ヲ有スルトキハ其義務ハ任意ナリ

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ自己ノ選擇ヲ以テ一個ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ一ハ債權者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル債權者ニ對シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十三條 合意ヲ以テ債權者ニ選擇ヲ與ヘタル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債權者ハ殘ル所ノ物ヲ要求シ又ハ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債權者ハ自己ノ選擇ヲ以テ一個ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得二箇ノ物カ一ハ債務者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキモ亦同

主トシテ負擔スル物ヲ與フルノ義務ハ任意ニテ負擔スル物ヲ辨濟スルニ於テハ解除ス可シトノ條件ニ繫ルモノト看做ス

主トシテ負擔スル物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル

主トシテ負擔スル物カ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ其價金ノ償還及ヒ損害ノ賠償ニ任ス然レトモ債務者ハ任意ニテ負擔スル物ヲ與ヘテ義務ヲ免カルルノ機能ヲ有ス

二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ其免責ヲ申立テ又ハ殘ル所ノ物ヲ與ヘテ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ且自己ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リ一ハ債權者ノ過失ニ因リテ同時ニ滅失シ其過失カ任意ニテ負擔シタル物ノ上ニ存スルトキ又ハ其過失カ孰レノ物ノ上ニ存シタルカヲ知リ得サルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ且任意ニテ負擔シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

第三款 債權者及ヒ債務者ノ單數又ハ複數ナル義務

第四百三十七條 債權者及ヒ債務者カ各一人ナルトキハ其義務ハ單數ナリ

債權者又ハ債務者カ數人ナルトキハ其義務ハ複數ナリ

複數ノ義務ニハ連合ノモノ有リ連帶ノモノ有リ全部ノモノ有リ不可分ノモノ有リ

第四百三十八條 連合ノ義務ニ於テハ次款ニ定ムル如ク各債權者又ハ各債務者ハ自己ノ部分外ニ履行ヲ求ムルコトヲ得又訴追ヲ受クルコト無シ

連帶ノ義務ニ於テハ各債權者又ハ各債務者ハ自己ノ名ヲ以テ自己ノ部分ノ爲メニスルト他人ノ名ヲ以テ他人ノ部分ノ爲メニスルトヲ問ハス全部ニ付キ履行ヲ求ムルコトヲ得又訴追ヲ受クルコト有リ但擔保訴權ニ因レル相互ノ求償權ヲ妨ケス

全部ノ義務ハ債權擔保編第七十三條ニ於テ之ヲ規定ス

第四款 性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務

第四百三十九條 單數ノ義務ハ債權者ト債務者トノ間ニ在テハ不可分タル如ク之ヲ履行スルコトヲ要ス但第四百六條ヲ以テ一分ノ辨濟ヲ許スニ付キ裁判所ニ與ヘタル機能ヲ妨ケス

第四百四十條 連合ノ義務ニ於テハ債權者ノ各自カ履行ヲ求メ又ハ債務者ノ各自カ訴追ヲ受メ可キ實地ノ部分ハ合意又ハ事情ニ從ヒテ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ從フヲ得サルトキハ其各自ノ部分ハ平分ニテ之ヲ計算ス但債權ノ利益又ハ債務ノ負擔ニ於テ各自カ其實地ノ部分ニ復スル相互ノ求償權ヲ妨ケス

第四百四十一條 複數ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ間ニモ債務者ノ間ニモ不可分ナリ

- 第一 負擔スル目的ノ性質ニ因リテ一分ノ履行カ形體上及ヒ智能上不能ナルトキ
- 第二 義務カ性質ニ因リテ可分ナルモ當事者ノ明示ノ意思又ハ其期望シタル目途其他事情ヨリ顯ハルル意思カ一分ノ履行ヲ許ササルトキ

第四百四十二條 義務ハ其性質ニ因リテ可分ナルモ左ノ場合ニ於テハ尙ホ當事者ノ意思ニ因リ受方ノミニテ不可分ナリ

- 第一 債務者ノ一人ノ處分權内ニ在ル特定物ノ引渡ニ關スルトキ
- 第二 債務者ノ一人カ債務ノ設定權原ニ因

リテ獨リ履行ニ任シタルトキ
右第一ノ場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ
其一人ノ債務者ハ此數債權者ニ對シテ同時ニ
義務ヲ免カルル爲メ其數債權者ノ訴訟參加ヲ
要求スルコトヲ得

第四百四十三條 不可分ハ債權擔保編ニ規定ス
ル如ク性質ニ因リテ可分ナル債務ノ履行ノ擔
保ノ爲メ連帶ニ併合シ又ハ併合セスシテ債務
者ノ負擔又ハ債權者ノ利益ニ於テ之ヲ要約ス
ルコトヲ得

第四百四十四條 債權者ノ一人カ不可分債務ノ
履行ヲ受ケタルトキハ他ノ債權者ノ權利ノ限
度ニ應シテ之ニ其利益ヲ分與スルコトヲ要ス
又債務者ノ一人カ義務ノ履行ヲ爲シタルトキ
ハ義務ノ原因ニ從ヒ又ハ從來相互ノ關係ニ從
ヒテ他ノ債務者ノ分擔ス可キ部分ニ付キ之ニ
對シテ擔保求償權ヲ有ス

第四百四十五條 債權者ノ一人ニ要約シタル如

ク辨濟ヲ受クルニ非サレバ他ノ債權者ノ權利
ヲ減少シ又ハ消滅セシムルコトヲ得ス

債權者ノ一人カ總債務者若クハ其一人ノ免責
ヲ主旨トスル更改、免除其他ノ合意ヲ爲シタ
ルモ又ハ債務者カ其一人ノ債務者ニ對シテ適
法ナル相殺ノ原因ヲ有スルモ他ノ債務者ハ尙
ホ債務ノ全部ノ履行ヲ請求スルコトヲ得然レ
トモ他ノ債權者ハ此一人ノ債權者カ其權利ヲ
失ハサリシナラハ第五百一條第四項、第五百
十五條第二項、第五百二十一條第三項第四項
ノ規定ニ從ヒ其一人ノ債權者ニ分與ス可キ利
益ニ付キ其訴追ヲ受ケタル債務者ニ對シテ計
算ヲ爲ス

第四百四十六條 債權者ノ一人ノ爲シタル付遲
滯其他ノ保存ノ行爲ハ他ノ債權者ヲ利ス
又債權者ノ一人ノ利益ノ爲メニ時効ヲ停止ス
ル適法ノ原因アルトキハ他ノ債權者ノ利益ノ
爲メ之ヲ停止ス

第四百四十七條 債務者ノ一人ハ他ノ債務者ノ

負擔ヲ加重スルコトヲ得ス又債務者ノ一人ニ
對スル付遲滯ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗ス
ルコトヲ得ス

然レトモ債務者ノ一人ニ對抗スルコトヲ得ハ
キ時効ノ中斷又ハ停止ノ原因ハ之ヲ以テ他ノ
債務者ニ對抗スルコトヲ得但債權者訴追ヲ受
ケタル債務者ニ對シ時効ニ因リ義務ヲ免カレ
タル債務者ノ債務ノ部分ニ付キ計算ヲ爲ス

第四百四十八條 債務者ノ一人ノ過失ニ因リテ
不可分ノ義務ヲ履行スルコトヲ得サルトキハ
損害賠償又ハ過怠約款ハ過失者ノミ之ヲ負擔
ス可分義務ノ全部ノ履行ヲ保スル爲メ過怠約
款ヲ設ケタルトキト雖モ亦同シ

第四百四十九條 第四百四十一條ノ場合ニ於テ
不可分義務ノ履行ノ爲メ訴ヲ受ケタル債務者
ハ他ノ債務者ヲ訴訟ニ參加セシメ共ニ裁判ヲ
受クル爲メ及ヒ之ニ對スル自己ノ求償ニ付キ

裁判ヲ受クル爲メ期間ヲ請求スルコトヲ得

第三章 義務ノ消滅

第四百五十條 義務ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

- 第一 辨濟
 - 第二 更改
 - 第三 合意上ノ免除
 - 第四 相殺
 - 第五 混同
 - 第六 履行ノ不能
 - 第七 銷除
 - 第八 廢罷
 - 第九 解除
- 此他義務ハ免責時効ノ條件ノ具備スルトキハ
之ヲ消滅シタルモノト看做ス

第一節 辨濟

第四百五十一條 辨濟ハ義務ノ本旨ニ從フノ履
行ナリ

辨濟ハ下ノ第一款及ヒ第四款ニ記載シタル區

別ニ從ヒテ單純ナル有リ代位ナル有リ

數箇ノ債務アリテ只一個ノ辨濟ヲ爲ストキハ
第二款ニ從ヒテ債務ノ一個又ハ數個ニ付キ辨
濟ノ充當ヲ爲ス

債務者カ辨濟ヲ受クルコト能ハス又ハ欲セサ
ルトキハ債務者ハ第三款ニ記載シタル如ク提
供及ヒ供託ノ方法ヲ以テ自ラ義務ヲ免カルル
コトヲ得

債務者カ債權者ニ對シテ自己ノ財産ヲ委棄ス
ルコトヲ得ル場合ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規
定ス

第一款 單純ノ辨濟

第四百五十二條 辨濟ハ債務者又ハ共同債務者
ノ一人ヨリ有効ニ之ヲ爲スノ外尙ホ保證人又
ハ抵當財産ヲ所持スル第三者ノ如キ附隨ノ義
務者ヨリ有効ニ之ヲ爲スコトヲ得

又辨濟ハ利害ノ關係ナキ第三者ヨリ或ハ債務
者ノ名ヲ以テ或ハ自己ノ名ヲ以テ之ヲ爲スコ

ト求償權ヲ有ス

債務者ノ意ニ反シテ辨濟ヲ爲シタルトキハ求
償ノ日ニ於テ債務者ノ爲メ存在スル有益ノ限
度ニ非サレハ求償權ヲ有セス

第四百五十五條 義務カ定量物ノ所有權ノ移轉
ヲ目的トスルトキハ其物ノ所有者ニシテ且之
ヲ讓渡スノ能力アル者ニ非サレハ引渡其他ノ
方法ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ當事者各自ニ其
辨濟ノ無効ヲ主張スルコトヲ得

讓渡スノ能力ナキ所有者カ物ヲ引渡シタルト
キハ其所有者ノミ辨濟ノ無効ヲ請求スルコト
ヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ハ更ニ有効ナル
辨濟ヲ爲スニ非サレハ引渡シタル物ヲ取戻ス
コトヲ得ス

債權者カ辨濟トシテ受ケタル動産物ヲ善意ニ
テ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ債務者ハ其取

トヲ得

第四百五十三條 利害ノ關係ヲ有スルト否トヲ
問ハス第三者ノ爲シタル辨濟ノ有効ナル爲メ
ニハ債務者ノ承諾ヲ必要トセス但作爲ノ義務
ニ關シ債權者カ特ニ債務者ノ一身ニ著眼シタ
ルトキハ此限ニ在ラス

又債務者ノ承諾モ之ヲ必要トセス但利害ノ關
係ヲ有セサル第三者ノ辨濟ニ付テハ債務者又
ハ債權者ノ承諾アルコトヲ要ス

第四百五十四條 辨濟シタル第三者ハ法律又ハ
合意ニ依リ債權者ノ權利ニ代位シタル場合ノ
外其權ニ基キ下ノ區別ニ從ヒ債務者ニ對シ求
償權ヲ有ス

第三者カ委任ヲ受ケタルトキハ其權限ノ範圍
内ニ於テ辨濟シタル全額ノ爲メ求償權ヲ有
ス

事務管理ニテ辨濟ヲ爲シタルトキハ辨濟ノ日
ニ於テ債務者ニ得セシメタル有益ノ限度ニ從

戻ヲ爲スコトヲ得ス

又債權者ハ他人ノ物ヲ以テセル辨濟ヲ認諾ス
ルコトヲ得但眞ノ所有者ヨリ回復ヲ訴ヘタル
トキハ債務者ニ對スル擔保ノ訴權ヲ妨ケス

第四百五十六條 辨濟ハ債權者又ハ其代人ニ之
ヲ爲スコトヲ要ス辨濟領受ノ分限ヲ有セサル
者ニ爲シタル辨濟ト雖モ債權者カ之ヲ認諾シ
又ハ之ニ因リテ利得シタルトキハ有効ナリ

第四百五十七條 眞ノ債權者ニ非サルモ債權ヲ
占有セル者ニ爲シタル辨濟ハ債務者ノ善意ニ
出テタルトキハ有効ナリ

表見ナル相續人其他ノ包括承繼人、記名債權
ノ表見ナル讓受人及ヒ無記名證券ノ占有者ハ
之ヲ債權ノ占有者ト看做ス

第四百五十八條 領受ノ能力ナキ債權者又ハ債
權占有者ニ爲シタル辨濟ハ其債權者又ハ債權
占有者ノ請求ニ因リテ之ヲ取消スコトヲ得但
其利得シタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第四百五十九條 民事訴訟法ニ從ヒ正當ニ爲シ

ル拂渡差押ノ後債務者カ自己ノ債權者ニ辨
濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル
損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ス可キヲ債務者ニ
強要スルコトヲ得但辨濟ヲ受ケタル債權者ニ
對スル債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第四百六十條 債權者ハ己レニ對シテ負擔シタ
ル物ヨリ他ノ物ヲ辨濟トシテ受取ルノ責ニ任
セス他ノ物ノ價格カ高キトキト雖モ亦同シ
債務者ハ其負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ與フル
責ニ任セス請求ヲ受ケタル物ノ價額カ低キト
キト雖モ亦同シ

代替物ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ最
良品ヲ與ヘ債權者ハ最惡品ヲ受取ル責ニ任セ
ス

第四百六十一條 雙方一致ニテ物ヲ金錢ニ、金
錢ヲ物ニ又ハ或ル物ヲ他ノ物ニ代ヘテ辨濟シ
若クハ辨濟スルヲ諾約シタルトキハ原義務

百

ヲ更改シタリト看做シ其行爲ハ場合ニ因リテ
賣買又ハ交換ノ規則ニ從フ

第四百六十二條 特定物ノ債務者ハ引渡ヲ爲ス
可キ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スニ因リテ義務
ヲ免カル但條件附ノ義務ノ危險ニ關スル第四
百十九條ノ規定ヲ妨ケス

債務者ノ費用ニテ物ヲ保存シ若クハ改良シ又
ハ其過失若クハ懈怠ニ因リテ之ヲ毀損シタル
トキハ價金ハ上ノ第二章第二節第三節ニ從ヒ
テ當事者互ニ之ヲ負擔ス

第四百六十三條 金錢ヲ目的トセル債務ニ於テ
ハ債務者ハ其選擇ヲ以テ金若クハ銀ノ國貨又
ハ強制通用ノ紙幣ヲ與ヘテ義務ヲ免カル
債務者ハ法律ニ依リ貨幣ノ名價又ハ其純分ノ
割合ニ變更ヲ生スルモ諾約シタル數額ヨリ名
ク又ハ少ナク負擔セス

本條ノ規則ニ違背スル合意ハ無効ナリ但第四
百六十五條第二項ノ規定ヲ妨ケス

336995

第四百六十四條 右ニ反シ辨濟期ニ於テ諸種ノ

貨幣ノ爲替相場ヨリ生ス可キ相互ノ高低ノ差
ハ債務者ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テスル
平均價額ノ辨濟ニ因リテ當事者ノ間ニ之ヲ填
補スル合意ヲ爲スコトヲ得

第四百六十五條 金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金
額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ獨リ爲替相場
ノ損益ヲ受ケ法律上ノ他ノ貨幣ヲ以テ義務ヲ
免カルコトヲ得

金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金額ヲ辨濟ス可キ
コトノ要約アリタルトキモ亦同シ
外國ノ貨幣ヲ以テ辨濟ヲ爲ス可キコトヲ合意
シタルトキハ債務者ハ右ノ規定ニ從ヒ自己ノ
選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テ其外國ノ貨幣ノ
價額ヲ辨濟シテ義務ヲ免カルコトヲ得

第四百六十六條 銅貨及ヒ補助銀貨ハ特別法ニ
定メタル數額ヨリ多ク辨濟トシテ之ヲ與フル
ヲ得ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十七條 金錢ノ貸借ニ特別ナル規則ハ

財產取得編第百八十五條ニ之ヲ定ム
第四百六十八條 辨濟ノ場所ノ定ナキトキハ辨
濟ハ債務者ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス但後ニ掲ケ
ル或ル契約ノ場合及ヒ第三百三十三條ニ掲ケ
タル規定ハ此限ニ在ラス

自己ノ住所ニ於テ辨濟ノ有ル可キ當事者カ詐
欺ナクシテ轉住シタルトキハ辨濟ハ其新住所
ニ於テ之ヲ爲ス但其當事者ハ爲替相場ノ差額
及ヒ人ノ往復若クハ物ノ運送ノ補足費用ヲ一
方ノ當事者ニ拂フコトヲ要ス

辨濟ノ其他ノ費用ハ債務者之ヲ負擔ス
第四百六十九條 辨濟ノ期日カ一般ノ休日ナ
ルトキハ辨濟ハ其翌日ニ非サレハ之ヲ要求ス
ルコトヲ得ス

第二款 辨濟ノ充當

第四百七十條 一人ノ債權者ニ對シテ一様ノ性
質ナル數箇ノ債務ヲ有スル債務者カ總債務ヲ

百一

全消スルコトヲ得サル辨濟ヲ爲ストキハ債務者ハ辨濟ノ時ニ於テ其孰レノ債務ニ充當セントスル意ヲ述ヘ且此充當ヲ受取證書ニ記入セシムルコトヲ得

然レトモ債務者ハ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ債權者ノ利益ノ爲メ定メタル期限ノ至ラサル債務ニ充當ヲ爲シ又費用及ヒ利息ニ先タテテ元本ノ充當ヲ爲シ又一分ツツ數箇ノ債務ニ充當ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十一條 債務者カ有効ナル充當ヲ爲ササルトキハ債權者ハ受取證書ニ於テ自由ニ辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但財産取得編第二百二十九條ノ會社契約ニ關スル規定ヲ妨ケス
債務者カ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ受取證書ヲ受取リタルトキハ債務者ハ自己ノ錯誤又ハ債權者ノ欺瞞アリタルニ非サレハ充當ヲ非難スルコトヲ得ス

第四百七十二條 債務者及ヒ債權者カ有効ニ充當スルコトヲ得
又ハ之ヲ受クル能ハサルトキハ債務者ハ左ノ區別ニ從ヒ提供及ヒ供託ヲ爲シテ義務ヲ免カルルコトヲ得

- 第一 債務カ金錢ヲ目的トスルトキハ提供ハ貨幣ヲ提示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
- 第二 債務カ特定物ヲ目的トシ其存在スル場所ニ於テ引渡サル可キトキハ債務者ハ其物ノ引取ノ爲メ債權者ニ催告ヲ爲ス
- 第三 特定物ヲ債權者ノ住所其他ノ場所ニ於テ引渡ス可クシテ其運送カ多費、困難又ハ危険ナルモハ債務者ハ合意ニ從ヒテ引渡ヲ即時ニ實行スル準備ヲ爲シタルヲ提供中ニ述フ定量物ニ關シテモ亦同シ
- 第四 債權者ノ立會又ハ參同ヲ要スル作爲ノ義務ニ關シテハ債務者カ義務履行ノ準備ヲ爲シタルコトヲ述フルヲ以テ足ル

第四百七十五條 提供ハ前條ノ外上ニ定メタル辨濟ニ必要ナル條件ヲ具備シ且特別法ニ定ム

當ヲ爲サルトキハ當然左ノ如ク充當ス

- 第一 期限ノ至リタル債務ヲ先ニシ期限ノ至ラサル債務ヲ後ニス
- 第二 費用及ヒ利息ヲ先ニシ元本ヲ後ニス
- 第三 總債務カ期限ニ至リ又ハ至ラサルトキハ債務者ノ爲メ最モ辨濟ノ利益アル債務ヲ先ニス
- 第四 債務者カ辨濟ノ先後ニ付キ利益ヲ有セサルトキハ期限ノ最モ先ニ至リタル又ハ至ル可キ債務ヲ先ニス
- 第五 總債務カ何レノ點ニ於テモ相同シキトキハ充當ハ各債務ノ額ニ應シテ之ヲ爲ス

第四百七十三條 辨濟充當ノ規定ハ交互計算上ノ振込ニ之ヲ適用セス此振込ハ振込入ノ貸方ニ之ヲ記入ス

第四百七十四條 債權者カ辨濟ヲ受クルヲ欲セル方式ニ從フニ非サレハ有効ナラス

第四百七十六條 時期ヲ失セス且有効ニ爲シタル提供ハ法律ヲ以テ規定シ若クハ合意ヲ以テ要約シタル失權、解除及ヒ責罰ヲ豫防ス
此提供ハ付遲滯ヲ防止シ又既ニ付遲滯ノ存セルトキハ將來ニ向ヒテ其効力ヲ止メ且遲延利息ヲ停ム

第四百七十七條 債權者カ提供ヲ承諾セサルトキハ債務者ハ供託ノ日マテニ債務ニ生シタル償補利息ト共ニ辨濟ノ金額ヲ供託所ニ供託スルコトヲ得
特定物又ハ定量物ニ付テハ債務者ハ其物ヲ供託ス可キ場所ヲ指定スルコト及ヒ其保管人ヲ選任スルコトヲ裁判所ニ請求ス
供託ノ方式及ヒ條件ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第四百七十八條 有効ニ屬シタル供託ハ債務者ニ義務ヲ免レシメ且債務者カ意外ノ事ニ任シ

タルト雖モ其物ノ危険ヲ債權者ニ歸セシム
然レトモ債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ其供託
カ債務者ノ請求ニテ既判力ヲ有スル判決ニ因
リテ有効ト宣告セラレサル間ハ債務者ハ其供
託物ヲ引取ルコトヲ得但此場合ニ於テハ義務
ハ舊ニ依リ存在ス

右ノ受諾又ハ判決アリタル後ト雖モ債務者ハ
債權者ノ承諾ヲ以テ供託物ヲ引取ルコトヲ得
然レトモ共同債務者及ヒ保證人ノ義務解脫ヲ
モ質權及ヒ抵當權ノ消滅ヲモ供託物ニ付キ債
權者ノ債權者カ爲シタル拂渡差押ヲモ妨礙ス
ルコト得ス

第四款 代位ノ辨濟

第四百七十九條 代位ヲ以テ第三者ノ爲シタル
辨濟ハ債權者ニ對シテ債務者ニ義務ヲ免カレ
シメ且其債權及ヒ之ニ附著セル擔保ト効力ト
ヲ其第三者ニ移轉ス但場合ニ從ヒテ第三者ノ
有スル事務管理又ハ代理ノ訴權ヲ妨ケス

代位ハ下ノ區別ニ從ヒテ債權者若クハ債務者

ヨリ之ヲ許與シ又ハ法律ヲ以テ之ヲ付與ス
第四百八十條 債權者ノ許與シタル代位ハ受取
證書ニ之ヲ明記スルニ非サレハ有効ナラス但
第三者カ辨濟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルヤ否
ヤヲ區別スルコトヲ要セス又自己ノ名ニテ辨
濟スルカ債務者ノ名ニテ辨濟スルカヲ區別ス
ルコトヲ要セス

第四百八十一條 債務者ハ其債務ノ辨濟ニ必要
ナル金額又ハ有價物ヲ已レニ貸與シタル第三
者ヲシテ債權者ノ承諾クナ其權利コト代位セシ
ムルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ借用證書ニハ其金額又ハ有價
物ノ用方ヲ記載シ受取證書ニハ其出所ヲ記載
ス

公正證書又ハ私署證書ニ非サレハ他ノ第三者
ニ對シテ右ノ行爲ノ證據トスルコトヲ許サス
然レトモ借用ト辨濟トノ間ニ不相當ナル長キ

時間ノ經過シタルトキハ裁判所ハ代位ヲ不成
立ト宣告スルコトヲ得

第四百八十二條 代位ハ左ノ者ノ利益ノ爲メ當
然成立ス

第一 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ
負擔シタルニ因リ其義務ヲ辨濟スルニ付
キ利害ノ關係ヲ有スル者及ヒ先取特權又
ハ抵當權ヲ負擔スル財産ノ第三所持者ト
シテ他人ノ義務ヲ辨濟スルニ付キ利害ノ
關係ヲ有スル者

第二 或ハ抵當訴權ヲ豫防スル爲メ或ハ不
動産ノ差押又ハ契約解除ノ請求ヲ止ムル
爲メ他ノ債權者ニ辨濟シタル債權者

第三 自己ノ財産ヲ以テ相續ノ債務ノ全部
又ハ一分ヲ辨濟シタル善意ナル表見ノ相
續人

第四百八十三條 前三條ニ依リテ代位シタル者
ハ債權ノ効力又ハ擔保トシテ債權者ニ屬セシ

總テノ對人及ヒ物上ノ權利及ヒ訴權ヲ行フコ
トヲ得但左ニ掲タル場合ヲ例外トス

第一 當事者カ代位者ニ移轉セシ權利及ヒ
訴權ヲ制限シタルトキハ其制限ニ從フ

第二 保證人ハ債務ヲ辨濟シ債權擔保編第
三十六條ノ規定ニ從ヒタルトキニ非サレ
ハ第三所持者ニ對シテ代位セス

第三 第三所持者カ債務ヲ辨濟シタルトキ
ハ保證人ニ對シテ代位セス

第四 一箇ノ債務ノ抵當ト爲リタル數箇ノ
不動産カ各別ニ數箇ノ第三所持者ノ手ニ
存スル場合ニ於テ其一人カ債務ヲ辨濟シ
タルトキハ各不動産ノ價額ノ割合ニ應
ルニ非サレハ他ノ第三所持者ニ對シテ代
位ノ權ヲ行フコトヲ得ス

第五 互ニ擔保人タル共同債務者ノ一人カ
債務ヲ辨濟シタルトキハ辨濟者ハ他ノ債
務者カ分擔ス可キ債務ノ限度ニ應スルニ

非サレハ其各自ニ對シテ代位セス

第四百八十四條 代位者ハ自己ノ支拂ヒタル金

額ヲ超エテ債權者ノ訴權ヲ行フコトヲ得ス

第四百八十五條 代位ハ原債權者ヲ害セサルコ

トヲ要ス

數箇ノ債權ヲ有スル者ハ其一箇ニ係ル代位辨

濟カ他ノ債權ノ擔保ヲ減スルトキハ之ヲ拒ム

コトヲ得

第四百八十六條 代位辨濟カ債務ノ一分ノミニ

係ルトキハ代位者ハ自己ノ辨濟ノ割合ニ應シ

テ原債權者ト共ニ其權利ヲ行フ

然レトモ原債權者ハ全部ノ辨濟ヲ受ケサルト

キハ獨リ契約ノ解除ヲ行フ但代位者ニ賠償ス

ルコトヲ要ス

第四百八十七條 代位辨濟ニ因リテ全部ノ辨濟

ヲ受ケタル債權者ハ債權ノ證書及ヒ質物ヲ代

位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權者カ一分ノ辨濟ノミヲ受ケタルトキハ要

用ニ應シテ代位者ニ證書ヲ示シ且質物ノ保存

ニ注意スルヲ之ニ許スコトヲ要ス

第四百八十八條 辨濟ノ有効、充當、提供及ヒ供

託ニ關スル前三款ノ規定ハ代位辨濟ニ之ヲ適

用ス

第二節 更改

第四百八十九條 更改即チ舊義務ノ新義務ニ變

更スルコトハ左ノ場合ニ於テ成ル

第一 當事者カ義務ノ新目的ヲ以テ舊目的

ニ代フル合意ヲ爲ストキ

第二 當事者カ義務ノ目的ヲ變セスシテ其

原因ヲ變スル合意ヲ爲ストキ

第三 新債務者カ舊債務者ニ替ハルトキ

第四 新債權者カ舊債權者ニ替ハルトキ

第四百九十條 當事者カ期限、條件又ハ擔保ノ

加減ニ因リ又ハ履行ノ場所若クハ負擔物ノ數

量、品質ノ變更ニ因リテ單ニ義務ノ體様ヲ變

スルトキハ之ヲ更改ト爲サス

商證券ヲ以テスル債務ノ辨濟ハ其證券ニ債務

ノ原因ヲ指示シタルトキハ更改ヲ成サス從來

ノ債務ノ追認ハ其證書ニ執行文アルトキト雖

モ亦同シ

第四百九十一條 債權者ハ其債權及ヒ擔保ヲ有

償ニテ處分スル能力ヲ有スルニ非サレハ更改

ヲ承諾スルコトヲ得ス

右規定ハ合意上、法律上又ハ裁判上ノ管理人

及ヒ代理人ニ之ヲ適用ス

第四百九十二條 更改ノ意思ハ債權者ニ在テハ

之ヲ推定セス明カニ證書又ハ事情ヨリ見ハル

ルコトヲ要ス

然レトモ同一ノ當事者間ニ於テ義務ノ更改ア

リタルカ二箇ノ義務共ニ存スルカト疑アルト

キハ第三百六十條ニ依リテ債務者ノ利益ノ爲

メニ更改ノ意義ニ解釋ス

第四百九十三條 舊義務カ停止又ハ解除ノ條件

附ナリシトキハ更改ハ同一ノ條件ニ從フモノ

トノ推定ヲ受ク

又新義務カ條件附ナルトキハ更改ハ停止條件

ノ成就シタルトキ又ハ解除條件ノ成就セサル

トキニ非サレハ成ラス

右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ單純ナル更改

ヲ爲サント欲シタル證據アルトキハ此限ニ在

ラス

第四百九十四條 舊義務カ初ヨリ法律上成立セ

ス又ハ法律ノ定ムル原因ニ因リテ消滅シ若ク

ハ取消サレタルトキハ更改ハ無効ニシテ新義

務ハ成立セス

又新義務カ其成立及ヒ有効ニ要スル法律上ノ

條件ヲ具備セサルトキハ舊義務ハ存在ス

右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ自然義務ヲ法

定義務ニ又ハ法定義務ヲ自然義務ニ變セント

欲シタル證據アルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十五條 舊義務ヲ更改スル爲メ異議ナ

ク又ハ異議ヲ留メスシテ有効ニ新義務ヲ諾約

シタル債務者ハ其知了セル舊義務ノ無効ノ理由ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス
債務者カ次條ニ從ヒ舊債權者ノ囑託ニ因リ新債權者ニ對シテ義務ヲ諾約シタルトキモ亦同シ

第四百九十六條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ或ハ舊債務者ヨリ新債務者ニ爲セル囑託ニ因リ或ハ舊債務者ノ承諾ナリシテ新債務者ノ隨意ノ干渉ニ因リテ行ハル

囑託ニハ完全ノモノ有リ不完全ノモノ有リ
第三者ノ隨意ノ干渉ハ下ニ記載スル如ク除約又ハ補約ヲ成ス

第四百九十七條 債權者カ明カニ第一ノ債務者ヲ免スルノ意思ヲ表シタルトキニ非サレハ囑託ハ完全ナラスシテ更改ハ行ハレス此意思ノ無キトキハ囑託ハ不完全ニシテ債權者ハ第一第二ノ債務者ヲ連帶ニテ訴追スルコトヲ得
第三者ノ隨意干渉ノ場合ニ於テ債權者カ舊債

ルトキハ其受囑託人ハ債權ノ讓渡ニ關スル第三百四十七條ノ規定ニ從フニ非サレハ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルコトヲ得ス

第五百一條 債權者ト連帶債務者ノ一人又ハ不可分債務者ノ一人トノ間ニ爲シタル更改ハ他ノ債務者及ヒ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレンム

然レトモ債權者カ右共同債務者及ヒ保證人ノ新義務ニ同意スルコトヲ更改ノ條件ト爲シタル場合ニ於テ共同債務者及ヒ保證人ノ之ヲ拒ムトキハ更改ハ成立セス

連帶債權者ノ一人ト爲シタル更改ハ其債權者ノ部分ニ付テノミ債務者ヲシテ義務ヲ免カレシム

性質ニ因ル不可分債務ノ債權者ノ一人ト更改ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ノ全部ニ付キ訴追ノ權利ヲ有ス但第四百四十五條ニ從ヒ計算ヲ爲スコトヲ要ス

務者ヲ免シタルトキハ除約ニ因ル更改行ハル之ニ反セル場合ニ於テハ單一ノ補約成リテ債權者ハ債務ノ全部ニ付キ第二ノ債務者ヲ得然レトモ此債務者ハ連帶ノ義務ニ任セス

第四百九十八條 完全囑託及ヒ除約ノ場合ニ於テ新債務者カ債務ヲ辨濟スルコトヲ得サルトキハ債權者ハ囑託又ハ除約ノ當時ニ於テ新債務者ノ既ニ無資力タリシコトヲ知ラサルニ非サレハ舊債務者ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有セス但特別ノ合意ヲ以テ此擔保ヲ伸縮スルコトヲ得

第四百九十九條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ債務者ト新舊債權者トノ承諾アルニ非サレハ成ラス
第五百條 債權者カ第五百三條ニ定ムル如ク其債權ノ物上擔保ヲ留保シテ或ハ他人ヲ惠ム爲メ或ハ他人ニ對スル債務ヲ免カルル爲メ其人ニ囑託シテ自己ノ債務者ヨリ辨濟ヲ受ケシム

第五百二條 保證人ト爲シタル更改ハ反對ノ意思アル證據ナキトキハ保證ニ付テノミ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ケ主タル債務者ニモ他ノ保證人ニモ義務ヲ免カレシメス

第五百三條 舊債權ノ物上擔保ハ新債權ニ移ラス但債權者之ヲ留保スルキハ此限ニ在ラス
此留保ハ共同債務者、保證人又ハ第三所持者ノ手ニ存スル擔保負擔ノ財産ニモ之ヲ行フコトヲ得

此留保ニ付テハ更改ノ相手方ノ承諾ノミヲ必要トス
右ノ場合ニ於テ財産ハ舊債務ノ限度ヲ超エテ擔保ヲ負擔セス

第三節 合意上ノ免除

第五百四條 債務ノ全部又ハ一分ニ付テノ合意上ノ免除ハ有償又ハ無償ニテ之ヲ爲スコトヲ得有償ノ免除ハ事情ニ從ヒテ代物辨濟、更改、和解又ハ解除ヲ成ス又無償ノ免除ハ贈與ヲ成ス

然レトモ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セス
協諧契約ヲ以テ破産シタル債務者ニ許與スル
一分ノ免除ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五百五條 債務ノ免除ハ明示又ハ默示ヨリ成
リ推定ヨリ成ラス但法律ニ特定シタル場合ハ
此限ニ在ラス

第五百六條 主タル債務者ニ爲シタル債務ノ免
除ハ保證人ヲシテ其義務ヲ免カレシム
運帶債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ハ他
ノ債務者ヲシテ其義務ヲ免カレシム但債權者
カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタル場
合ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テモ免除ヲ受ケ
タル債務者ノ部分ヲ控除スルコトヲ要ス
不可分債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ニ
付テモ亦同シ然レトモ性質ニ因ル不可分債務
ノ債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保
シタルトキハ債權者ハ先ツ全部ニ付キ其權利
ヲ行ヒ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ計算ス

可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百十條 債權者ハ左ノ場合ニ於テハ債務者
ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ不可分ノ
ミヲ免除シタリトノ推定ヲ受ク

第一 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ
債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリト明
言シタル金額又ハ有價物ヲ受取リタルト
キ

第二 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セスシテ
債務者ノ一人ニ對シ其債務ノ部分ナリト
稱シテ裁判上ノ請求ヲ爲シタルニ其一人
請求ニ承服シ又ハ辨濟ヲ爲ス可キ旨ノ言
渡ヲ受ケタルトキ

第三 債權者カ異議ヲ留メスシテ十個年間
引續キ債務者ノ一人ヨリ其負擔ス可キ利
息又ハ年金ノ部分ヲ受取リタルトキ

第五百十一條 保證人ノ一人ニ保證ヲ免除シタ
ルハ主タル債務者ハ其義務ヲ免カレス他ノ

第五百七條 保證人ノ一人ニ爲シタル主タル債
務ノ免除ハ債務者及ヒ他ノ保證人ヲシテ其債
務ヲ免カレシム

第五百八條 債務ノ免除ヲ受ケタル債務者及ヒ
保證人ハ債權者ヨリ共通ノ免除ヲ得ル爲メ實
際供與シタル數額ニ付テノミ他ノ共同債務者
及ヒ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有ス

第五百九條 共同債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノ
ミ又ハ任意ノ不可分ノミノ免除アリタルトキ
ハ其一人ヲシテ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシ
メ且他ノ債務者ヲシテ其一人ノ部分ヲ免カレ
シム
性質ニ因ル不可分ノミノ免除ニ付テハ債權者
ハ債務者ノ各自ニ對シテ全部ノ要求ヲ爲ス權
利ヲ失ハス但免除ヲ受ケタル債務者ノ負擔ス
可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス
又債權者ハ免除ヲ受ケタル債務者ニ對シ全部
ノ要求ヲ爲スコトヲ得但他ノ債務者ノ負擔ス

保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ
付キ其義務ヲ免カル然レトモ保證人ノ間ニ連
帶ヲ爲セル場合ニ於テ債權者カ第五百六條第
二項ニ記載シタル如ク他ノ保證人ニ對シテ自
己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人ヲシ
テ其義務ヲ免カレシム

第五百十二條 債權者ノ質又ハ抵當ノ拋棄ハ其
債權ヲ減セス然レトモ連帶債務者又ハ保證人
ハ其拋棄ニ因リテ此等ノ擔保ニ代位スルコト
ヲ妨ケラレタルカ爲メ債權擔保編第四十五條
及ヒ第七十二條ニ依リ債權者ニ對シテ自己ノ
免責ヲ請求スルコトヲ得

第五百十三條 共同債務者ノ一人カ連帶者クハ
不可分ノミノ免除ヲ得ル爲メ又ハ保證人ノ一
人カ保證ノ免除ヲ得ル爲メ債權者ニ出捐ヲ爲
シタルモ其債務ヲ減セス且他ノ共同債務者又
ハ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有セス

第五百十四條 特定物ヲ引渡スノミ又ハ返還ス

ルノミノ義務ヲ免除スルモ債務者ノ利益ニ於テ讓戻又ハ讓渡ヲ惹起セス其所有者ハ回復ノ權利ヲ失ハス

第五百十五條 連帶債權者ノ一人ノ爲シタル債務又ハ連帶ノミノ免除ハ單ニ其一人ノ部分ニ付キ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得債務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ノ爲シタル免除ハ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス他ノ債權者ハ第四百四十五條及ヒ第五百六條ノ規定ニ從ヒテ全債權ヲ行フ

第五百十六條 債權者カ債務者ノ義務ヲ記載シタル本證書ヲ任意ニテ債務者ニ交付シタルトキハ其證書ニ免除ノ旨ヲ附記セスト雖モ債權者ハ債務ノ免除ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク但債權者ノ反對ノ意思ヲ證スル權利ヲ妨ケス公正證書ノ正本又ハ判決書ノ正本ノ任意ノ交付ハ其書類ニ執行文ヲ具備スルモ債務ノ免除ヲ推定セシムルニ足ラス但裁判所カ事情ニ從

ヒテ其免除ヲ推測スルコトヲ妨ケス

債務者カ右ノ書類ヲ所持スルトキハ反對ノ證據アルマテハ債權者ヨリ任意ノ交付アリタリトノ推定ヲ受ク

第五百十七條 債權者カ證書ノ全文又ハ債務者ノ署名其他緊要ナル部分ヲ有意ニテ毀滅シ扯破シ又ハ抹殺シタルトキハ前條ノ區別ニ從ヒテ任意ノ交付ニ準シ債務ノ免除アリタリト推定ス

右毀滅、扯破又ハ抹殺ハ其當時證書カ債權者ノ占有ニ係リシトキハ反對ノ證據アルマテ債權者ノ所爲又ハ其承諾ニ出テタリトノ推定ヲ受ク

第五百十八條 債務ノ免除ハ明示ナルト默示ナルト又直接ニ證スルト法律上推定スルトヲ問ハス反對ノ證據アルマテ有償ニテ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク然レトモ授受スル相對能力ナキ者ノ間ニ於テ

ル免除ハ有償ニテ之ヲ爲シタリトノ直接ノ證據ヲ擧クルコトヲ要ス

第四節 相殺

第五百十九條 二人互ニ債權者タリ債務者タルトキハ下ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ法律上、任意上又ハ裁判上ノ相殺成立ス
相殺ハ二箇ノ債務ヲシテ其寡少ナル債務ノ數額ニ滿ツルマテ消滅セシム

第五百二十條 二箇ノ債務カ主タルモノ互ニ代替スルヲ得ヘキモノ明確ナルモノ及ヒ要求スルヲ得ヘキモノニシテ且法律ノ規定又ハ當事者ノ明示若クハ默示ノ意思ヲ以テ其相殺ヲ禁セサルトキハ當事者ノ不知ニテモ法律上ノ相殺ハ當然行ハル

第五百二十一條 主タル債務者ハ自己ノ債務ト債權者カ保證人ニ對シテ負擔スル債務トノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得然レトモ訴訟ヲ受ケタル保證人ハ債權者カ主タル債

務者又ハ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得

連帶債務者ハ債權者カ其連帶債務者ノ他ノ一人ニ對シ負擔スル債務ニ關シテハ其一人ノ債務ノ部分ニ付テニ非サレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得然レトモ自己ノ權ニ基キ相殺ヲ以テ對抗ス可キトキハ全部ニ付キ之ヲ申立ツルコトヲ得

數人ノ連帶債權者アルトキハ債務者カ債權者ノ一人カ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ訴追者ニ對抗スルコトヲ得
債務ハ債務者ノ間又ハ債權者ノ間ニ於テ任意不可分ナルトキハ相殺ハ受方又ハ働方ノ連帶ニ於ケルト同一ノ方法ニ從フ又性質ニ因ル不可分ノ債務ナルトキハ第四百四十五條ノ規定ニ從フ

第五百二十二條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ地方市場ノ相場アル日用品ノ定期ノ供與ヲ

負擔シタルトキハ其供與ハ他ノ一方ノ負擔スル金錢ト相殺スルコトヲ得

第五百二十三條 債務ノ成立、其目的物ノ性質及ヒ分量カ確實ナルトキハ其債務ハ善意ニテ爭ハルルトキト雖モ之ヲ明確ナリトス

第五百二十四條 裁判所ノ許與シタル恩惠上ノ期限ハ相殺ノ妨ヲ爲サス債務者ノ要求ニ因リ無償ニテ債權者ノ許與シタル期限ニ付テモ亦同シ

二箇ノ債務ノ一カ解除條件附ナルトキト雖モ相殺ハ行ハル但其條件ノ成就シタルトキハ相殺モ亦解除ス

第五百二十五條 二箇ノ債務カ同一ノ場所ニ於テ又ハ同一ノ貨幣ヲ以テ辨濟ス可キモノニ非サルトキト雖モ相殺ハ行ハル但第一ノ場合ニ於テハ運送費又ハ爲替料ヲ計算シ第二ノ場合ニ於テハ兩替賃ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百二十六條 左ノ場合ニ於テハ法律上ノ相

ツルコトヲ得ス

右二箇ノ場合ニ於テ債務者カ相殺ヲ申立ツルコトヲ得サリシ金額又ハ有價物ヲ讓渡人ヲシテ自己ニ償還セシムルノ權利ヲ妨ケス

第五百二十八條 拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ自己ノ債權者ニ對シテ差押後ニ取得シタル債權ノ相殺ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス又從來有セル相殺ノ原因ニ付テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ民事訴訟法ニ掲ケタル方式及ヒ期間ニ從ヒテ其原因ヲ述ヘタルニ非サレハ之ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス右孰レノ場合ニ於テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ差押ノ金額又ハ有價物ニ付キ自己ノ債權ノ辨濟ヲ得ル爲メ差押人ト共ニ配當ニ加入スル權利ヲ有ス

第五百二十九條 相殺ニ因リテ既ニ消滅シタル債務ヲ辨濟シタル者ハ不當利得ノ取戻訴權ノミヲ行フコトヲ得但次條ニ記載スル場合ハ此

殺ハ行ハレス

第一 債務ノ一カ他人ノ財産ヲ不正ニ取りタル原因ト爲ストキ

第二 消費ヲ許セル寄託物ノ返還ニ關スルトキ

第三 債權ノ一カ差押フルコトヲ得サル有價物ヲ目的トスルトキ

第四 當事者ノ一方カ豫メ相殺ノ利益ヲ拋棄シタルトキ又ハ債權者ト爲ルニ當リ期望シタル目的カ相殺ノ爲メ達スルコトヲ得サルトキ

第五百二十七條 債權ノ讓受人カ其讓受ヲ債務者ニ告知シタルノミニテハ債務者ハ讓渡人ニ對シテ從來有セル法律上ノ相殺ヲ以テ讓受人ニ對抗スルノ權利ヲ失ハス

債務者カ讓渡人ニ對シテ既ニ得タル法律上ノ相殺ノ權利ヲ留保セスシテ讓渡ヲ受諾シタルトキハ債務者ハ讓受人ニ對シテ其權利ヲ申立

限ニ在ラス

第五百三十條 前三條ニ掲ケタル場合ニ於テ相殺ニ因リ既ニ消滅シタル債務ヲ讓受人若クハ差押人ノ利益ノ爲メ追認シ又ハ自己ノ債權者ニ辨濟シタル者ハ自己ノ舊債權ヲ擔保シタル保證、先取特權若クハ抵當ヲ申立ツルコトヲ得ス但既ニ行ハレタル相殺ヲ知ラサル正當ノ原因アリシコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ舊債權ハ其性質ヲ以テ擔保ト共ニ復舊ス

第五百三十一條 任意上ノ相殺ハ法律上ノ相殺ヲ許ササル爲メ利益ヲ受クル一方ノ當事者ヨリ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得總テノ場合ニ於テ各利害關係人ノ承諾アルトキハ相殺ハ之ヲ合意上ノモノトス

第五百三十二條 裁判上ノ相殺ハ被告カ原告ニ對シテ自己ノ利益ノ爲メ債權ヲ追認セシメ又

ハ清算セシムルヲ主旨トスル反訴ノ方法ニ依
リテ之ヲ求ムルコトヲ得

此場合ニ於テ裁判所ハ或ハ先ツ主タル訴ヲ裁
判シ或ハ二箇ノ訴ヲ併セテ裁判スルコトヲ得
裁判上ノ相殺ハ之ヲ以テ對抗シタル日ニ遡リ
テ効チ有ス

第五百三十三條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對
シテ法律上又ハ裁判上ノ相殺ニ服スル數箇ノ
債務ヲ有スルトキハ其債務ヲ相殺スル順序ハ
第四百七十二條ニ掲ケタル辨濟ノ法律上ノ充
當ノ規定ニ從フ

相殺カ任意上又ハ合意上ノモノナルトキハ辨
濟ノ充當ハ第四百七十條及ヒ第四百七十一條
ノ規定又ハ當事者ノ協議ニ從フ

第五節 混同

第五百三十四條 一箇ノ義務ノ債權者タリ及ヒ
債務者タルノ分限カ相續等ニテ一人ニ併合シ
タルトキハ義務ハ混同ニ因リテ消滅ス

右ノ混同カ其以前ノ適法ノ原因ニ由リテ解
除、銷除又ハ廢罷ヲ受ケタルトキハ義務ハ之
ヲ消滅セサリシモノト看做ス

第五百三十五條 債權者カ連帶債務者ノ一人ニ
相續シ又ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ニ相續
シタルトキハ連帶債務ハ其一人ノ部分ニ付テ
ノミ消滅ス

混同カ連帶債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ行
ハレタルトキモ亦其混同ハ債務ノ一分ニ付テ
ノミ成ル

第五百三十六條 義務カ性質ニ因ル不可分ナル
トキハ債權者ノ一人ト債務者ノ一人トノ間ノ
混同ハ他ノ者ノ利害ニ於テ其義務ヲ全存セシ
ム然レトモ其混同ヲ得タル者ハ第四百四十五
條ニ從ヒテ一分ノ償金ヲ供シ又ハ受取ルニ非
サレハ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得ス又ハ訴
追セラルルコト無シ

第五百三十七條 二人ノ連帶債權者又ハ二人ノ

連帶債務者ノ分限カ一人ニ併合シタルトキハ
權利又ハ義務ノ消滅ナシ其身ニ就キ併合ノ成
リタル者ハ或ハ自己ノ名或ハ己レカ相續シタ
ル者ノ名ニテ全部ニ付キ訴追スルコトヲ得又
ハ訴追セララルルコト有リ

働方又ハ受方ニテ不可分ナル義務ニ付テモ亦
同シ

第五百三十八條 保證人カ債權者ニ相續シ又ハ
債權者カ保證人ニ相續シタルトキハ保證ハ其
附從ノモノト共ニ消滅ス

債務者カ保證人ニ相續シ又ハ保證人カ債務者
ニ相續シタルトキハ債權者ハ主タル債務者共
同保證人若クハ保證人ノ擔保人ニ對シ及ヒ保
證ニ附著シタル質若クハ抵當ニ付キ其權利ニ
變更ヲ受クルコト無シ

第六節 履行ノ不能

第五百三十九條 義務カ特定物ノ引渡ヲ目的ト
シタル場合ニ於テ其目的物カ債務者ノ過失ナ

ク且付遲滯前ニ滅失シ紛失シ又ハ不融通物ト
爲リタルトキハ其義務ハ履行ノ不能ニ因リテ
消滅ス若シ義務カ定マリタル物ノ中ノ數箇ヲ
目的トシタル場合ニ於テ其一箇ヲモ引渡スコ
ト能ハサルトキハ亦同シ

作爲又ハ不作爲ノ義務ハ其履行カ右ト同一ノ
條件ヲ以テ不能ト爲リタルトキハ消滅ス

第五百四十條 債務者カ意外ノ事又ハ不可抗力
ニ因ル危險及ヒ災害ヲ擔任シ若クハ第三百三
十六條及ヒ第三百八十四條ニ從ヒテ遲滯ニ付
セラレタルトキハ其債務者ハ前條ノ原因ニ由
ルモ其義務ヲ免カレス

第五百四十一條 債務者ハ自己ノ申立ツル意外
ノ事又ハ不可抗力ヲ證スルノ責ニ任ス

債務者カ第三百三十五條第二項ニ依リテ其義
務ヲ免カルル爲メ假令其物カ債權者ノ方ニ在
ルモ亦滅失ス可カリシコトヲ申立ツルトキハ
其證據ヲ舉グルコトヲ要ス

第五百四十二條 債務者カ履行ノ不能ニ因リテ

義務ヲ免カレタルトキハ其債務者ハ已レノ受
取ル可キ對價ニ付テハ其履行ノ爲メ既ニ出捐
シタル限度ニ於テノミ權利ヲ有ス

第五百四十三條 物ノ全部又ハ一分ノ滅失ノ場
合ニ於テ其滅失ヨリ第三者ニ對シテ或ル補償
訴權ノ生スルトキハ債權者ハ殘餘ノ物ヲ要求
シ且此訴權ヲ行フコトヲ得

第七節 銷除

第五百四十四條 無能力者又ハ錯誤ニ因リテ承
諾ヲ與ヘタル人又ハ強暴若クハ詐欺ニ因リテ
承諾ヲ獲ラレタル人ノ約シタル義務ハ五ヶ年
ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ
履行ノ訴ニ對シ此等ノ者ヨリ爲シタル抗辯ニ
因リテ裁判所之ヲ銷除スルコトヲ得

第五百四十五條 右時効ノ期間ハ強暴ニ付テハ
其強暴ノ止ムマテ錯誤ニ付テハ其錯誤ヲ覺知
スルマテ詐欺ニ付テハ其詐欺ヲ發見スルマテ

九條ニ記載セル停止ハ此限ニ在ラス

第五百四十七條 未成年者又ハ禁治產者ノ財產
ニ關シ後見人ノ爲シタル合意及ヒ行爲ハ無能
力者ノ利益ノ爲メ法律ノ定メタル方式及ヒ條
件ヲ遵守セザリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ
得

未成年者自治產ノ未成年者及ヒ准禁治產者ノ
行爲ニ付テハ特別ナル方式及ヒ條件ニ依ラサ
リシトキ又禁治產者ノ行爲ニ付テハ何等ノ場
合ヲ問ハス亦其行爲ヲ銷除スルコトヲ得
右規定ハ有能力者ノ爲メニ許與セル銷除ノ訴
權ヲ妨ケス

第五百四十八條 未成年者一人ニテ特別ナル方
式又ハ條件ノ必要ナキ合意又ハ行爲ヲ承諾シ
タルトキハ銷除訴權ハ其未成年者ノ爲メ欠損
アルトキニ非サレハ之ヲ受理セス
法律カ保佐人ノ立會ノミヲ要シタルトキ其立
會ナクシテ自治產ノ未成年者及ヒ准禁治產者

百十八

無能力ニ付テハ其無能力ノ止ムマテ之ヲ停止
ス

然レトモ瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治產者ノ合
意ニ付テハ右時効ハ其者カ能力ヲ復シタル後
其承諾シタル行爲ノ通知ヲ受ケ又ハ其行爲ヲ
了知シタル時ヨリ進行ス

治產ヲ禁セラレタル處刑人ニ付テハ銷除ノ訴
權及ヒ抗辯ハ自他ノ爲メ其刑期滿了後ニ非サ
レハ時効ニ罹ラス

此他免責時効ノ停止及ヒ中斷ノ通常ノ原因ニ
關スル規定ハ右時効ニ之ヲ適用ス

第五百四十六條 銷除訴權ヲ有セル人カ前條ノ
期間ノ滿了前ニ死亡シタルトキハ訴權ハ其相
續人ニ移轉ス

右ノ場合ニ於テ期間カ死亡者ニ對シテ未タ進
行ヲ始メザリシトキハ相續人ノ訴權ハ其相續
ノ時ヨリ時効ニ罹リ既ニ進行ヲ始メタルトキ
ハ其殘期ヲ以テ時効ニ罹ル但證據編第二百十

ノ爲シタル右ト同一ナル性質ノ行爲ニ對シ亦
欠損ニ因ルニ非サレハ銷除訴權ヲ行フコトヲ
得ス

欠損ハ行爲ノ時ニ於テ之ヲ見積リ其偶然ノ事
件ヨリ生スルモノハ之ヲ算入セス

第五百四十九條 未成年者カ成年ナリト陳述シ
タルノミニシテ成年タルコトヲ信セシムル爲
メ自ラ詐術ヲ用非サルトキハ其無能力又ハ欠
損ニ因ル銷除訴權ヲ妨ケス

此他ノ無能力者ノ虛偽ノ陳述ニ付テモ亦同シ
第五百五十條 商業又ハ工業ヲ營ムノ許可ヲ得
タル自治產ノ未成年者ハ其營業ニ關スル行爲
ニ付テハ之ヲ成年者ト看做ス

然レトモ其未成年者ハ普通法ニ從フニ非サレ
ハ不動産ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五百五十一條 婦ノ行爲ハ配偶者ノ相互ノ權
利及ヒ本分ニ關シ法律ニ定メタル場合ニ非サ
レハ婦又ハ夫ノ請求ニ因リテ之ヲ銷除スルコ

百十九

トヲ得ス

第五百五十二條 承諾ノ瑕疵ニ因リテ行爲ノ銷除ヲ得タル成年者ハ其行爲ニ因リテ既ニ受取リタル總テノ物ヲ返還スル責ニ任ス
無能力者ハ銷除ヲ得タル行爲ニ因リテ仍ホ現ニ已レヲ利スル物ノミヲ返還スル責ニ任ス
右返還ヲ要求スル訴權ハ通常ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

第五百五十三條 不動産ノ讓渡カ無能力、錯誤又ハ強暴ノ瑕疵ニ因ル銷除ニ服スルトキハ第三百五十二條及ヒ第三百五十三條ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ第三取得者ニ對シテ其銷除ヲ爲スコトヲ得

第五百五十四條 銷除訴權ハ第五百四十四條乃至第五百四十六條ニ定メタル時効ニ因リテ消滅スル外第五百四十五條ニ從ヒテ時効ノ進行ヲ始メタル後利害關係人カ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ明示又ハ默示ニテ認諾シタルトキ

ハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五百五十五條 明示ノ認諾ハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ要旨及ヒ其銷除ノ原因ヲ記シ且銷除訴權ノ拋棄ヲ述ヘタル明白ナル證書ニ因リテ成ル

銷除ノ數箇ノ原因アルトキハ明示ノ認諾ハ特ニ證書ニ記シタル原因ニ付テノミ其効ヲ生ス
第五百五十六條 默示ノ認諾ハ左ノ行爲ニ因リテ成ル

- 第一 合意ノ全部若クハ一分ノ任意ノ履行
- 第二 異議ナキ又ハ異議ノ留保ナキ強制ノ執行
- 第三 更改
- 第四 物上又ハ對人ノ擔保ノ任意ノ供與

默示ノ認諾ハ債權者ニ在テハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ履行ノ請求ニ因リ又ハ其合意ヲ以テ取得シタル物ノ全部若クハ一分ノ任意讓渡ニ因リテ成ル

第五百五十七條 認諾ハ銷除訴權ヲ有スル者ノ

特定ノ承繼人ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス
第五百五十八條 初ヨリ無効ナル行爲ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ス但第五百六十五條ニ掲ケタル規定ヲ妨ケス

第五百五十九條 算數、氏名、日附又ハ場所ノ錯誤ノ改正ヲ目的トスル訴權ハ時効ニ罹ルコト無シ但此訴權ノ附屬スル權利ノ時効ヲ妨ケス

第八節 廢罷

第五百六十條 債權者ヲ詐害シテ約シタル義務ノ廢罷及ヒ廢罷訴權ノ時効ハ第三百四十條乃至第三百四十四條ノ規定ニ從フ
贈與者及ヒ其相續人ノ利益ノ爲メニ設ケタル特別ノ廢罷ハ贈與ニ關スル規定ニ從フ

第九節 解除

第五百六十一條 義務ハ第四百九條、第四百二十一條及ヒ第四百二十二條ニ從ヒ明示ニテ要約シタル解除又ハ裁判上得タル解除ニ因リテ

消滅ス

解除ヲ請求ス可キトキハ其解除訴權ハ通常ノ時効期間ニ從フ但法律ヲ以テ其期間ヲ短縮シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四章 自然義務

第五百六十二條 自然義務ノ履行ハ訴ノ方法ニ依リテモ相殺ノ抗辯ニ依リテモ之ヲ要求スルコトヲ得ス其履行ハ債務者ノ任意ナルコトヲ要シ之ヲ其良心ニ委ス

第五百六十三條 債務者ノ任意ノ辨濟ハ不當ノ辨濟ナリトシテ之ヲ取戻スコトヲ得ス
自然義務ヲ辨濟シタル意思ノ證據カ事情ヨリ生スルニ於テハ辨濟ノ原因ヲ明示スルコトヲ要セス

第五百六十四條 自然義務ハ追認、更改又ハ質若クハ抵當ノ供與ノ目的タルコトヲ得
右諸種ノ場合ニ於テ自然義務ハ通常ノ法定ノ効力ヲ生ス

第五百六十五條 自然義務ハ法定ノ承諾ヲ阻却スル錯誤ノ爲メ目的ノ指定ノ欠缺若クハ不足ノ爲メ又ハ必要ナル公式ノ欠缺ノ爲メ初ヨリ無効ナル合意ニ因リテ生スルコトヲ得然レトモ公式ノ欠缺ノ爲メ無効ナル贈與ニ關シテハ贈與者自ラ自然義務ノ履行又ハ追認ヲ爲スコトヲ得ス其相續人又ハ承繼人ノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ方式上無効ナル遺言ヲ爲セル者ノ相續人ニ之ヲ適用ス

第五百六十六條 原因ノ欠缺又ハ不法ノ原因ノ爲メ無効ナル合意ハ自然義務ヲ生スルコトヲ得ス公ノ秩序ノ爲メ合意ノ目的トスルコトヲ禁シタル物ヲ目的ト爲ス合意ニ付テモ亦同シ
第五百六十七條 第三者ノ所爲ノ諾約及ヒ第三者ノ利益ニ於ケル要約ニ關シ第三百二十二條及ヒ第三百二十三條ニ定メタル無効ハ諾約者ノ自然義務ノ生スルコトヲ妨ケス

第五百七十二條 當事者ハ自然義務ノ任意ノ履行又ハ認定アラサル前ト雖モ仲裁契約ヲ以テ其自然義務ノ成立又ハ廣狹ヲ仲裁人ノ決定ニ委ヌルコトヲ得此場合ニ於テハ自然義務ヲ宣言シタル其決定ハ法定ノ義務ヲ生ス

第五百六十八條 債務者カ不當ノ利得、不正ノ損害又ハ法律ノ規定ニ因リテ法定義務ヲ負擔スルコト有ル可キ場合ノ外債務者ハ此權原ニテ自然義務ヲ負擔シタリト有効ニ自ラ追認スルコトヲ得

第五百六十九條 自然義務ハ法定義務ノ銷除、廢罷又ハ解除カ裁判上ニテ宣告セラレタル後ト雖モ存立スルコトヲ得
法定義務カ此他ノ消滅方法ニ因リテ消滅シタル後ニ於テモ亦同シ

第五百七十條 免責又ハ取得ノ時効ノ利益ヲ援用シタル者既判力ノ利益ヲ受クル者又ハ其他ノ推定若クハ證據ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ者ハ尙ホ自然義務ヲ負擔シタリト自ラ追認スルコトヲ得

第五百七十一條 自然債權ノ法定ノ讓渡ハ協議契約ヲ以テ破産者ニ免除シタル金額ニ付キ其債權者ノ之ヲ爲シタル場合ノミ有効ナリ

民法財産取得編目錄

總則

第一章 先占

第二章 添附

第一節 不動產上ノ添附

第二節 動產上ノ添附

第三章 賣買

第一節 賣買ノ通則

第一款 賣買ノ性質及ヒ成立

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第二節 賣買契約ノ效力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第二款 賣主ノ義務

第一則 引渡ノ義務

第二則 追奪擔保ノ義務

第三款 買主ノ義務

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第二款 受戻權能ノ行使

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却訴權

却訴權

第四節 不分物ノ競賣

第四章 交換

第五章 和解

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第三節 會社ノ解散

第四節 會社ノ清算及ヒ分割

第七章 射倖契約

第一節 博戲及ヒ賭事

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第二款 終身年金權ノ契約ノ效力

第三款 終身年金權ノ消滅

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權

第一節 消費貸借

第二節 無期年金權ノ契約

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第十章 寄託及ヒ保管

第一節 寄託

第一款 任意寄託

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二節 保管

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二節 代理人ノ義務

第三節 委任者ノ義務

第四節 代理ノ終了

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

第一節 雇傭契約

第二節 習業契約

第三節 仕事請負契約

第十三章 相續

總則

第一節 家督相續

第一款 家督相續ノ通則

第二款 家督相續人ノ順位

第三款 隱居家督相續ノ特別規則

第二節 遺産相續

第三節 國ニ屬スル相續

第四節 相續ノ受諾及ヒ拋棄

第一款 單純ノ受諾

第二款 限定ノ受諾

第三款 拋棄

第四款 相續人ノ曠缺セル相續財產ノ處分

第十四章 贈與及遺贈

總則

第一節 贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又收受スル能力

第二節 贈與

第一款 贈與ノ方式

第二款 贈與ノ廢罷

第三節 夫婦間ノ贈與ノ特例

第四節 遺贈

第一款 遺言ノ方式

第二款 遺言ノ特別方式

第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財產ノ部分

第四款 遺言ノ效力及ヒ執行

第五款 遺言ノ廢罷及ヒ失効

第五節 包括ノ贈與又ハ遺贈ニ基ク不

分財產ノ分割

第一款 分割

第二款 分割ノ效力及ヒ擔保

第三款 分割ノ鎖除

第十五章 夫婦財產契約

第一節 總則

第二節 法定ノ制

民法

財産取得編

總則

第一條 物上及び對人ノ權利ハ財産編ニ規定シタル原因ニ由ル外尙ホ本編ノ規定ニ從ヒ之ヲ取得スルコトヲ得

第一章 先占

第二條 先占ハ無主ノ動產物ヲ己レノ所有ト爲ス意思ヲ以テ最先ノ占有ヲ爲スニ因リテ其所
有權ヲ取得スル方法ナリ

第三條 狩獵、捕漁ノ權利ノ行使及ヒ漂流物、遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

戰時ニ於ケル海陸ノ掠奪物ニ付テモ亦同シ

第四條 遺棄物ヲ先占シタリト主張スル者ハ原所有者ノ任意ノ遺棄ヲ證スル責ニ任ス

第五條 他人ニ屬スル物ノ中ニ於テ偶然ニ發見シタル埋藏物ハ所有者ノ知レサルトキハ其一半ヲ發見者ニ付與ス

埋藏物カ理レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者ノ權利ハ次章ノ規定ニ從フ

第六條 埋藏物ノ原所有者ハ發見後三箇年間ニ非サレハ前條ノ付與ニ反シテ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス

此期間ハ原所有者カ埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者タルニ於テハ其發見ヲ知リタル後一個年間ニ之ヲ短縮ス

然レトモ埋藏物ノ占有者カ惡意ナルトキハ通常ノ時效ヲ適用ス

第二章 添附

第七條 動產ト不動產トヲ問ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附從トシテ合シタル物ヲ下ノ區別ニ從ヒテ取得ス

第一節 不動產上ノ添附

第八條 建築其他ノ工作及ヒ植物ハ總テ其附着セル土地又ハ建物ノ所有者カ自費ニテ之ヲ築造シ又ハ栽植シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ

證據アルトキハ此限ニ在ラス

右建築其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但權原又ハ時効ニ因リテ第三者ノ得タル權利ヲ妨ケス

植物ニ關スル場合ハ第十條ノ規定ニ從フ

第九條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ建築其他ノ工作ヲ爲シタルトキハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スル強要ヲ受ケス又材料ノ本主ニ其取去ヲ強要スルコトヲ得ス

然レトモ右ノ所有者ハ財產編第三百八十五條ノ規定ニ從ヒテ材料ノ本主ニ償金ヲ拂フノ責ニ任ス

第十條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ爲シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ一年內ニ其草木ヲ拔取り且之ヲ返還スル強要ヲ受ケ尙ホ損害アルトキハ之ヲ賠償ス
右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植ノ

時ヨリ一个年ヲ經過シタルトキハ其所有者ハ償金ヲ受ク

第十一條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者ハ所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工作物又ハ草木ヲ取拂フ責ニ任セス所有者ハ其選擇ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間賃ヲ拂ヒ又ハ不動産ノ増價額ヲ拂フ

築造又ハ栽植ヲ爲シタル者カ惡意ノ占有者ニシトキハ所有者ハ工作物及ヒ草木ヲ除去シテ場所ヲ舊狀ニ復セシメ且損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得又所有者ハ前項ノ規定ニ從ヒ占有者ニ償金ヲ拂ヒテ右ノ工作物及草木ヲ保存スルコトヲ得

第十二條 舟筏ノ通ス可キト否トヲ問ハス河川ノ審判、中洲、干瀉ノ所有權又ハ水路ノ變換ニ因リ生ズル浸沒地及ヒ舊川床ノ所有權ノ歸屬

ハ別ニ之ヲ定ム但海ノ干瀉ニ付テハ財產編第二十三條ノ規定ニ從フ

第十三條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引セラレ又ハ停留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルトキ其所有者カ自己ノ所有ヲ證シテ一週日間ニ之ヲ要求セザレハ其魚又ハ鳩ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス
群ヲナシテ他ニ移轉シタル蜜蜂ニ付テハ一週日間之ヲ追求スルコトヲ得
飼馴サレタルモ逃ケ易キ野栖ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ停留シタル者ニ對シ一个月間其回復ヲ爲スコトヲ得

第二節 動産上ノ添附

第十四條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ動産物カ所有者ノ意ニ非スレテ第三者ニ因リテ附合セラレ其各物共ニ著シキ毀損又ハ減價ヲ受ケスシテ容易ニ分タル可キトキハ所有者ノ各自ハ其分離ヲ請求スルコトヲ得但損害アルトキ

ハ附合ヲ爲シタル者之ヲ賠償ス

第十五條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ又ハ之ヲ分ツカ爲メ著シキ毀損、減價ヲ爲シ若クハ過分ノ費用、時日ヲ要スルトキハ孰レノ所有者モ分離ヲ請求スルコトヲ得又シテ其物ハ附合ノ儘ニテ主タル物ノ所有者ニ歸屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者ニ損害ヲ加ヘテ已レヲ利シタル限度ニ應シ賠償ヲ負擔ス
或ル物ノ便益、粧飾又ハ補完ノ爲メニ附合セラレタル物ハ之ヲ從タル物ト看做ス主從ノ區別ニ付キ疑アルトキハ價格ノ低キ物ヲ以テ從タル物トス

此他ノ場合ニ於ケル物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ査定ニ委ス

第十六條 附合カ主タル物ノ所有者ノ過失又ハ詐欺ニ因リテ成リ前條ノ規定ニ從ヒテ其分離

ヲ爲ス可カラサルトキハ從タル物ノ所有者ノ受ク可キ賠償ハ財産編第三百七十條及ヒ第三百八十五條ニ依リテ其額ヲ定ム

從タル物ノ所有者カ附合ヲ爲シタルトキハ主タル物ノ所有者ノ利益ノ限度ニ應シテノミ其損失ノ賠償ヲ受ク

第十七條 不都合ナシニハ物ヲ分離スルコトヲ得サル右同一ノ場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ因ルモ主從ノ區別ヲ爲シ難キトキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス

第十八條 前數條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル流動物、固形物又ハ金屬ノ混和ニモ亦之ヲ適用ス

然レトモ分離スルコトヲ得サル物カ其性質及ヒ品質ノ同シキニ因リテ共有ト爲ル可キトキハ各自ノ權利ハ己レヨリ出テタル物ノ數量ノ

割合ニ應ス

八

第十九條 附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所爲ヨリ生スル場合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾スル責ニ任セス添附ヲ爲シタル者ニ對シテ同品質ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 或人カ他人ノ物料ヲ以テ新ナル用方ノ物ヲ作りタルトキハ物料ノ所有者ハ手間賃ヲ拂フテ其物ノ所有權ヲ要求スルコトヲ得然レトモ手間賃カ著シク物料ノ價額ヲ超ユルトキハ新ナル物ノ所有權ハ製作者ニ屬ス但製作者ハ物料ノ所有者ニ賠償スルコトヲ要ス製作者カ物料ノ幾分ヲ供シタルトキハ其物料ノ價額ハ優先權ヲ定ムル爲メ之ヲ手間賃ニ合算ス所有者ノ承諾ナクシテ物料ヲ用サタルトキハ其所有者ハ常ニ自己ノ優先權ヲ拋棄シテ同品質、同數量ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條 附合、混和又ハ製作カ所有者ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ以テ成ルトキハ所有權ハ合意ニ從ヒテ之ヲ定ム若シ疑アルニ於テハ分離カ容易ナリト雖モ其分離ヲ要求スルコトヲ得ス且優先權及ヒ共有權ニ關スル前數條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 前數條ニ定メサル動產物添附ノ場合ニ於テハ裁判所ハ前數條ノ規定ノ援引スヘキハ之ヲ援引シ且條理ニ基キテ所有權及ヒ賠償ノ論點ヲ審定ス

第二十三條 第五條ニ從ヒテ發見者ニ屬セサル埋藏物ノ部分ハ添附ニ因リテ其埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ動產又ハ不動産ノ所有者ニ屬ス

右動產又ハ不動産ノ所有者自身ニテ意外ニ發見シタル埋藏物ハ一半ハ先占ニ因リ一半ハ添附ニ因リテ全部其所有者ニ屬ス
所有者ノ所爲又ハ其指圖ヲ受ケ若クハ受ケサ

ル第三者ノ所爲ニテ特ニ搜索ヲ爲スニ因リテ發見シタル埋藏物ハ添附ヲ以テ全部所有者ニ屬ス

原所有者ノ回復ニ對シ埋藏物ノ發見者ノ爲メ第六條ヲ以テ定メタル時効ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三章 賣買

第一節 賣買ノ通則

第一款 賣買ノ性質及ヒ成立

第二十四條 賣買ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支分權ヲ移轉シ又ハ移轉スル義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ其定マリタル代價ノ辨濟ヲ負擔スル契約ナリ

賣買契約ハ下ノ規定ニ從フ外有償且雙務ナル契約ノ一般ノ規則ニ從フ

第二十五條 賣買ハ當事者ノ承諾ノミヲ以テ完全ニ成立ス

然レトモ當事者ハ賣買ノ成立ヲ各自ノ證據ニ

九

供スル公正證書又ハ私證書ノ調製ノ條件ニ繫
ラシムルコトヲ得

第二十六條 賣渡又ハ買受ノ一方ノミノ豫約アルトキハ要約者カ財産編第三百八條ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ契約ノ取結ヲ要求スル時ヨリ諾約者ハ其豫約ニ於テ定メタル代價及ヒ條件ヲ以テ契約ヲ取結フ義務ヲ負擔ス

第二十七條 諾約者カ契約ヲ取結フコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ賣買カ成立シタリトノ判決ヲ爲ス不動産權ノ賣買ニ關スルトキハ其判決ヲ登記ス

賣渡ノ豫約ヲ登記シタルトキハ右判決ハ登記ニ之ヲ附記ス其登記ハ賣主ノ承繼人ニ對シ既往ニ遡リテ效力ヲ生ス

第二十八條 賣渡及ヒ買受ノ相互ノ豫約アルトキハ當事者ノ一方ハ前條ニ從ヒ他ノ一方ニ對シテ契約ノ取結ヲ強要スルコトヲ得
裁判所ハ此場合ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シ

賣買ノ豫約カ即時ノ賣買ノ效ヲ有スルモノト判決シ又期間ノ定アルトキハ其ノ期間ハ履行ノミニ適用セララルモノト判決スルコトヲ得

第二十九條 前四條ニ從ヒ當事者ノ雙方又ハ一方カ日後賣渡及ヒ買受ノ契約ヲ取結フ義務又ハ單ニ證書ヲ作ル義務ヲ負擔シタル場合ニ於テ豫約ノ擔保トシテ手付ヲ授受シタルトキハ契約ヲ取結フコト又ハ證書ヲ作ルコトヲ拒ム一方ハ其與ヘタル手付ヲ失ヒ又ハ其受ケタル手付ヲ二倍ニシテ還償ス

第三十條 即時ノ賣買ニ於テハ手付ハ之ヲ與ヘタル者ノ利益ノ爲メニ解約ノ方法ト爲ル但買主ノ與ヘタル手付カ金錢ナルトキ其他ノ習慣ニテ之ニ解約ノ性質ヲ付スル場合ノ外合意ニテ此性質ヲ明示スルコトヲ要ス
契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ解約ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 試驗ニテ爲ス賣買ハ事情ニ隨ヒ買主ノ適意ノ停止條件又ハ拒絕ノ解除條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト見做スコトヲ得
試味ノ慣習アル日用品ノ賣買ハ適意ノ停止條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第三十二條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ己レニ屬スル權能ノ行使ニ付キ期限ヲ定メタルトキハ短キ期間ニ於テ決答ス可キ催告ヲ受ク若シ其ノ決答ヲ爲サスシテ賣渡物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ買主ハ承諾シタリトノ推定ヲ受ケ反對ノ場合ニ於テハ拒絕シタリトノ推定ヲ受ク

第三十三條 賣買ノ代價ハ全額ヲ以テセサルモ其目安ヲ契約ニ定ムルコトヲ要ス
又其代價ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市價ニ委子或ハ契約ヲ以テ指定シタル第三者ノ評價ニ委ヌルコトヲ得
右評價カ錯誤ニ出テタルカ又ハ明カニ公平ニ

反スルトキハ其評價ニ異議ヲ爲スコトヲ得但其異議ハ損失ヲ受ケタリト主張スル一方カ評價ヲ知リタル時直チニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第三者ト當事者ノ一方トノ間ニ共謀ノ詐欺アルトキハ財産編第三百十二條及ヒ第五百四十四條ノ規定ヲ適用ス
當事者ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヲ以テ代價ヲ定ムルコトヲ得然レトモ第三者ハ元本ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ定ムルコトヲ得ス但當事者カ明示ニテ一層廣キ權限ヲ第三者ニ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三十四條 買賣契約ノ費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス但雙方カ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條 配偶者ノ間ニ於テハ動産ト不動産トヲ問ハス賣買ノ契約ヲ禁ス
配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負擔スル眞

實且正當ナル債務ヲ消滅セシムルニハ相互ニ
代物辨濟ヲ爲スコトヲ得

右代物辨濟ハ相當ノ疏明ヲ爲セル後裁判所ノ
認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有
效且完全ナラス

又此代物辨濟カ不動産物權ヲ目的トスルトキ
ハ其代物辨濟ハ登記中ニ右認許ヲ附記シタル
ニ非サレハ第三者ニ對シテ效力ヲ有セス

第三十六條 前條ニ基キタル銷除ノ訴權ハ賣渡
又ハ認許ナキ代物辨濟ヲ爲シタル配偶者、其
相續人又ハ承繼人ノミニ屬ス但其訴權ハ財產

編第五百四十四條以下ノ一般ノ規則ニ從フ
第三十七條 法律上、裁判上若クハ合意上ノ管
理人ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ

依ルモ賣渡ノ任ヲ受ケタル財產ニ付キ協議上
又ハ競賣上ノ取得者ト爲ルコトヲ得ス
此制禁ハ競賣ヲ處理シ又ハ指揮スルコトヲ法
律ニ依リテ任セラレタル公吏ニ之ヲ適用ス

第三十八條 前條ノ規定ニ背キタル賣買ノ銷除
訴權ハ原所有者、其相續人及ヒ承繼人ノミニ
屬ス

第三十九條 判事、檢事及ヒ裁判所書記ハ爭ニ
係ル物權又ハ人權ニシテ其職務ヲ行フ裁判所
ノ管轄ニ屬ス可キ者ノ取得者ト爲ルコトヲ得
ス

此制禁ハ右同一ノ條件ヲ以テ辯護士及ヒ公證
人ニ之ヲ適用ス

第四十條 前條ヨリ生スル銷除訴權ハ讓渡人、
權利ヲ爭フ相手方、其雙方ノ相續人及ヒ承繼
人ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

又權利ヲ爭フ相手方、其相續人又ハ承繼人ハ
讓受人ニ讓渡ノ現價ト辨濟ノ日ヨリノ利息ト
ヲ辨償シテ其權利ノ受戻ヲ爲スコトヲ得

右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰ヲ妨ケス
第三款 賣渡スコトヲ得サル物
第四十一條 賣買カ性質ニ因リテ一般ニ融通ス

ルコトヲ得サル物又ハ特別法ヲ以テ各人ニ處
分ヲ禁シタル物ヲ目的トスルトキハ其賣買ハ
無効ナリ

此賣買ノ無効ハ抗辯ニ依ルモ訴ニ依ルモ當事
者各自ニ之ヲ援用スルコトヲ得

當事者ノ一方カ詐欺ヲ以テ賣買ノ制禁ナルコ
トヲ隱秘シタルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス
第四十二條 他人ノ物ノ賣買ハ當事者雙方ニ於
テ無効ナリ

然レトモ賣主ハ賣買ノ際其物ノ他人ニ屬スル
コトヲ知ラサルニ非サレハ其無効ヲ援用スル
コトヲ得ス

第四十三條 賣買契約ノ當時ニ於テ物カ既ニ全
部滅失シタルトキハ其賣買ハ無効ナリ但賣主
カ此滅失ヲ知リタルトキ又ハ賣主ニ之ヲ知ラ
サル過失アルトキハ善意ノ買主ニ對スル損害

賠償ヲ妨ケス
物ノ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ買主之ヲ知ラサ

リシトキハ買主ハ其選擇ヲ以テ或ハ殘餘ノ部
分カ用方ニ不十分ナルコトヲ證シテ賣買ヲ解
除シ或ハ割合ヲ以テ代價ヲ減少シテ賣買ヲ保
持スルコトヲ得但此二箇ノ場合ニ於テ賣主ニ
過失アルトキハ其損害賠償ヲ妨ケス

賣買解除ノ請求ハ買主カ一分ノ過失ヲ知リタ
ル時ヨリ六個月ヲ過キ又代價減少ノ請求ハ此
時ヨリ二個年ヲ過クレハ之ヲ受理セス

第二節 賣買契約ノ效力
第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第四十四條 賣買契約ハ賣渡物ノ所有權ノ移轉
及ヒ其物ノ危險ニ付テハ財產編第三百三十一
條、第三百二十二條、第三百三十五條及ヒ第四
百十九條ニ定メタル如キ普通法ノ規則ニ從フ

第四十五條 賣買ノ目的カ不動産ナルトキハ其
契約ヲ以テ賣主ノ特定且善意ノ承繼人ニ對抗
スルニハ財產編第三百四十八條以下ノ規定ニ
從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

財産編第三百四十六條及ヒ第三百四十七條ハ
右同一ノ目的ヲ以テ有體動産及ヒ債權ノ賣買
ニ之ヲ適用ス

第二款 賣主ノ義務

第四十六條 賣主ハ定量物ノ所有權ヲ移轉スル
義務ノ外尙ホ賣渡物ヲ引渡ス義務、引渡ニ至
ルマテ其物ヲ保存スル義務及ヒ妨礙、追奪ニ
對シテ買主ヲ擔保スル義務ニ任ス

第一則 引渡ノ義務

第四十七條 賣主ハ賣渡物ヲ其合意シタル時期
及ヒ場所ニ於テ現存ノ形狀ニテ引渡ス責ニ任
ス但其保存ニ付キ懈怠アルトキハ買主ニ對シ
テ賠償ヲ負擔ス
引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ合意ヲ爲サマリシ
トキハ財産編第三百三十三條第六項及ヒ第七
項ノ規定ニ從フ

然レトモ買主ガ代金辨濟ニ付キ合意上ノ期間
ヲ得サリシトキハ賣主ハ其辨濟ヲ受クルマテ

賣渡物ヲ留置スルコトヲ得

賣主ハ代金辨濟ノ爲メ期間ヲ許與シタルトキ
ト雖モ買主カ賣買後ニ破産シ若クハ無資力ト
爲リ又ハ賣買前ニ係ル無資力ヲ隱秘シタルト
キハ尙ホ引渡ヲ遅延スルコトヲ得

第四十八條 賣主ハ契約ニ定メタル數量ヲ過不
足ナク引渡スコトヲ要ス

然レトモ下ノ數條ニ定メタル場合及ヒ區別ニ
從ヒテ賣主又ハ買主ハ約シタル數量ヨリ多ク
讓渡シ又ハ取得スル責ニ任ス

第四十九條 賣渡物カ特定不動産ニシテ契約ニ
其全面積ヲ明言シ且各坪ノ代價ヲ指示シタル
場合ニ於テ現實ノ面積カ指示ノ面積ニ不足ア
ルトキハ賣主ハ面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シ
タルトキト雖モ割合ヲ以テ代價減少ノ要求ニ
服ス

現實ノ面積カ指示ノ面積ニ超過アルトキハ買
主ハ割合ヲ以テ代價補足ノ要求ニ服ス

第五十條 全面積ヲ明言シ唯一ノ代價ヲ以テ不
動産ヲ賣渡シ其面積ノ不足ノ場合ニ於テ賣主
ハ惡意ナルトキ又ハ善意ナルモ面積ヲ擔保シ
タルトキ又ハ不足ノ坪數カ少ナクトモ二十分
一ナルトキニ非サレハ代價減少ノ要求ニ服セ
ス

面積ヲ擔保セス又ハ面積ハ概算ナリトノ附記
ハ惡意ナル賣主ノ責任ヲ減セス
超過ノ場合ニ於テハ買主ハ其超過カ二十分一
ニ及ヘルトキニ非サレハ代價補足ノ要求ニ服
セス

第五十一條 建物ノ存スルト否トヲ問ハス數箇
ノ土地ヲ一箇ノ契約ヲ以テ其各箇ノ面積ヲ指
示シ唯一ノ代價ニテ賣渡シタル場合ニ於テ其
面積カ一箇ノ土地ニ超過アリ一箇ノ土地ニ不
足アルトキハ其坪ノ箇數ニ從ハス價額ニ從ヒ
テ相殺ス

此相殺ノ後猶ホ原價二十分一ノ過不足アルト

ハ割合ヲ以テ代價ヲ増加シ又ハ之ヲ減少ス
此規定ハ一箇ノ土地内ニ於テ別異ノ性質アル
各部分ノ面積ヲ指示シタル場合ニモ之ヲ適用
ス

第五十二條 買主ハ面積不足ノ爲メ代價減少ニ
付キ權利ヲ有スル場合ニ於テ尙ホ損害ノ賠償
ヲ要求スルコトヲ得又買主ハ約シタル面積カ
其用方ニ必要ナルコトヲ證シテ契約ノ解除ヲ
モ請求スルコトヲ得但面積ヲ擔保セサル旨ヲ
明言シタル賣買ハ此限ニ在ラス

超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代價
補足ヲ辨償スルコトヲ要スルトキハ單純ニ契
約ヲ解除スルコトヲ得

第五十三條 上ノ規則ハ目方、員數及ヒ尺度ヲ
以テ指示シタル數量カ買主ニ於テ容易且即時
ニ調査スルコトヲ得サル日用品及ヒ動産物ノ
賣買ニ之ヲ適用ス

第五十四條 前數條ヨリ生スル代價改正、損害

賠償又ハ契約解除ノ訴權ハ不動産ニ付テハ一
今年動産ニ付テハ一个月ノ期間ニ之ヲ行フコ
トヲ要ス

右期間ノ経過ハ賣主ニ在テハ契約ノ日ヨリ買
主ニ在テハ引渡ノ日ヨリ始マル

第五十五條 動産又ハ不動産ノ賣買ニ於テ錯誤
カ其物ノ品質ニ存スルトキハ財産編第三百十
條ノ規定ヲ適用ス

第二則 追奪擔保ノ義務

第五十六條 他人ノ物ヲ賣買シタル場合ニ於テ
擔保ノ事ニ付キ何等ノ特別ナル合意モアラサ
リシトキハ買主ハ未タ追奪ノ恐アルニ至ラサ
ルトキト雖モ賣買無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ
得又買主カ契約ノ當時其物ノ賣主ニ屬セサル
コトヲ知り賣主カ之ヲ知ラサリシトキト雖モ
亦同シ

第五十七條 買主カ惡意ナリシトキハ賣買ノ無
效及ヒ追奪擔保ノ效果ハ買主ニ其猶ホ負擔ス

ルコトヲ要スル果實

然レモ買主ハ果實ニ換ヘテ之ニ對當スル
時期間ノ賣買代金ノ法律上ノ利息ヲ受ク
ルコトヲ欲スルハ之ヲ請求スルコトヲ得

又善意ナル買主ハ此他所有者ノ回復ノ訴ニ對
スル答辯ノ費用及ヒ擔保請求ノ費用等總テノ
損害賠償ヲ普通法ニ從ヒテ請求スルコトヲ得

第五十九條 賣主ハ契約ノ當時善意ナリシトキ
ハ財産編第三百八十五條ニ從ヒテ正當ニ豫見
スルコトヲ得ヘカリシ限度ニ非サレハ前條ノ
第二號第三號及ヒ末項ニ定メタル賠償ヲ負擔
セス

第六十條 善意ナル賣主ハ契約後ニ賣渡物ノ他
人ニ屬スルコトヲ覺知シタルトキハ買主ヨリ
代金ヲ提供スト雖モ其物ノ引渡ノ請求ヲ受ク
ルニ當リ賣買ノ無効ヲ申立テ且抗辯ノ方法ニ
依リテ擔保ノ定方ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但
買主カ追奪ノ場合ニ於ケル求償權ヲ拋棄スル

ル代金辨濟ノ義務ヲ免カレシメ又ハ其既ニ辨
濟シタル代金ヲ取戻スコトヲ許スニ在ルノミ
買主ハ買受物ノ價格カ減少シタルトキト雖モ
右取戻ニ於テ代金ノ減少ヲ受クルコト無シ但
價格ノ減少カ自己ノ詐欺ニ出テ又ハ自己ノ利
益ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス
如何ナル場合ニ於テモ買主カ其辨濟シタル代
金ヲ取戻シタルトキハ物ノ占有ヲ賣主ニ返還
スルコトヲ要ス

第五十八條 買主ハ契約ノ當時善意ナリシトキ
ハ右ノ外尙ホ左ノ諸件ノ辨償ヲ受ク

- 第一 買主ノ支拂ヒタル契約費用ノ部分
- 第二 買受物ニ付キ買主カ支拂ヒタル費用
ニシテ所有者ヨリ其辨償ヲ受クルコトヲ
得サルモノ
- 第三 買受物ニ生シタル増價額但意外ノ事
ニ因ルモ亦同シ
- 第四 所有者ノ請求後ニ收取シ之ニ返還ス

旨ヲ明白ニ陳述シタルトキハ此限ニ在ラス

第六十一條 右覺知カ引渡後ニ在リタルトキハ
賣主ハ買主カ即時ニ擔保訴訟ヲ行フヤ又ハ已
レト立會ヒ第五十八條ニ從ヒテ現時負擔ノ賠
償額ヲ評定スルヤニ付キ買主ヲ遲滞ニ付スル
コトヲ得

此末ノ場合ニ於テ賣主ハ其受取リタル代金ト
共ニ右評價ノ金額ヲ提供シテ供託シタルトキ
ハ縱令擔保ノ請求アルモ此他ノ責任ヲ負擔セ
ス

供託シタル金額ヲ引取ルノ權利ヲ財産編第四
百七十八條ニ從ヒテ行使シタル賣主ハ再ヒ本
條ノ許與セル權能ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十二條 他人ノ物ノ賣主ハ日後其物ノ所有
者ト爲リタルトキハ買主ヲシテ賣買ヲ認諾ス
ルヤ擔保訴訟ヲ行フヤノ一ヲ擇マシムルコト
ヲ何時ニテモ催告スルコトヲ得
右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ賣主ノ相續人ト爲

リタル真所有者ニ屬ス

第六十三條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權
又ハ虛有權ニテ第三者ニ屬スル場合ニ於テ買
主カ此部分ヲ取得スルヲ得サルコトヲ知レハ
初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ廣
狹ニ因リテ有益ナルコトヲ證スルトキハ全部
追奪ノ爲メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契
約ヲ解除スルコトヲ得
買主ハ契約ノ解除ノ求メサルトキハ買受ケタ
ル直接且現時ノ損失ノ限度ニ於テ賠償ヲ要求
スルコトヲ得

第六十四條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬
スルトキハ其部分ノ重要ノ如何ニ拘ハラズ買
主ハ損害賠償ヲ得テ契約ヲ解除スル權利ヲ有
ス
買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ買受物ノ
價格ノ減少シタルトキト雖モ常ニ此ニ對當ス
ル買受代金ト契約費用トノ部分ヲ取戻シ又其

ノ價格ノ増加シタルモハ其損害ノ賠償ヲ受ク
第六十五條 或ハ賣渡シタル土地ニ屬スルモノ
トシテ契約ニ於テ述ヘタル働方地役ノ追奪ア
リタルトキ或ハ契約ニ於テ述ヘサル人爲ヲ以
テ設定シタル受方地役ニ關シ又ハ財產ノ一分
ニ存スル用益權、賃借權ニ關シテ第三者ノ要
求アリタルトキハ第六十三條ノ規定ヲ適用ス
財產ノ全部ニ存スル用益權又ハ賃借權ニシテ
其ノ經過ス可キ殘餘時期カ建物ニ就テハ一个
年土地ニ付テハ二個年ヲ超エサルモノニ關シ
テモ亦同シ

買主ノ財產ノ全部ニ存スル用益權又ハ賃借權
ノ繼續時期カ建物ニ付テハ一个年土地ニ付テ
ハ二個年ヲ超ユ可キトキハ買主ハ尙ホ自己ニ
殘存セル權利ノ不十分ナルヲ證スルコトヲ要
セスシテ前條ニ從ヒ賣買ヲ解除スルコトヲ得
第六十六條 契約ニ於テ述ヘタルト否トヲ問ハ
ス賣渡シタル土地ニ先取特權又ハ抵當權ノ負

擔アリテ買主カ其代金ノ辨濟ノ前又ハ辨濟ノ
時其土地ヲシテ此負擔ヲ免カレシムル爲メニ
必要ナル方式ヲ履行セサルニ因リ賣主ノ債權
者ノ爲メニ所有權ヲ取上ケラレタルトキハ買
主ハ賣主ニ對シ第五十八條及ヒ第五十九條ノ
規定ニ從リテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第六十七條 差押ヘタル財產ノ競落人カ追奪ヲ
受ケタルトキハ被差押人ニ對シテ代金ノ返還
ヲ求ムルコトヲ得若シ被差押人カ無資力ナル
ニ於テハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ
テ其代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

競落人ハ差押人カ差押ノ際ニ其財產ノ債務者
ニ屬セサルコトヲ知リタルニ非サレハ之ニ對
シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又債務者
カ其財產ニ存スル第三者ノ權利ヲ詐欺ヲ以テ
隱秘シタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ
要求スルコトヲ得ス

競賣條件書ノ調製及ヒ競落ノ處理ニ任シタル

公吏ハ其職分ヲ缺キタル爲メ買主ノ錯誤ヲ惹
起シタルニ非サレハ損害賠償ノ責ニ任セス

第六十八條 債權ノ賣主ハ當然自己ノ債權ノ存
立及ヒ其有效ノ擔保ノ責ニ任ス

又賣主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ擔保ヲ諸
約シタルニ非サレハ其擔保ノ責ニ任セス
有資力ノ擔保ニ任シタル場合ニ於テモ賣主ハ
債權カ既ニ滿期ト爲リタルトキハ讓渡ノ日ニ
於ケル有資力ノミニ付キ且受取リタル代金ノ
限度ニ從ヒテ其責ニ任ス但一層廣大ナル擔保
ノ明約ト裏書ヲ以テ讓渡ス商證券ノ特別規則
トヲ妨ケス

未タ滿期ト爲ラサル債權ノ讓渡ニ於テ讓渡人
カ他ノ特約ナクシテ債務者ノ將來ノ有資力ヲ
擔保シタルトキハ其擔保ハ滿期ヨリ一个年又
無期年金權ニ付テハ其讓渡ヨリ十個年ニテ絶
止ス

第六十九條 物權ト人權トヲ問ハス等ニ係ル權

利ノ讓渡ニ於テハ讓渡人ハ特別ノ合意ナク且讓受人カ争アルコトヲ知リタルトキハ其主張ノ虛構ナラサルコトヲ擔保スルノミニシテ讓渡シタル權利ノ眞ノ成立ヲ擔保セス裁判上ト裁判外トヲ問ハス本權ニ關スル明白ノ争ノ目的タル權利ニ付テノミ右ノ規定ヲ適用ス

讓渡人ハ其主張ノ虛構ナリシ場合ニ於テハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受人カ正當ニ期望シタル利益ノ賠償ヲ負擔ス

第七十條 會社ニ於ケル自己ノ權利ヲ賣渡シタル者ハ其權利ノ存立及ヒ其賣買契約ニ示セル權利ノ廣狹ニ付テノミ擔保ノ責ニ任ス會社ノ從前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算済ト爲リタル買主ノ權利及ヒ義務ハ買主ニ利害ノ關係ヲ及ホスコト無シ買主ト會社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ

第七十一條 上ノ場合ニ於テ無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルト雖モ買主カ追奪ヲ受ケタルニ於テハ買主ハ代金ヲ返還スル責ニ任ス但買主カ賣買ノ時ニ於テ追奪ノ危險アルコトヲ了知シタルキハ賣主ハ此返還ヲ負擔セス

賣主ハ買主ノ危險負擔ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルコトノミニ因リテ亦代金ヲ返還スル責ヲ免カル然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ賣主ハ賣買ノ前後ヲ問ハス第三者ニ授與シタル權利ヨリ生スル妨礙又ハ追奪ノ擔保ヲ免カルコトヲ得ス

第七十二條 賣主カ擔保ノ義務ノ全部又ハ一分ヲ買主ノ惡意ノ故ヲ以テ免カレント主張スルトキハ賣渡物ニ關スル行為カ第三者ノ利益ノ爲メニ登記シ有リト雖モ其登記ノミニテハ買主ノ惡意ヲ證スルニ足ラス尙ホ賣主ハ登記官吏ノ認證書ニ依リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ買主

第七十五條 代金辨濟ノ場所ヲ合意セサルコトキハ其辨濟ハ有體動産ニ付テハ引渡ヲ爲ス場所不動産、債權、争ニ係ル權利又ハ會社ニ於ケル權利ニ付テハ證書ノ交付ヲ爲ス場處ニ於テ之ヲ爲ス引渡ノ前又ハ後ニ代金ノ辨濟ヲ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其辨濟ハ買主ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

カ賣買ノ前ニ此行為ヲ了知シタル直接ノ證據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十三條 財産編第三百九十九條及ヒ第四百條ハ擔保ノ爲メニスル賣主ノ召喚ニ付キ及ヒ追奪ヲ受ケタル買主カ擔保人ヲ訴訟ニ参加セシメサル爲メニ生スル失權ニ付キ之ヲ適用ス

第三款 買主ノ義務

第七十四條 買主ハ合意シタル時期ニ於テ代金ヲ辨濟スルコトヲ要ス又其時期ニ付キ特別ノ合意ナキトキハ引渡ノ時ニ於テ之ヲ辨濟スルコトヲ要ス

引渡ヲ日後ニ延フルノ合意アルトキハ代金ノ辨濟ヲモ暗ニ日後ニ延フルモノト推定ス賣主カ引渡ノ爲メ恩惠期限ヲ裁判所ヨリ得タルトキハ買主ハ代金辨濟ノ爲メ同一ノ期間ヲ享有ス

代金辨濟ノ恩惠期限引渡ノ爲メ賣主亦之ヲ享有ス

第七十六條 買受物カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ定期ノ利益ヲ生スルトキハ買主ハ引渡ノ時ヨリ當然代金ノ利息ヲ負擔ス反對ノ場合ニ於テハ利息ハ特別ノ合意又ハ辨濟ノ催告ニ依ルニ非サレハ之ヲ負擔セス

第七十七條 買主カ物上訴權ニ因リテ妨礙ヲ受ケ又ハ妨礙ヲ受クル恐アル正當ノ事由ヲ有スルトキハ賣主カ其妨礙若クハ危險ヲ止マシムルマテ又ハ追奪アリタルニ於テハ代金ヲ返還スル爲メノ保證人ヲ立ツルマテ買主ハ此訴權

ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得

此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ證スルコトヲ得ルトキハ賣買無効ノ判決ヲ求メ及ヒ擔保ノ訴權ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十八條 買受ケタル不動産ニ付キ抵當權又ハ先取特權ノ登記アルハ買主ハ滌除ノ方式ヲ行フタル後ニ非サレハ代金ヲ辨濟スル責ナシ但法律上ノ期間ニ於テ滌除ヲ行フコトヲ要ス

第七十九條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ其先取特權及ヒ第三者ニ對スル解除ノ權利ヲ保存スル爲メノ公示ヲ爲ササリシトキハ當事者雙方ノ名ヲ以テ買主ヲシテ猶豫ナク代金ヲ供託セシムルコトヲ得但其他代金ハ當事者雙方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニアラサレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第八十條 動物產ノ買主カ代金ヲ辨濟シタルト否トテ問ハス引渡ヲ受ケル權利ヲ有スル時ニ

ヲ遲滯ニ付シタルモ猶ホ履行セサルトキニ非

サレハ當然其效力ヲ生セス

第八十二條 買主カ辨濟其他ノ義務ヲ缺キタル爲メノ解除ハ買主ノ猶ホ代金ノ全部若クハ一分ノ負擔又ハ他ノ負擔ヲ明示シタル賣買證書ニ依リ登記ヲ爲シタルニ非サレハ買主ヨリ轉得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス但債權擔保編第八十二條ノ規定ヲ妨ケス

第八十三條 辨濟期限ノ定アル動產ノ賣買ニ於テ其引渡ヲ實行シタルトキハ辨濟ヲ缺キタル爲メノ賣主ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者ヲ害シテ之ヲ行フコトヲ得ス

辨濟期限ノ定ナキ賣買ニ付テハ賣主ハ引渡ヨリ八日內ニ賣買ヲ解除スルコトヲ得然レトモ善意ナル第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルコトヲ得ス

第二款 受戻權能ノ行使

第八十四條 賣主ハ賣買證書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ辨濟シタル代金ト費用ノ

於テ其引渡ヲ受ケルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ財產編第四百七十四條乃至第四百七十八條ニ從ヒテ其賣渡物ノ提供及ヒ供託ヲ爲スコトヲ得

然レトモ日用品其他速ニ敗損ス可キ物ニ付テハ賣主ハ買主ノ爲メ之ヲ轉賣スルコトヲ得ルトキハ其轉賣ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第八十一條 當事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一分ノ履行ヲ缺キタルトキハ他ノ一方ハ財產編第四百二十一條乃至第四百二十四條ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ解除ヲ請求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルコトヲ得

當事者カ解除ヲ明約シタルトキハ裁判所ハ恩惠期限ヲ許與シテ其解除ヲ延ヘシムルコトヲ得然レトモ此解除ハ履行ヲ缺キタル當事者

部分トテ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルニ於テハ其賣買ヲ解除ス可キコトヲ要約スルヲ得右期間ハ不動産ニ付テハ五ヶ年、動產ニ就テハ二ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要約ハ當然之ヲ此期限ニ短縮ス一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限內ト雖モ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

然レトモ其伸長ハ之ヲ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得此場合ニ於テハ第二十六條及ヒ第二十七條ノ規定ニ從フ

賣買後ニ於テ爲シ又ハ別證書ヲ以テ爲シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦同シ賣主ハ代金ノ半額以上ノ辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘ且其期限カ受戻ノ爲メ定メタル期間ノ半以上ニ及ヘルトキハ有效ニ受戻ノ權能ヲ要約スルコトヲ得ス

第八十五條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル條件ヲ以テ爲シタル受戻權能

ノ行使ハ買主カ第三者ニ授與シ又ハ第三者カ買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排除シテ其不動産ヲ賣主ニ復セシム但賃借權ニシテ殘期ノ一个年ヲ超エサルモノハ此限ニ在ラス動產物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動產物上ニ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十六條 賣主ノ債權者ハ買主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フコトヲ得

然レトモ買主ハ右債權者カ豫メ其債務者ノ無資力ヲ證シ且財産編第三百三十九條ニ從ヒテ受戻權能ノ行使ノ爲メ裁判上ニテ賣主ニ代位スルヲ要求スルコトヲ得

買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ價額ト第八十八條ニ從ヒテ賣主ヨリ已レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シテ債權者ノ訴ヲ止ムルコトヲ得

ヲ許スコトヲ得

買主ハ右金額ノ皆濟ヲ受クルマテ其物ノ上ニ留置權ヲ有ス

第八十九條 不動産ノ共有者ノ一人カ其不分ノ部分ヲ受戻約款ニテ賣リタル場合ニ於テ買主カ他ノ共有者ヨリ促カサレタル競賣ニ因リテ競落人ト爲リタルトキハ買主ハ前條ニ掲ケタル金額ニ競賣ノ代金ヲ加ヘテ其不動産ノ全部ニ對スルニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス又買主ハ之ニ故障ヲ述フルコトヲ得ス

買主カ自ら競賣ヲ促シタルトキハ買主ハ其賣渡シタル部分ニ付テノ受戻ヲ爲スコトヲ得又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

第九十條 孰レヨリ競賣ヲ促カシタルヲ問ハス買主ニ非サル共有者ノ一人又ハ外人ノ競落シタル場合ニ於テ賣主ハ競賣ニ召喚セラレザリシトキハ其賣渡シタル部分ニ付テノミ競落人

第八十七條 賣主カ受戻ノ約款ニテ賣渡シタル物ヲ日後抵當トシ又ハ之ニ其他ノ物權ヲ負擔セシメタルトキハ其權利ノ效力ハ買主又ハ其債權者ノ受戻權能ヲ行ヒタル後ニ非サレハ生セス

賣主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ自己ノ名ヲ以テ受戻ヲ爲スコトヲ得然レトモ讓渡前ニ賣主カ他人ニ對シテ承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ妨碍スルコトヲ得ス但其擔保權ヲ失フコト無シ

第八十八條 賣主カ受戻ノ權能ヲ行ハントスルトキハ指定ノ期間ニ賣買代價及ヒ契約費用ノ外向ホ物ノ保存費用ヲ買主ニ辨償スルコトヲ要ス

買主カ右金額ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ猶豫ナク之ヲ供託スルコトヲ要ス賣主ハ物ノ良改費用ヲモ辨償スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ此辨償ニ付テハ買主ニ猶豫

ニ對シテ受戻ノ權利ヲ有シ之ニ反スルトキハ其權利ヲ失フ

第九十一條 現物ヲ以テ分割シタルトキハ買主カ其分割ニ召喚セラレタルニ於テハ買主ハ孰レヨリ分割ヲ促カシタルヲ問ハス他ノ所有者ニ歸シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得スシテ買主ニ歸シタル部分ノミヲ受戻スコトヲ得但買主ノ供與シ又ハ受取リタル補足代金ヲ買主買主ノ間互ニ計算スルコトヲ妨ケス

賣主カ分割ニ召喚セラレザリシトキハ買主ハ選擇ヲ以テ或ハ其分割ヲ認諾シ買主ニ對シテ前項ニ示シタル權利ヲ行ヒ或ハ第八十八條ニ掲ケタル金額ヲ買主ニ辨償シ共有者ニ對シテ再分割ヲ促スコトヲ得

第九十二條 不分物ノ共有者カ一箇ノ契約及ヒ唯一ノ代價ニテ其物ヲ受戻ノ約款ヲ以テ賣渡シタルトキハ買主ハ一分ニ付キ受戻ヲ受クル

賣ナシ

又買主ハ賣主ノ一人ヨリ爲ス全部ノ受戻ニ故
障ヲ述フルコトヲ得

之ニ反シテ數人ノ共有者カ各別ノ契約ヲ以テ
各自ノ部分ヲ賣渡シタルトキハ各別ニ受戻ヲ
爲スコトヲ得但第八十九條及ヒ第九十一條ノ
規定ハ之ヲ此場合ニ適用スルコトヲ得

第九十三條 數人ノ買主カ一箇ノ契約又ハ各別
ノ契約ヲ以テ一箇ノ財産ヲ受戻ノ約款ニテ取
得シタルトキ賣主カ買主ノ間ニ分割ヲ爲サザ
ル前ニ受戻ヲ爲サント欲スルニ於テハ賣主ハ
總買主ニ對シ又ハ一人若クハ數人ノ買主ニ對
シテ其各自ノ部分ニ付キ受戻ヲ爲スヲ得
既ニ分割ヲ爲シタルトキハ賣主ハ各買主ニ對
シ分割又ハ競賣ニ因リテ其各自ニ歸シタル部
分ノミニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却
訴權

ル損害又ハ失ヒタル利益ニ付テノ賠償ヲ要求
スルコトヲ得

第九十七條 隠レタル瑕疵ヲ擔保セストノ要約

ハ賣主ヲシテ初ヨリ自ラ了知シ且詐欺ヲ以テ
隠秘シタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス

第九十八條 賣買ノ當時ニ於テ物ニ瑕疵アリタ
ルコト其瑕疵ヨリ買主ニ損害ヲ生シタルコト
及ヒ買主又ハ賣主カ其瑕疵ヲ了知シタルコト
ハ人證、鑑定其他ノ法律上ノ證據方法ヲ以テ
之ヲ證ス

第九十九條 賣買廢却、代價減少及ヒ損害賠償
ノ訴ハ左ノ期間ニ於テ之ヲ起スコトヲ要ス

第一 不動産ニ付テハ六個月

第二 動産ニ付テハ三個月

第三 動物ニ付テハ一個月

右期間ハ引渡ノ時ヨリ之ヲ起算ス

然レトモ此期間ハ買主カ瑕疵ヲ知レル證據ア
リタル日ヨリ其半ニ短縮ス但其殘期カ此半ヲ

第九十四條 動産ト不動産トヲ問ハス賣渡物ニ
賣買ノ當時ニ於テ不表見ノ瑕疵アリテ買主之
ヲ知ラス又修補スルコトヲ得ス且其瑕疵カ物
ヲシテ其性質上若クハ合意上ノ用方ニ不適當
ナラシメ又ハ買主其瑕疵ヲ知レハ初ヨリ買受
ケサル可キ程ニ物ノ使用ヲ減セシムルトキハ
買主ハ其賣買ノ廢却ヲ請求スルコトヲ得
此場合ニ於テハ買主ハ辨濟代金ト契約費用ト
ヲ取戻シ其代金ノ利息ハ請求ノ日ニ至ルマテ
ノ物ノ收益又ハ使用ト之ヲ相殺ス

第九十五條 買主カ隠レタル瑕疵ノ賣買廢却訴
權ヲ行フ可キ程ニ重大ナルヲ證スルコト能ハ
ス又ハ物ヲ保有スルコトヲ欲スルトキハ買主
ハ便益ヲ失フ割合ニ應シテ代價ノ減少ヲ請求
スルコトヲ得

第九十六條 買主カ賣主ニ對シ賣買ノ廢却又ハ
代價ノ減少ヲ得タルニ拘ハラズ賣主カ初ヨリ
其瑕疵ヲ知リタルトキハ買主ハ尙ホ其受ケタ

超エルトキニ限ル

買主カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ右期間
ニ隠レタル瑕疵ヲ覺知スル能ハサリシコトヲ
證スルトキハ其期間ノ満了後ニ於テモ訴ヲ爲
スコトヲ得此場合ニ於テハ意外ノ事又ハ不可
抗力ノ止ミタル時ヨリ通常期間ノ三分一ヲ以
テ新期間ト爲ス

第一百條 隠レタル瑕疵ニ基キタル代價減少ノ訴
權ハ買主カ買受物ヲ無償又ハ有償ニテ讓渡シ
タルモ之ヲ失ハス但有償ノ讓渡ノ場合ニ於テ
ハ其瑕疵ノ爲メ買主カ損失ヲ受ケタルトキ又
ハ讓受人ヨリ訴ヘラレ若クハ訴ヘラル、ノ恐
アルトキニ限ル

第一百一條 賣渡物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因
リテ全部又ハ半以上滅失シタルトキハ賣買廢
却訴權ヲ行フコトヲ得ス
滅失部分ノ多少ニ拘ハラズ代價減少ノ訴權ハ
殘存部分ノ割合ニ應シテ存立ス

如何ナル場合ニ於テモ賣主ハ隠レタル瑕疵ヨリ生スル全部又ハ一分ノ滅失ノ責ニ任ス

第二百二條 合式ノ強制賣却ハ賣買廢却訴權ヲモ代價減少訴權ヲモ生セス

第二百三條 或ル動物又ハ日用品ノ隠レタル瑕疵ニ付テハ特別法ヲ以テ其賣買上ノ効果ヲ定ムルニ至ルマテ本法ノ規定ヲ適用ス

第四節 不分物ノ競賣

第二百四條 不分財產ノ分割ヲ爲スニ當リ共有者ノ一人タリトモ現物ノ分割ヲ拒ム者アルトキハ其財產ノ協議賣却又ハ競賣ヲ爲シ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シテ其代金ヲ配當ス

第二百五條 共有者カ其一人若クハ第三者ニ協議賣却ヲ爲シ又ハ相互ノ間ニ競賣ヲ爲スニ付キ一致ヲ得ル能ハサルトキ又ハ共有者中ニ失踪者若クハ無能力者アルトキハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公吏ノ前ニ於テ不分物ノ競賣ヲ爲ス但民事訴訟法ニ定メタル競賣方式ニ從

ヲコトヲ要ス

共同競賣人ノ各自ハ常ニ競賣ニ外人ノ參與ヲ許スヲ要求スルコトヲ得共有者ノ一人カ失踪シ又ハ無能力ナルトキハ外人ノ參與ハ當然且必要ナリトス

第二百六條 共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハ其競賣又ハ協議賣却ハ共有者間ノ分割ノ行爲ト看做サレ會社ノ分割ニ關シ規定シテ効力ヲ有ス

第三者ニ競落又ハ協議賣却ヲ爲シタルトキハ其賣買ハ第三者ト原共有者トノ間ニ於テ本章ニ規定シタル賣買ノ効力ヲ生ス

第四章 交換

第二百七條 交換ハ當事者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ又ハ之ヲシテ諾約セシメ其對價トシテ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ諾約スル契約ナリ

相互ノ權利ノ價額カ均一ナラサルトキハ金錢其他ノ物ノ補足ヲ以テ之ヲ均一ニス

金錢ノ補足カ交換ニ供シタル物ノ價額ヲ超ユルトキハ其契約ハ之ヲ賣買ト看做ス

第二百八條 當事者ハ交換ニ供シ又ハ諾約シタル物又ハ權利ニ對スル妨礙及ヒ追奪ノ擔保ヲ相互ニ負擔ス

當事者ノ一方カ他ノ一方ノ諾約シタル物又ハ權利ヲ取得スルコトヲ得サリシトキハ其選擇ヲ以テ或ハ金錢ノ對價ヲ要求スルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自己ノ供與シタルモノヲ取戻スコトヲ得但孰レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動産ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フニトテ得ス但財產編第三百五十二條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三者ノ權原ノ登記アリタルトキニ限ル

第二百九條 賣買ノ規則ハ左ノ例外ヲ以テ交換ニ之ヲ適用ス

交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ許ス但交換物ノ價額ノ差カ間接ノ利益ヲ成ストキハ贈與ヲ禁制シ又ハ之ヲ制限スル規則ニ從フ

當事者ノ一方又ハ雙方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解除スルコトヲ要約シタルトキハ第二十七條ニ依リ賣買ノ豫約ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル條件ニ從フニ非サレハ其解除ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五章 和解

第三百十條 和解ハ當事者カ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ爲シテ既ニ生シタル爭ヲ落著セシメ又ハ生スルコト有ル可キ爭ヲ豫防スル契約ナリ

和解ノ成立、有效、効力及ヒ證據ハ下ノ規定ヲ除ク外合意ニ關スル一般ノ規則ニ從フ

第三百十一條 和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但其錯誤カ相手方ノ詐欺ニ起

因スルトキハ此限ニ在ラス

第百十二條 和解ハ偽造ノ書類又ハ無効ノ行為ニ依リ承諾シタルコトヲ理由トシテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但此等ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキ當事者ニ於テ其書類ノ偽造ヲ知ラス又ハ其行為ヲ法律ニ於テ無効ナラシムル所ノ事實ヲ知ラサリシトキハ此限ニ在ラス

第百十三條 定マリタル争ニ付キ爲シタル和解ハ新ニ發見シタル證書ニ因リテ當事者ノ一方カ争ノ目的ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ他ノ一方カ其目的ニ付キ完全且争ヲ可カラサル權利ヲ有スルコトノ顯ハレタルトキハ事實ノ錯誤ノ爲メ亦之ヲ銷除スルコトヲ得確定シタル判決又ハ攻撃スルヲ得サル契約ニ因リ既ニ争ノ落著シタル場合ニ於テ其判決又ハ契約ヲ知ラシメテ和解ヲ爲シタルトキモ亦同シ然レトモ和解カ從前ノ原因ヨリ生ルコト有ル

可キ總テノ争ヲ落著セシメ又ハ之ヲ豫防スルヲ目的トシタルトキハ當事者ノ一方ノ利益タル確定證書ノ發見ハ其和解ノ銷除ヲ生セス但其證書カ相手方ノ所爲ニ因リテ控留セラレタルトキハ此限ニ在ラス
第百十四條 有效ノ和解ハ當事者ノ相互ニ追認シタル權利又ハ利益ニシテ既ニ生シ又ハ豫見シタル争ノ目的タルモノニ付テハ當事者間ニ在テハ確定判決ノ權利ト均シキ認定ノ效力ヲ生ス此場合ニ於テハ其權利又ハ利益ハ從前ノ原因ニ由リテ保持シタルモノト看做ス但當事者雙方ニ更改ヲ爲ス意思アリシトキハ此限ニ在ラス
之ニ反シテ相互ニ供與シ又ハ諾約シタル權利又ハ利益ノ全部若クハ一分ニシテ争ノ目的タルサリシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ生シ之ヲ移轉シ若クハ之ヲ消滅セシムル有償合意ノ規則ニ從フ

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第百十五條 會社ハ數人カ各自ニ配當ス可キ利益ヲ収ムル目的ニテ或ル物ヲ共通シテ利用スル爲メ又ハ或ル事業ヲ成シ若クハ或ル職業ヲ營ム爲メ各社員カ定マリタル出資ヲ爲シ又ハ之ヲ諾約スル契約ナリ

第百十六條 商事會社ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ定ム

第百十七條 社員ノ出資ハ或ハ動産又ハ不動産ノ所有權若クハ收益金或ハ金錢又ハ技術、勞力ヲ以テスルコトヲ得
出資ハ不均一ナルコトヲ得

第百十八條 民事會社ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲メ法律ニ規定シタル方式ニ從ヒテ之ヲ公示スルコトヲ要ス但社名ヲ付

シ又ハ公示ヲ爲シタルトキハ其會社ヲ法人ト爲ス意思アリト推定ス

第百十九條 合意ノ一般ノ規則殊ニ當事者ノ承諾、能力、合意ノ目的、原因及ヒ證據ニ關スルモノハ會社ニ之ヲ適用ス

第百二十條 會社ハ其目的ノ商事ニ在ラサルモ資本ヲ株式ニ分ツトキハ商法ノ規定ニ從フ

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第百二十一條 會社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ黙止ニテ他ノ期限ヲ定メ又ハ條件ヲ附シタルトキハ此限ニ在ラス

各社員ハ會社ノ開始スル時ニ於テ其諾約シタル出資ヲ差入ルルコトヲ要ス之ヲ差入レザルトキハ其社員ハ出資ニ生スル果實及ヒ利息ヲ當然負擔ス且遲延ノ爲メ損害ヲ生シタルトキハ出資ノ金錢ヲ以テスルトキト雖モ其賠償ヲ負擔ス

第百二十二條 技術又ハ勞力ノ出資ヲ諾約シタ